神戸大学 発達科学部
神戸大学大学院 人間発達環境学研究科
2015

神戸大学 発達科学部　神戸大学大学院 人間発達環境学研究科

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11
TEL 078-803-7924（教務学生係）
FAX 078-803-7929
http://www.h.kobe-u.ac.jp/

2015

つながる 未来の世界に

発達科学部・人間発達環境学研究科キャンパスにて
観察された二重虹（2009年6月5日撮影）

Contents

沿革 2
学部長ごあいさつ 3
発達科学部 5
人間形成学科 8
心理発達論 コース 14
子ども発達論 コース 16
教育科学論 コース 18
学校教育論 コース 20
人間行動学科 22
健康発達論 コース 28
行動発達論 コース 30
身体行動論 コース 32
人間表現学科 34
人間表現論 コース 40
人間環境学科 44
自然環境論 コース 50
数理情報環境論 コース 52
生活環境論 コース 54
社会環境論 コース 56
発達支援論 コース 58
神戸大学ESD コース 61
人間発達環境学研究科 63
人間発達専攻 70
心理発達に関する研究分野 72
臨床心理学 コース 74
健康発達に関する研究分野 76
教育科学論に関する研究分野 78
子ども発達に関する研究分野 80
発達支援に関する研究分野 82
身体行動に関する研究分野 84
行動発達に関する研究分野 86
表現創造に関する研究分野 88
表現文化に関する研究分野 90
人間環境学専攻 92
自然環境論 コース 94
数理情報環境論 コース 96
生活環境論 コース 98
社会環境論 コース 100
環境先端科学（連携）講座（後期課程のみ） 102
附属組織と附属施設 105
ヒューマン・コミュニティ創成研究センター 106
心理教育相談室 108
サイエンスショップ 109
キャリア形成支援 110
発達キャンパス 112
施設紹介 114

発達科学部・人間発達環境学研究科の沿革

1874年 5月	兵庫県師範伝習所設置
1877年 1月	神戸師範学校と改称
1886年 9月	兵庫県尋常師範学校と改称
1897年10月	兵庫県師範学校と改称
1900年 4月	兵庫県第一師範学校と改称
1901年 2月	姫路に兵庫県第二師範学校を設置
1901年 8月	兵庫県第一師範学校を兵庫県御影師範学校と改称 兵庫県第二師範学校を兵庫県姫路師範学校と改称
1902年 2月	兵庫県明石女子師範学校設置
1936年 4月	兵庫県御影師範学校と兵庫県姫路師範学校を兵庫県師範学校として統合
1943年 4月	兵庫師範学校として兵庫県明石女子師範学校を包括し国立移管
1944年 4月	兵庫青年師範学校国立移管
1949年 5月	兵庫師範学校と兵庫青年師範学校を統合し神戸大学教育学部として発足
1992年10月	神戸大学教育学部を改組し，神戸大学発達科学部を設置
1997年 4月	神戸大学発達科学部と神戸大学国際文化学部を基礎とした 神戸大学大学院総合人間科学研究科修士課程を設置
1999年 4月	神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程後期課程設置
2005年 4月	神戸大学発達科学部3 学科12 講座を4 学科6 講座に改組
2005年 4月	総合人間科学研究科発達支援インスティテュートを設置
2007年 4月	神戸大学大学院総合人間科学研究科を改組し， 神戸大学大学院人間発達環境学研究科を設置
2013年 4月	神戸大学大学院人間発達環境学研究科4専攻を改組し， 人間発達専攻を設置

新たな学問的地平を切り拓く

発達科学部長・人間発達環境学研究科長
岡田 章宏 教授

1992年10月，発達科学部は，長きにわたる教育学部の伝統を引き継ぎながら，「人間の発達（human development）」を本格的に教育研究するかつてない学部として発足しました。そして，2007年4月には，総合人間科学研究科を改組し，学部での学問的営為をさらに推進する大学院として，人間発達環境学研究科を設立しました。

「人間の発達」を定義することは簡単ではありませんが，さしあたり，一人ひとりの「善き生（well-being）」を実現するために個人や集団が潜在的にもつ多彩な能力を開花させていくことと理解できます。そして，その観点から私たちの社会をながめると，いろいろな場面で「人間の発達」が阻害されていることがわかります。地球のあちこちで，深刻な地域紛争が発生し，多くの人たちが貧困にあえいでいます。自然環境の破壊も着実に進行しています。最近では，大規模な災害も頻発しています。そのなかで，人々はそれぞれがもつ様々な能力を開花させる可能性をどんどん失っているのです。

発達科学部，人間発達環境学研究科は，こうした今日の状況と対峙しながら，「人間の発達」とは何か，それを支える環境をいかにして構築するか，という人類に向けられた壮大な問いと格闘し，多様な学問的知見の自由な交流をとおして新たな学問的地平を切り拓くことを目的とする学問共同体です。私たちは，教員と職員，そして学生諸君が一体となって，このプロジェクトに挑戦していきたいと考えています。熱意あるみなさんが参加されることを期待します。

神戸大学
発達科学部

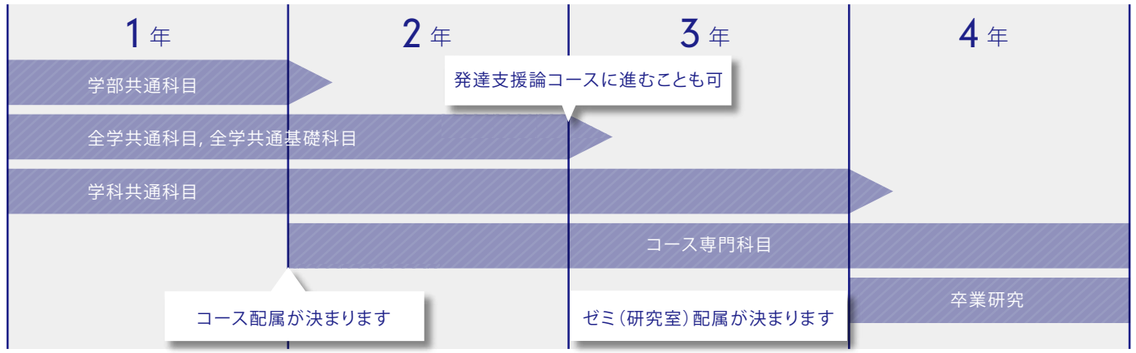
Faculty of Human Development

発達科学部の魅力

発達科学部は
人間の発達を多面的に捉え
それを支える環境を創造する学部です

人は生まれた瞬間から発達を始めます。子どものときはもちろん，歳をとっても，そして健常な人も障がいをもつ人も，いろいろな学びをとおして，それぞれが潜在的にもつ多彩な能力を顕在化させていきます。こころやからだが発達します。様々な表現力も発達します。そして，その発達を支えるのが，自然や社会，生活など私たちをとりまく様々な環境です。発達科学部は，文系理系を問わずいろいろな学問的知見を総動員して人間の発達を分析し，未来に向けてそれを促進する環境を創っていくための教育と研究を行います。

カリキュラムの特色



人間の発達とそれを支える環境を捉えるための幅広い教養と高い専門的知見を備え新たな実践知の創造を担う先導的人材を育てます

●総合的理解力を身につけるカリキュラム

人間の発達とそれを支える環境を理解するための学問領域はきわめて多岐に及びます。発達科学部では，高度な専門性をもちながら，学問領域の枠を超え個々の専門的知見を有機的に結びつける総合的理解力を身につけた人材を育成するため，特別のカリキュラムを設定しています。

1年次には，発達科学に関わる根本的な課題を広範な視点から学ぶ学部共通科目「発達科学への招待」をおくと同時に，各学科には，その課題に取り組む上で必要となる基礎的学力をつける学科共通科目が数多く設定されています。

2年次からは，希望するコースに進み，豊富な専門科目をとおして確実な知識を修得しますが，3年次にあがるときには，どの学科からでも進むことができる学科横断型の「発達支援論コース」がおかれています。社会的な要請の高い領域を中心に教育プログラムが組まれ，専門的知見の連携の可能性が実践的に試されます。

また，学部横断型の「神戸大学ESD（Education for Sustainable Development）コース」も，実践活動への参画（アクション・リサーチ）をとおして「持続可能な社会づくり」に資する人材の育成を目的におかれた総合的理解力を高める個性的なカリキュラムです。

●主体的判断力を身につける少人数対話型教育の徹底

発達科学部では，学生が主体的に学び判断できる力を身につけるため，少人数対話型教育を徹底しています。学部授業の70%が40名以下，45%が20名以下で編成され，そこでは，グループワーク，ロールプレイなど学生の主体的参加を促す工夫や，コメント・カード，レポートへのコメントなど双方向性確保のための工夫が日常的に行われています。学生は，こうした教育を受けることで，問題発見能力，効果的なプレゼンテーション能力，ディスカッション能力を涵養できます。

●実践的問題解決能力を身につけるための教育プログラム

発達科学部では，学外で活躍する人を招き，特別な体験や知見，技術を直接伝える「ゲストスピーカー制度」を積極的に活用しています。受講生からは，現実的な生きた知見を獲得でき多面的で実践的な問題把握ができるようになったと高い評価を受けています。

また，多様な価値観のなかでコミュニケーション能力を育成しつつ，より専門的な問題解決能力を実践的に身につける観点から，「スタディ・ツアー」も毎年実施しています。韓国，フィリピン，バングラデシュ等の大学やNGOと共同して，積極的に調査研究・学術交流を行っています。

発達科学部の求める学生像

発達科学部では，乳幼児期から高齢期に至るまでの人間の発達及びそれを取り巻く環境について，様々な側面から教育研究を行っています。そして，人間の発達や環境に関する諸問題をとらえ，解決するための専門的知見と問題解決能力を養成することを目指しています。そのために，次のような学生を求めています。

- ●人間の発達やそれを取り巻く環境に興味をもち，人間形成，人間行動，人間表現，人間環境のいずれかの視点から，新しい学問領域を開拓する意欲のある学生
- ●人間の発達や環境に関する現代的課題に主体的にかかわることを希望する学生
- ●高等学校等までの基礎的学力を幅広く身につけており，専門的な知識を積極的に学んでいける学生
- ●自ら問題を発見し，その問題を多面的にとらえて考察し，自分の考えをまとめる基礎的な能力を有する学生

人間形成学科

人としての育ちを「発達」と「教育」から探究する

学科の理念

人間の誕生から高齢期に至るこころ及び諸能力の発達並びに人間形成に関わる諸要因について，社会的及び文化的な観点から教育研究を行い，教養並びに心理，発達，教育及び学習に係わる専門的な知識を身に付けた人材を養成することを目的とします。

学科の特色

社会と歴史の中で発達する人間の姿を捉える

人は相互に支え合いながら成長・発達しています。文化とは，そのような社会的関係の歴史的な所産です。人間形成学科では，社会と歴史の中で生活している人間（子ども）の心や身体の発達，自然認識や社会認識の発達，言語や芸術表現の発達などを探究しています。また，人間（子ども）の発達を支える社会システムの歴史や制度について，学校教育と深く結びつけて探究しています。

人間の発達と支援の関係を総合的に捉える

人間（子ども）の発達には前進だけでなく，停滞も退行もあります。それが私たちの発達の実相です。したがって，発達を支援する方法やシステムを考える場合には，問題を幅広い視点と時間軸で捉え，総合的に取り組んでいく必要があります。人間形成学科では，4つのコースが有機的に結びついて，人間（子ども）の発達とその支援のあり様を総合的に分析し，具体的かつ実践的に探究しています。

教員志望の学生の強い味方になる

人間形成学科は，人としての育ちを「発達」と「教育」から探究する学科ですが，とくに「学校教育」との強い結びつきを特色としています。幼稚園，小学校，特別支援学校の教師を目指す人には，これらの学校の教員免許状の取得に特別に配慮したコース（学校教育論コース）が用意されています。そこでは，他コースの科目も学ぶことで，すぐれた教師へと旅立つ資質が養成されています。

履修コース

人の「心の発達」を，様々な側面から科学的に探究する
心理発達論 コース 定員：30名 ▶P14

乳幼児から青年期の子どもを対象に，子どもの教育と発達を総合的に学ぶ
子ども発達論 コース 定員：20名 ▶P16

教育や学校が今あるような仕方であるのはなぜだろう？
教育科学論 コース 定員：20名 ▶P18

小学校，幼稚園および特別支援学校の教諭の免許を取得しよう
学校教育論 コース 定員：30名 ▶P20

主な取得可能な資格免許

＊全ての学科に共通の資格免許

- 幼稚園教諭一種免許状
- 小学校教諭一種免許状
- 特別支援学校教諭一種免許状
- 学芸員*
- 社会教育主事*
- 社会福祉主事任用資格*
- 環境再生医資格*

学科長からのメッセージ

学科長　稲垣 成哲教授
（教育科学論コース）

人間形成学科では，人が生活の中で相互に支え合いながら，人として育ち，育てられていくプロセスを理論的，実証的に探っていきます。人は一生の間に，いろいろな世界やたくさんの人たちと出会い，「新しい自分」をつくりあげていきます。私たちは，いつの間にか能力や価値観を身につけているように思いますが，実際には，そこには，さまざまな発達のメカニズムがはたらいているのです。また，人間の発達は，社会や文化のありようと無関係ではありません。インターネット時代の子どもは，親の世代とはコミュニケーションのとり方も，身につける知識や技術も大きく変わっているはずです。人間形成学科では，このような社会・歴史的な観点から，人の発達とその条件について，また社会がかかえる問題の解決策について，探究していきます。

入学から卒業までの流れ・カリキュラム

	1年	2年	3年	4年	卒業後
	学部共通科目		発達支援論コースに進むことも可		進路状況はP.13参照
	全学共通科目，全学共通基礎科目				
	学科共通科目				
		コース専門科目			
	コース配属が決まります		ゼミ（研究室）配属が決まります	卒業研究	
全学共通科目	●教養原論 ●外国語科目 ●情報科目 ●健康・スポーツ科学				
学部共通科目	●発達科学への招待				
学科共通科目	●心理学入門 ●発達心理学概論 ●子ども発達論 ●子ども教育論 ●教育学概論 ●教育心理学 ●臨床心理学 ●異文化教育論 ●生涯学習論 ●教育ディベート入門 ●教職論	●道徳教育論 ●乳幼児発達論 ●児童心理学 ●青年心理学 ●児童青年精神医学 ●発達障害心理学1 ●発達障害臨床学1 ●相談心理学 ●認知発達論 ●算数教育論 ●初等体育論 ●音楽表現発達論 ●造形表現発達論 ●児童言語教育論 ●教育制度概説 ●初等社会科教育論 ●発達支援論研究	●幼児精神衛生論 ●カウンセリング ●教育の歴史人類学 ●科学技術社会と教育 ●情報化社会と教育 ●人間形成学特講		
コース専門科目 心理発達論		●心理学研究法1 ●外書講読 ●心理検査法1 ●心理統計法1・2 ●人間関係発達論 ●教育発達心理学 ●深層心理学 ●障害児発達学 ●発達障害心理学2 ●発達障害臨床学2 ●科学教育論 ●子ども社会論	●心理学研究法2 ●心理検査法2・3 ●生涯発達心理学 ●人格形成論 ●障害児指導学 ●心理発達論演習A・B・C ●知的障害の心理・生理・病理演習	●心理学研究法3	
コース専門科目 子ども発達論		●子どもの発達 ●子どもの心と教育 ●子どもと生活 ●子どものからだづくり ●子どもの認識 ●子どもの表現 ●子どもの表現教育 ●子どもとメディア ●子どもの発達支援 ●児童福祉論 ●子ども社会論 ●心理統計法 ●人間関係発達論 ●教育制度 ●異言語指導論	●外書講読 ●子ども発達論演習1・2 ●数理認識発達論 ●子どもスポーツ論 ●幼年音楽論 ●美術教育史論 ●乳幼児認知発達論 ●造形発達論 ●児童文学論 ●健康行動科学	●子ども発達研究法1・2	
コース専門科目 教育科学論		●教育学研究法1〜8 ●教育思想史 ●日本教育史 ●教育制度 ●教育政策 ●教育方法学 ●学習指導論 ●科学教育論 ●カリキュラム論 ●社会教育論 ●社会教育計画論 ●授業システム論 ●教育哲学 ●異言語指導論	●外書講読 ●教育科学論演習1・2 ●教育法 ●教育行政学 ●生活指導論 ●社会科教育方法論 ●教師教育史論	●教育科学研究1・2	
コース専門科目 学校教育論		●教育哲学 ●学習指導論 ●教育政策 ●学習障害等教育総論 ●異言語指導論 ●教育思想史 ●自然教育論 ●生活科教育論 ●国語教育方法論 ●社会科教育方法論 ●理科教育方法論 ●算数教育方法論 ●生活科教育方法論 ●音楽表現教育方法論 ●造形表現教育方法論 ●幼児環境指導法 ●幼児健康指導法 ●幼児人間関係指導法 ●幼児言語表現指導法 ●教育方法学 ●カリキュラム論 ●授業システム論 ●特別活動指導法 ●障害児発達学 ●発達障害心理学2 ●発達障害臨床学2 ●特別支援教育総論	●幼児教育内容論 ●学校教育資料調査法 ●子ども発達論演習1・2 ●教育科学論演習1・2 ●初等家政学概論 ●家庭科教育方法論 ●運動教育方法論 ●幼児音楽表現指導法 ●幼児造形表現指導法 ●教師教育史論 ●教育法 ●教育行政学 ●生活指導論 ●特別支援教育学 ●障害児指導学 ●視覚障害児発達学 ●児童文学論	●子ども発達研究法1・2 ●教育科学研究1・2	

さらに学びたい人は大学院に進学

人間発達専攻

コース配属について

2年次より各履修コースに所属します。各履修コースの定員は次のとおりです。1年次終了時に行うガイダンスで希望を調整し，履修コースを決定します。

心理発達論 コース	30名
子ども発達論 コース	20名
教育科学論 コース	20名
学校教育論 コース	30名

ゼミ配属について

3年次からゼミ（研究室）に所属します。4年次には，指導教員の下，所属するゼミ（研究室）で卒業研究を行います。各履修コースで定められたルールに従って，所属するゼミを決定します。

OB&OG INTERVIEW

INTERVIEW 01

兵庫県中央子ども家庭センター 勤務

稲田 さやか さん
（2009年3月卒）

学部と大学院での学びを活かし，人と向き合う専門職に就いて

現在，私は，兵庫県の心理職として兵庫県中央こども家庭センターに勤務しています。センターの業務は，療育手帳にかかわる心理判定や発達相談，虐待，非行問題への対応など多岐にわたります。配属される機関によって仕事は様々ですが，希望通り，こどもに関わる仕事に就くことができ，先輩に指導して頂きながら，勉強の日々です。

学部では心理学だけでなく教育学など幅広く学び，教員免許も取得しました。さらに，大学院では専門的な授業や実習で実践的に学びました。実践的な学びの中でも最も印象に残っているのは，心理教育相談室での面接と児童養護施設でのプレイセラピーです。授業やスーパーバイズを通して学んだ心理士としての姿勢が，現在の自分の軸になっていると実感します。

今後も専門性を磨きながら，「生きにくさ」を抱えている人が少しでも生きやすくなるような支援をしていきたいと思っています。

INTERVIEW 02

ひかりのくに株式会社 勤務

長田 亜里沙 さん
（人間発達科学科2004年3月卒）
（発達科学部は2005年4月に3学科を4学科に改組しました。人間発達科学科は現在の人間形成学科の前身です。）

仕事の喜びと重責の中で

現在，保育図書の編集をしています。「子どもに関わる仕事がしたい」，「本が好き」，「何かを作りたい」これらの思いが，編集の仕事を志望した原点です。

先生方をはじめ多くの方の励ましに支えられて就職できました。先輩方のご指導を受けて，現場の保育者の声を聞き，本を作っています。タイトルひとつで本の売れ行きが変わり，一語，一文字で文章の意味もニュアンスも変わってきます。

発達科学部では，卒業論文では若狭出身の女性詩人の生涯と詩を研究しました。詩を綴る中で児童劇を発見していったその女性詩人の，言葉やリズムから伝わる思いを感じ取ることを，論文作成を通じて経験させてもらえたように思います。

今日，言葉，文章のおもしろさと難しさを，読者（受け手）と著者（作り手）の橋渡しという立場で，改めて感じています。

本という形にすることは一筋縄ではいきませんが，少しでも多くの保育者のお役に立てる本を作れれば，と考えています。

INTERVIEW 03

国立国会図書館 勤務

真子 和也 さん
（人間発達科学科2006年3月卒）
（発達科学部は2005年4月に3学科を4学科に改組しました。人間発達科学科は現在の人間形成学科の前身です。）

学校教育に疑問を感じたことのある方におすすめのコースです

私は，大学入学前から現代の学校教育制度の画一性に疑問を持っていましたので，教育科学論を志望しました。それが日本経済の発展に貢献したことは否定しませんが，もっと自由なやり方があってもよいと思っていました。こうした拙い問いに対して，コースの先生方は，多くの素材を提供しながら，自分の頭で考えるよう促してくれました。

私は現在，国立国会図書館に勤務しています。今の仕事は，「立法調査業務」というもので，国会議員からの依頼に対して，図書館の蔵書や各種のデータベースを用いて作成した報告書を提供したり，将来国会で話題になりそうなテーマについて調査論文をまとめたりしています。常に複数の調査案件を抱え，書庫とデスクとの往復に明け暮れる毎日です。

学生時代に得た知識は社会でそのまま役立つものではありませんが，発達科学部で自分の頭で考える力を培ったことは，仕事の上でも，社会人として生活していく上でも，とても大きな財産となっています。

INTERVIEW 04

神戸市の小学校 勤務

原田 麻衣 さん
（2010年3月卒）

かけがえのない仲間と共に夢を実現できた大切な場所

現在，私は小学校教員として働いています。教員は小学生の時からの夢でした。発達科学部に入学した時は，周りに知り合いもいなく，不安もありましたが，学校教育論コースに入ったことでかけがえのない仲間に出会いました。

教育実習の時は，夜遅くまで残ってみんなで授業の指導案を検討したり，大学での講義では，グループに分かれて乳幼児の遊びを考えて発表したりしました。一人では成し遂げられなかったことも，信頼している仲間と共に取り組むことではじめて出来たことが数多くありました。授業以外でも，コースやゼミの仲間と公私共に楽しく充実した大学生活を送ることができました。そんな環境の中で，私は人と人との繋がりの大切さを改めて実感し，教師として，子どもたちにそのことを伝えていきたいと思いました。

今後は，子どもと一緒に遊ぶことや，子どもに近い立場で関わっていけることを最大限に生かし，子どもと共に成長していける教師になりたいと思っています。

主な進路・主な資格免許の取得状況

心理発達論 コース

主な進路

2012年度
- 関西アーバン銀行
- 京都銀行
- ダイエー
- ツジカワ
- 豊田通商
- 名古屋鉄道
- ニッセン
- 日本ピグメント
- ヤマハ
- 大阪大学職員
- 香川県職員
- 神戸税関
- 広島市職員
- 法務省
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（5名）
- 兵庫県職員
- 鳴門教育大学大学院学校教育研究科

2013年度
- 愛媛銀行
- 大津赤十字病院
- 三洋化成工業
- 滋賀銀行
- 新学社
- 学校法人高宮学園
- 日本ハムファクトリー
- パソナ
- ひかりのくに
- マンダム
- 三井住友銀行
- 三菱東京UFJ銀行
- ヤフー
- 裕幸計装
- 讀賣テレビ放送
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（3名）

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2012年度
- 幼稚園教諭一種免許状
- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状（社会）
- 特別支援学校教諭一種免許状

2013年度
- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状（社会）

子ども発達論 コース

主な進路

2012年度
- 池田泉州銀行
- 花王ロジスティクス
- カトージ
- 京都銀行
- 近畿労働金庫
- タマノイ酢
- 西日本シティ銀行
- パソナ パソナキャリアカンパニー
- ビジネスサポートセンター
- 赤穂市職員（保育士）
- 神戸市職員
- 広島市職員（保育士）
- 横浜市教員（小学）
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（2名）

2013年度
- アイ・ケイ・ケイ
- 池田泉州銀行
- エン・ジャパン
- 大阪国際 大和田中学校・高等学校講師
- 日産化学工業
- ベネッセスタイルケア
- ECC ジュニア事業部
- 大阪府教員（小学）
- 川西市教員（幼稚）
- 神戸市教員（幼稚）
- 神戸市教員（小学）
- 神戸市職員
- 高槻市職員
- 名古屋市教員（幼稚）
- 広島市職員
- 横浜市職員（保育士）
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（2名）
- 東京大学大学院教育学研究科

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2012年度
- 幼稚園教諭一種免許状
- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状（社会）
- 特別支援学校教諭一種免許状

2013年度
- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状（理科）
- 高等学校教諭一種免許状（数学）
- 特別支援学校教諭一種免許状
- 幼稚園教諭一種免許状　・学芸員

教育科学論 コース

主な進路

2012年度
- イオンリテール
- カゴメ
- グロップ
- 西日本電信電話
- 日本入試センター
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（3名）
- 福井大学大学院教育学研究科

2013年度
- 中国銀行
- 日本発条
- 長谷工コーポレーション
- 三井住友信託銀行
- 愛媛県職員
- 和歌山県教員（小学）
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（1名）
- 神戸大学大学院国際協力研究科

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2012年度
- 幼稚園教諭一種免許状
- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状（数学）
- 高等学校教諭一種免許状（数学）
- 特別支援学校教諭一種免許状

2013年度
- 小学校教諭一種免許状
- 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）

学校教育論 コース

主な進路

2012年度
- ウィル
- バリューマネジメント
- 京都女子学園職員
- ソフトバンクテレコム
- 大阪府教員（小学）
- 神戸市教員（小学）
- 豊中市職員(保育士・幼稚園教諭)
- 広島県教員（小学）
- 横浜市教員(小学)
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（7名）
- 岐阜大学大学院教育学研究科

2013年度
- 甲子園学院小学校教員
- 成基コミュニティグループ
- ニトリ　・兵庫六甲農業協同組合
- ボーネルンド
- フィリップ モリス ジャパン
- 愛知県教員（小学）
- 京都市職員
- 京都府教員（小学）
- 神戸市教員（小学）
- 神戸市職員
- 宝塚市教員（幼稚）
- 兵庫県教員（小学）
- 兵庫県教員（中学）
- 兵庫県職員
- 和歌山県教員（小学）
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（3名）
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科研究生

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2012年度
- 幼稚園教諭一種免許状
- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状（家庭）
- 中学校教諭一種免許状（数学）
- 中学校教諭一種免許状（理科）
- 高等学校教諭一種免許状（家庭）
- 高等学校教諭一種免許状（数学）
- 高等学校教諭一種免許状（理科）
- 特別支援学校教諭一種免許状

2013年度
- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状（社会）
- 中学校教諭一種免許状（家庭）
- 中学校教諭一種免許状（数学）
- 高等学校教諭一種免許状（家庭）
- 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）
- 高等学校教諭一種免許状（公民）
- 高等学校教諭一種免許状（数学）
- 特別支援学校教諭一種免許状
- 幼稚園教諭一種免許状

心理発達論 コース

Course Keyword【コースキーワード】

□心理学　□発達障害
□発達　□人格発達
□カウンセリング　□心理検査

人の「心の発達」を，様々な側面から科学的に探究する

人の生涯は，受胎に始まり，誕生，赤ちゃんの時代，子どもの時代，青少年の時代，大人の時代，高齢の時代を経て，死で終わります。こうした生涯のそれぞれの時代に重要な「心の発達」があるとともに，各時代の「心の発達」が相互に影響しています。心理発達論コースでは，心の発達の様相とその支援とについて，発達心理学を中心に，様々な学問領域から学びます。具体的には，個々人が自分らしさをどのように形成してゆくのかという人格発達，人の認識・思考・判断等の変化を探る認知発達，心の病をどのように理解し，ケアするかという臨床心理学，発達の障害をどのようにとらえ，支援するかという発達障害学などです。本コースでは，これらの学問領域における理論や知見を学ぶことに加え，心理学の手法を用いて心理学的知見を見いだし，それを卒業論文にまとめることを4年間のゴールとしています。そのため，心理学概論・各論の授業と平行して，実験法や観察法，質問紙法，検査法などの心理学研究法を獲得していくカリキュラムが組まれています。2年生ではまず，様々な研究法を実習し，データ分析のための統計法も学びます。3年生になると，計画立案－データ採取－分析－結果解釈という研究プロセスを，ゼミの仲間と共同で経験します。4年生では，個人の関心から研究テーマを設定し，一人で卒業研究に臨みます。卒業後の進路は様々で，心理学に関連する仕事もそうでない仕事もあります。しかし，心とその発達について，苦労して採取した生のデータで，自分の考えた仮説を実証し，結果をレポートや論文の形式で発信するという，科学的探究を経験してきたことは，卒業生の将来に，有形無形の影響を与えています。カウンセラー等の心理職を目指す人は，大学院に進学し，臨床心理士の資格を取得します。

主なコース専門科目

□心理学研究法1　□深層心理学　□子ども社会論　□障害児指導学
□心理検査法1　□障害児発達学　□心理学研究法2　□心理発達論演習A・B・C
□心理統計法1・2　□発達障害心理学2　□心理検査法2・3　□知的障害の心理・生理・病理演習
□人間関係発達論　□発達障害臨床学2　□生涯発達心理学　□心理学研究法3
□教育発達心理学　□科学教育論　□人格形成論

スタッフと研究分野・研究テーマ

相澤 直樹 准教授	赤木 和重 准教授	伊藤 俊樹 准教授	河﨑 佳子 教授	齊藤 誠一 准教授
臨床心理学，臨床心理検査（投影法）	発達障害心理学	臨床心理学	臨床心理学，発達臨床心理学	発達心理学
青年期における自己愛的傾向と対人恐怖的傾向に関する調査研究を行っています。ロールシャッハ検査法を中心とする心理検査法（投影法）について実践的に研究しています。	自閉症児のコミュニケーションの発達に関心をもって研究しています。特に自閉症児が他の子どもに「教える」という行動の発達に注目しています。	臨床心理学を専攻しています。特にアートを心理療法に用いた芸術療法や心理療法で相談者のイメージがどのように変わっていくかを研究しています。	聴覚障害児の心理発達と家族支援について研究してきました。近年は，被虐待児童への心理的ケアについて乳児院・児童養護施設を舞台に取り組んでいます。	思春期の身体発達や性的成熟が，その子どもや，親・友人などの周囲の人たちにどのような影響を与えるかを研究しています。

坂本 美紀 准教授	谷 冬彦 准教授	鳥居 深雪 教授	林 創 准教授	森岡 正芳 教授
教育心理学	人格心理学	発達障害臨床学	認知発達心理学，教育心理学	臨床心理学，文化心理学，カウンセリング
教科学習における知識の獲得とその活用について，学習者の内的過程と学習環境づくりの両面から研究しています。	青年期におけるアイデンティティ形成や自己形成の研究を中心として，人格（パーソナリティ）の生涯発達に関して広い視野で研究をしています。	読み書きが苦手，多動，社会的な意味の理解が苦手，といった様々な困難さの背景にある脳機能と効果的な支援方法について研究しています。	幼児期から児童期を中心とした認知発達に関心があり，とくに他者の心の理解と関連して，社会性やコミュニケーションの発達に関する研究をしています。	ナラティヴ（物語）や対話的自己という視点からトラウマのケア，心身相関，家族関係，文化と癒しの問題に取り組んでいます。

吉田 圭吾 教授
臨床心理学
幼小中高大を中心とした教育現場における教育相談の理論と実際，保護者面接の在り方，発達障害や精神障害を抱える人へのアプローチ方法について研究しています。

主な卒業研究テーマ

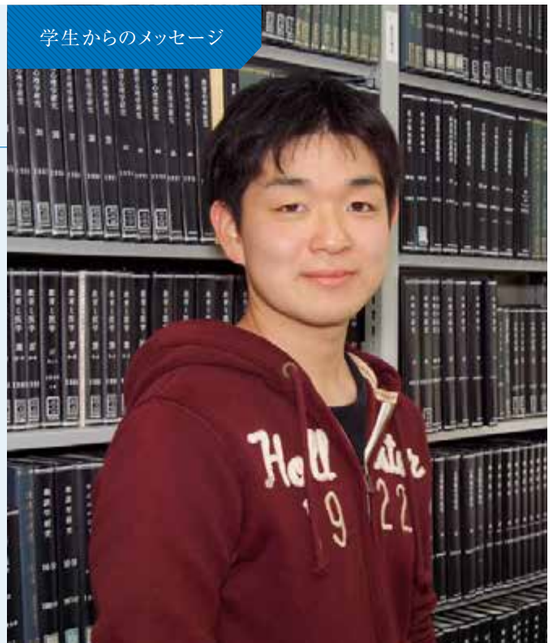
- 大学生の一般企業への就職活動における進路確定プロセス
- 特別養護老人ホームの介護職員と利用者間で生じる心理的困難についての質的検討
- 妊娠期女性における「親になる」意識の形成過程
- CMC(Computer-Medicated Communication)における人間関係形成過程について
- 青年期における自己受容と他者受容に関する研究 ―批判的思考，社会的迷惑行為との関連について―
- 青年期の親子関係が青年の精神的自立と他者への依存性に及ぼす影響について
- 友人関係のタイプ別に見た大学生の学校適応と自己嫌悪感，本来感 ―学校適応，自己嫌悪感，本来感に影響を与える要因に注目して
- ジャルゴン的独語の目立つ自閉症幼児の被慣用的言語行動の機能変化 ―特定の相手の形成・他者理解の発達的変化を軸に
- 大学生の関係性攻撃と社会的情報処理の関連について
- ソシオメータ理論の立場における他者の評価と自尊心に関する研究
- 中学生の居場所と，抑うつ傾向，自己肯定感との関連
- 青年期女子の就業意識の形成背景に関する研究
- 幼児期における早期発達支援 ―支援のための気づきを深める
- テレビゲームと社会性の関連に関する一考察
- 被相談行動がアイデンティティ形成に及ぼす影響
- 女子青年期における化粧行動に関する研究
- ジェンダー・アイデンティティと適応，食行動異常傾向との関連
- 女子大学生のインテリアの色彩嗜好と性格特性に関する分析
- 教師の援助成果に教師－生徒関係が及ぼす影響
- 読み書き困難における認知特性の検討 ―ある小学生の事例から
- 摂食障害当事者の語りに関する研究 ―自助グループの役割に着目して
- 精神疾患患者との関わりを通した地域訪問支援の在り方についての検討

教員からのメッセージ

対人関係における「傷つきやすさ」を超えて

相澤 直樹 准教授（臨床心理学,臨床心理検査（投影法））

私たちのゼミでは,心の成長にともなう自己や対人関係に関わる問題を幅広く研究しています。とくに対人場面における「傷つきやすさ」を主要な研究テーマとして,いわゆる対人恐怖や自己愛（ナルシシズム）の問題を発達的観点と臨床的観点から解明しています。それは,単に傷つきやすさを説明することではなく,人の心の成長の過渡的な姿としてその痛みを抱え,乗り越えていく道を探求することでもあります。ただし,そのようなテーマに限らず,ゼミの学生には自分自身に関心の深い研究テーマを発見するように勧めています。なぜならば,心理学はそのようにしてはじめて息の長い取り組みが可能となるからです。また,実際の人々の心から学ぶことも大切なことと考えていますので,研究手法としては調査研究や実践研究などを指導しています。そのほか,臨床実践分野においては,心の問題に悩む人々を対象としたロールシャッハ検査法の研究にも取り組んでいます。



学生からのメッセージ

人間とは関係性を通して発達していく社会的存在である

福田 昇平 さん（心理発達論コース4年生）

私は大学入学時からこのコースへ入り,カウンセリング等の臨床心理学について勉強し,それを生かした仕事をしようと考えていました。人は社会の中で,人と人との関係を切り離して生きていくことはできません。この関係を専門的に扱う心理学という学問に関心がありました。

心理発達論コースでは,教員から学生に向けて行う講義と学生主体の演習があります。WISCやロールシャッハテストなどの心理検査を学生同士で実施しあったり,心理学の研究に関しても,2年では研究のための基礎を学び,ミューラー・リヤーの錯視などを題材として,実際に論文を書き,3年ではゼミごとに学生主体の研究を1つ完成させ,4年では学生各自の関心に基づいて卒業論文を執筆するというように,心理学の演習も数多くあります。

心理学は日常生活にも応用できる幅の広い学問なので,勉強すればするほど面白くなります。是非,このコースで心理学の面白さに触れて下さい。

子ども発達論 コース

Course Keyword【コースキーワード】

□子どもの発達　□子どものからだづくり
□乳幼児教育学　□児童文学
□子どもの数理認識　□子どもの表現教育
□幼年音楽

乳幼児から青年期の子どもを対象に，子どもの教育と発達を総合的に学ぶ

①子ども発達論コースは，乳幼児から青年期の子どもを対象に，心やからだの発達と教育，言語・音楽・造形表現の発達と教育，数理認識，発達と教育に関する専門領域を学び，子どもの教育と発達を総合的に学びます。

②子どもの教育や子どもと関わる仕事を目指す方，子どもの文化に興味のある方，子どもの心やからだの発達と教育の謎に迫りたい方などとともに，子どもを多面的に学び研究していきます。

③一方では，「子どもの認識と表現の発達」として，家庭・地域での生活体験や学校教育ともかかわって，言語表現，数理認識，運動発達，音楽表現，造形表現等の領域について学びます。

④他方では，今日の子ども達がかかえる困難や発達のもつれに焦点をあてて，家庭，地域，学校などでの教育実践や支援のあり方について学びます。

主なコース専門科目

□子どもの発達　□子どもの表現　□子ども社会論　□子ども発達論演習1・2　□乳幼児認知発達論
□子どもの心と教育　□子どもの表現教育　□心理統計法　□数理認識発達論　□造形発達論
□子どもと生活　□子どもとメディア　□人間関係発達論　□子どもスポーツ論　□児童文学論
□子どものからだづくり　□子どもの発達支援　□教育制度　□幼年音楽論　□健康行動科学
□子どもの認識　□児童福祉論　□異言語指導論　□美術教育史論　□子ども発達研究法1・2

スタッフと研究分野・研究テーマ

岡部 恭幸 准教授
数理認識論，数学教育
算数・数学の授業の中で子どもたちはどのように概念を形成してくのか，またどのように指導が効果的なのかについて研究しています。

北野 幸子 准教授
乳幼児教育学，保育学
子ども特に乳幼児（0〜8歳くらい）の遊び・生活・学びの内容や，乳幼児を教育する専門職の専門性について研究しています。

木下 孝司 教授
発達心理学
乳幼児や障害をもつ子どもたちが，発達の主体となり，相互にコミュニケーションを通して理解し合うプロセスについて研究しています。

國土 将平 教授
身体発育発達，保健体育科教育，健康・スポーツ測定
子どもの身体の発達や健康，体力・運動能力・運動動作の発達を理解し，それらに影響を与える教育・学習や生活環境，生活習慣との関係を探っています。

五味 克久 教授
幼年音楽，リトミック，合唱指揮
音楽でいかに遊ぶかを考えています。一つは以前からの関心であるリトミックについてです。もう一つは，手作り楽器で音の発見というテーマです。

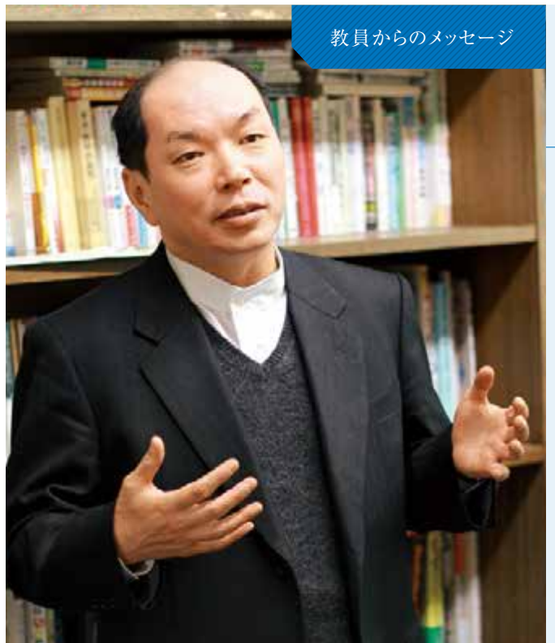
鈴木 幹雄 教授
図工・美術教育学，芸術教育に関連した教育学
（1）子どもの心に語りかける教師たち・自分の中に変化を発見する子ども達，或いは（2）モダニズムの精神の洗礼を受けた教師達とその改革的教育について研究しています。

目黒 強 准教授
児童文学，国語教育
近代日本において児童文学というジャンルがどのように成立したのかについて研究しています。

主な卒業研究テーマ

- 現代の小学生における植物遊び体験の実態調査
- 人々は魅力的な芸術教育をどのようにつくり上げてきたのか —3人の芸術教育者の試み—
- 人形を用いたふり遊びにおける幼児の理解とコミュニケーションの発達 —子ども–人形–おとなの三者関係に着目して—
- 児童養護施設における読書環境の実態
- 保育用品としての「おどうぐばこ」の歴史
- 文学教育におけるメディアリテラシーの育成 —「注文の多い料理店」を事例として—
- 3歳児クラスの仲間関係の発達における身体接触の役割について
- 幼児期における言語活動としての対話型美術鑑賞
- 子どもとの相互作用を重視した保育実践の検討 〜臨床美術の分析を中心に〜
- 幼児期の科学教育 〜科学絵本の読み聞かせを通して〜
- 2，3歳児の砂山や砂山作りから発展した遊びの特徴
- イリノイ州立大学幼児教育学研究者の幼児教育観についての一考察 —ラウラ・E・バーグ氏の著作を手がかりに—
- 3歳児クラスにおけるトラブルの発達 〜未解決のトラブルに着目して〜
- 4歳児はどのように絵本をとらえるか —昔話「三びきのこぶた」の読み聞かせを通して—
- 子育てを通して母親が成長していくプロセス —幼児・学童期の子どもをもつ母親の語りの分析から—
- 子どもとパズル遊びに関する研究
- 子どもの赤ちゃん返りの実際と教育的対応に関する研究
- 地域における子育て支援政策の展開 —地域子育て支援センター事業に着目して—
- 地域に対する理解や興味を深めるための授業の工夫についての考察 —総合的な学習の時間において—
- 知育玩具とその対象年齢
- 父親の育児参加とその影響 —父母の違いに着目して—
- 定期的な冒険教育活動が子どもの意識や態度に与える影響
- 表現の魅力を伝える教育についての考察

教員からのメッセージ



算数・数学についての子どもの「わかり」を解き明かす

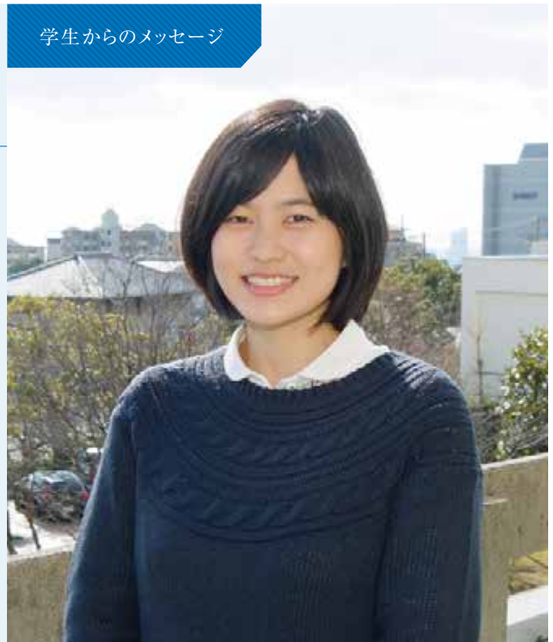
岡部 恭幸 准教授（数理認識論，数学教育）

子どもが算数・数学がわかるようになるとはどういうことでしょうか。繰り返し練習さえすればいつかわかるようになるのでしょうか。授業に積極的に取り組み，しっかり発表すればわかるようになるのでしょうか。これらの答えを見つけるのは実は簡単なことではありません。

私達の研究室では数理認識の発達と教育についてのいくつかの研究を行っています。子どもはどのように数理概念をとらえているのでしょうか。さらに，子どもが獲得すべき概念はどのような構造をもっているのでしょうか。また，子どもはそれをどのように獲得していくのでしょうか。子どもたちの「わかり」は，まだまだ解き明かしていくべき「謎」に満ちあふれています。

また，この研究室では，研究で得られた知見をもとに，現場の先生方とも協力しながら教育内容や指導方法の開発も行っています。子どもの「わかり」を大切にする算数・数学教育をともに創っていきたいと考えています。

学生からのメッセージ



さまざまな分野から子どもについて学び，子どもの世界を感じる

名坂 友里 さん（子ども発達論コース4年生）

子どもについてさまざまな分野から学んでいくのがこのコースの最大の魅力です。教育や心理，数理認識，メディア環境，スポーツ，芸術などから子どもについて理解を深めていきます。

講義で先生の話を聞いて学ぶだけでなく，おもちゃで遊んだり，紙芝居を作って発表したりする授業もあります。子どもの発達支援という授業では，「赤ちゃん先生」といって生後1歳前後の赤ちゃんと触れあったりお母さんから子育てについて話を聞いたりする機会があり，私自身とても印象に残っています。身体を使って実践してみることで学べることも多く，頭で考えるだけが勉強ではないのだと感じます。

コースの人数が少ないこともあり，先生と学生の距離が近く，とてもアットホームな雰囲気です。子どもが好きな人，子どものことを深く学びたいと思っている人はぜひ一緒に子どもの世界を学んでいきましょう。

教育科学論 コース

Course Keyword【コースキーワード】

- □教育の歴史
- □教育のしくみ
- □教育の方法
- □社会科教育
- □科学教育
- □美術教育

教育や学校が今あるような仕方であるのはなぜだろう?

「科学・サイエンス」という言葉で皆さんが思い浮かべるのは，おそらく自然科学や科学技術のイメージではないでしょうか。しかし，この言葉の語源「スキエンティア」（ラテン語）は，「物事が今のような仕方であるのはなぜかについて知る」という意味なのです。私たち教育科学論コースが目指すのは，まさに，「教育や学校のいろいろな現象やあり方が今のような仕方であるのはなぜか，そしてそれは望ましいあり方か?」を問うことです。皆さんは今まさに学校で教育を受けていますね。学校があり先生がいていろいろな教科の授業が行われる。このような皆さんにとって自明の教育のあり方は，実は，法律・制度・行政・財政のルールや枠組みに即して運営され，しかも，このような学校教育制度が成立したのは，人類史的に見ればごく最近のことにすぎません。また，各教科の内容はそれぞれ，やはり人類の長期にわたる思索，探究，試行の結果が凝縮されたものですし，それを教える先生の教え方についても，実にさまざまな理論や方法の探究の歴史があります。たとえれば，いくつもの長い川が合流した地点に皆さんの学校は立っていて，そこに皆さんがいるわけです。では，その「川」は今後どう流れていくか。それは皆さんにとってわからないだけではなく，実は私たち大人にもわかりません。でも，今よりももっとたくさんの豊かな水が活き活きと流れる川のあり方がきっとあるはずです。その「あり方」を皆さんと共に考えてみたい。それが，教育科学論コースのスタッフ一同の願いです。

主なコース専門科目

- □教育学研究法1〜8
- □教育思想史
- □日本教育史
- □教育制度
- □教育政策
- □教育方法学
- □学習指導論
- □科学教育論
- □カリキュラム論
- □社会教育論
- □社会教育計画論
- □授業システム論
- □教育哲学
- □異言語指導論
- □造形発達論
- □教育科学論演習1・2
- □教育法
- □教育行政学
- □生活指導論
- □社会科教育方法論
- □教師教育史論
- □教育科学研究1・2

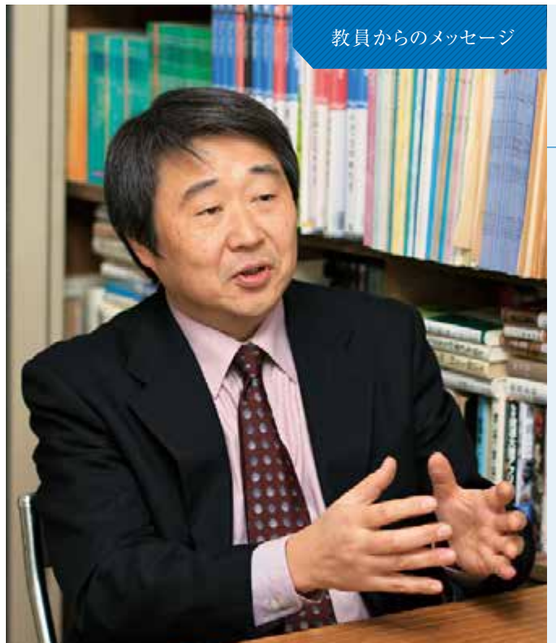
スタッフと研究分野・研究テーマ

稲垣 成哲 教授	奥山 和子 講師	川地 亜弥子 准教授	勅使河原 君江 講師	船寄 俊雄 教授
科学教育	日本語教育, 日本事情, 異文化間教育	教育方法学	美術教育	日本教育史, 教育学
科学教育におけるテクノロジを利用した学習支援のための理論, 方法, 評価及び実践デザインの研究を行っています。	若者の内向き志向が嘆かれていますが, 一歩足を踏み出してこの島国を出ることができるのは皆さんの特権です。英語力や奨学金など留学の相談に乗り皆さんを支援をします。	国内外の創造的な教育実践に注目し, わかる・楽しい・感動のある授業づくり, 安心できる集団づくりについて研究しています。	美術を通して子どもを理解し発達支援をする研究をしています。つまり, この研究は美術を通して子どもを知ることで, 私たちは人間に共通する美について理解する事につながる研究なのです。	「子どもとは何か」「学校とは何か」「教師とは何か」「教育とは何か」, このような問いへの解答を歴史の中に求めて研究を行っています。
山口 悦司 准教授	**山下 晃一 准教授**	**吉永 潤 准教授**	**渡部 昭男 教授**	**渡邊 隆信 教授**
科学教育	教育制度論	社会認識教育論	教育行政学（地域教育学, 特別ニーズ教育）	西洋教育史, 教育哲学
現在, 子どもから大人までが, いろいろな場所で「科学」を学んでいます。どうすれば, それらの科学の学びをよりよく支援できるのかについて研究してます。	教育制度改革論（子どもの豊かな育ちの保障に向けて, 地域が学校に関与するしくみや, 学校内部で教職員同士が協働するしくみ等）に関する研究をしています。	幼稚園の砂場のケンカから国際紛争まで(!?), 他者とうまく共存していくのはなかなか難しい。どうすれば紛争は解決, または回避できるのだろう。	「学校」は個人的な体験と想い出の場に留まりません。特別ニーズ児を含む人間発達や地域創造の視点から教育行政の在り方を探求しています。	教育の歴史は改革の歴史でした。その改革の一つのピークである20世紀初頭の「新教育」の研究を通して, 今日の教育課題解決への示唆を得たいと考えています。

主な卒業研究テーマ

- 神戸ノートの有用性と課題
- 現代米国における学校評価原理の展開と意義 — Value-Addedモデルをめぐる議論
- 女性の「性」と「病」—『ニンフォマニア』と近代イギリスの性道徳
- 「子の利益のための」親権—平成23年民法等改正に係る審議会議事録を手がかりに
- スクールソーシャルワークの可能性とこれからの展望?教育と福祉の連携をめぐる議論
- 小学校理科におけるアーギュメント・スキルの育成—２つの単元を通したスキル定着の評価
- アーギュメント・スキルの育成を目指した実践的研究—小学校第5学年「振り子の運動」の教授方略
- 大阪府における教育基本条例案の政策過程分析
- 少年院教育をめぐる現状と課題—社会で生きるということを、非社会から学ぶ
- 「おいしい!」を追求した学校給食
- 幼年期の子どもが評価する科学絵本の特徴—『かがくのとも復刻版』を事例として

教員からのメッセージ



教育の歴史を知ることが，明日の教育を拓くカギである

船寄 俊雄 教授（日本教育史, 教育学）

新聞やテレビを通して，毎日のように，児童虐待，いじめ，不登校など深刻な教育問題が報じられています。私の研究室では，これらの問題を解決する現実的な処方箋を考えると同時に，これらの問題が歴史的にどのように推移し，その時々にどのような解決策を人々は選択してきたのかという教育史的思考方法を鍛えています。

ゼミは，3年生と4年生合同で行い，4年生は先輩として緊張感を持って卒業研究に取り組み，3年生は4年生と身近に交流することにより，早くから卒業研究へ向けた取り組みができます。また，学部生と大学院生との合同ゼミも行い，研究者の卵である先輩からも指導してもらいます。私の専門は，日本の教員とその養成制度の歴史研究ですが，ゼミ生は私の専門分野にこだわらずに自らが関心を持つテーマに取り組んでいます。大学史，教科書史，子ども史，国語科教育史，道徳教育史など教育の歴史に関して幅広いテーマの研究を行っています。

学生からのメッセージ

目には見えない教育を考える －学校ってどんなところ?

平谷 真由 さん（教育科学論コース4年生）

教育科学論コースの特徴は,実際に子どもたちとふれあうその一歩手前の,カリキュラムや制度,歴史などから教育にアプローチしていくところだと思います。一口に「教育」といっても,“現場”だけではなく“目には見えない部分”がたくさんあることに,実際ハッとさせられることが多いです。

先生方のご講義は自分が今まで受けてきた教育場面でのあれやこれやと絡めて考えられるので,自然と興味が湧いてきますし,学生同士の議論も盛り上がります。私自身,入学当初は障害児教育について関心があり他コースを考えていましたが,一回生のときに受けた教育史の授業や少人数であたたかい雰囲気に惹かれて本コースを志望しました。

本コースの学生は教育制度や教育行政に関心がある人はもちろん,教師を目指す人,大学院進学を考える人,なんとなく興味を惹かれて入った人…など,小規模ながら文字通り十人十色であり,刺激し合える大好きな仲間たちです。

学校教育論 コース

Course Keyword【コースキーワード】

- □幅広い教養
- □発達を踏まえた実践力
- □協同力
- □小学校教諭
- □幼稚園教諭
- □特別支援学校教諭

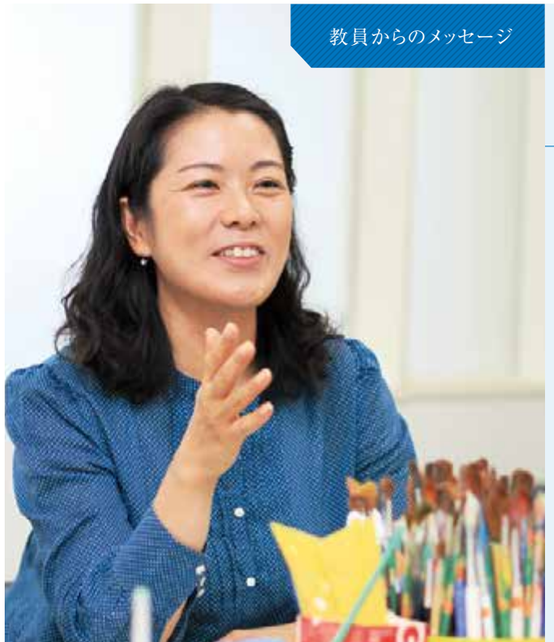
小学校，幼稚園および特別支援学校の教諭の免許を取得しよう

小学校や幼稚園，特別支援学校の教師を目指す人たちが，学校教育を通じた人間発達と人間形成に関して，理論的かつ実践的に学びます。

コースの所定の科目を履修することにより，小学校教諭，幼稚園教諭および特別支援学校教諭の資格を取得することができます。そのために，コースに所属する学生にはまず，人間，文化，社会，自然のさまざまな事象について幅広く学ぶことを求めます。それらに関する広い関心と教養が，優れた学校教育実践の基礎として不可欠だからです。その上で，このコースでは，適切な学習環境づくりと発達支援のための子ども理解の方法，各教科をはじめ，道徳，総合的な学習などの指導法，さらには学校教育の歴史，制度など，教師として必要な専門的知識，技能についての学習を行います。それらの学習の成果を，実践的場面で，つまり実際の子どもを前にして試す場が教育実習です。教育実習を通して，教職の意義への理解と教育への情熱はいっそう深まることでしょう。以上の学びの集大成としての卒業研究は，「子ども発達論」か「教育科学論」のいずれかのコースの教員のゼミに所属してまとめます。子どもの発達や学校教育に関する多様な課題領域の中から「自分ならでは」のテーマを選択し，1年以上をかけて追究していきます。

主なコース専門科目

- □教育哲学
- □学習指導論
- □教育政策
- □学習障害等教育総論
- □異言語指導論
- □教育思想史
- □幼児環境指導法
- □幼児健康指導法
- □幼児人間関係指導法
- □幼児言語表現指導法
- □教育方法学
- □カリキュラム論
- □授業システム論
- □特別活動指導法
- □障害児発達学
- □特別支援教育総論
- □幼児教育内容論
- □学校教育資料調査法
- □教師教育史論
- □教育法
- □教育行政学
- □生活指導論
- □特別支援教育学
- □障害児指導学
- □視覚障害児発達学



教員からのメッセージ

美術を通した人間の発達を考える

勅使河原 君江 講師（美術教育）

私たちの研究室では，美術を通して人を理解し，その発達を支援する研究に取り組んでいます。

実践研究としては，継続的に神戸市内の美術館と美術教育普及活動の連携を行っています。この活動では，知識や技法を重視するのではなく，10歳の子どもならば10年の経験値を大切にした美術鑑賞や制作を行い，70歳の大人は70年の経験をもつ人にしかできない作品との向き合い方や表現を大切にしています。鑑賞の手法として，対話を基本とした美術鑑賞を中心に行い，その後の制作へとつなげる活動を実施しています。このように美術活動では，ひとりひとりの異なった美術との関わり方があり，それを共有する事で，自分でも気づかなかった新たな視点を見つけることができます。生涯にわたった美術を通した人の発達に貢献できる様に，ゼミの学生達と頑張っています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

稲垣 成哲 教授	岡部 恭幸 准教授	奥山 和子 講師	川地 亜弥子 准教授	北野 幸子 准教授
科学教育	数理認識論，数学教育	日本語教育，日本事情，異文化間教育	教育方法学	乳幼児教育学，保育学
科学教育におけるテクノロジを利用した学習支援のための理論，方法，評価及び実践デザインの研究を行っています。	算数・数学の授業の中で子どもたちはどのように概念を形成してくのか，またどのように指導が効果的なのかについて研究しています。	若者の内向き志向が嘆かれていますが，一歩足を踏み出してこの島国を出ることができるのは皆さんの特権です。英語力や奨学金など留学の相談に乗り皆さんを支援をします。	国内外の創造的な教育実践に注目し，わかる・楽しい・感動のある授業づくり，安心できる集団づくりについて研究しています。	子ども特に乳幼児（0〜8歳くらい）の遊び・生活・学びの内容や，乳幼児を教育する専門職の専門性について研究しています。
木下 孝司 教授	國土 将平 教授	五味 克久 教授	鈴木 幹雄 教授	勅使河原 君江 講師
発達心理学	身体発育発達，保健体育科教育，健康・スポーツ測定	幼年音楽，リトミック，合唱指揮	図工・美術教育学，芸術教育に関連した教育学	美術教育
乳幼児や障害をもつ子どもたちが，発達の主体となり，相互にコミュニケーションを通して理解し合うプロセスについて研究しています。	子どもの身体の発達や健康，体力・運動能力・運動動作の発達を理解し，それらに影響を与える教育・学習や生活環境，生活習慣との関係を探っています。	音楽でいかに遊ぶかを考えています。一つは以前からの関心であるリトミックについてです。もう一つは，手作り楽器で音の発見というテーマです。	(1) 子どもの心に語りかける教師たち・自分の中に変化を発見する子ども達，或いは (2) モダニズムの精神の洗礼を受けた教師達とその改革的教育について研究しています。	美術を通して子どもを理解し発達支援をする研究をしています。つまり，この研究は美術を通して子どもを知ることで，私たちは人間に共通する美について理解する事につながる研究なのです。
船寄 俊雄 教授	目黒 強 准教授	山口 悦司 准教授	山下 晃一 准教授	吉永 潤 准教授
日本教育史，教育学	児童文学，国語教育	科学教育	教育制度論	社会認識教育論
「子どもとは何か」「学校とは何か」「教師とは何か」「教育とは何か」，このような問いへの解答を歴史の中に求めて研究を行っています。	近代日本において児童文学というジャンルがどのように成立したのかについて研究しています。	現在，子どもから大人までが，いろいろな場所で「科学」を学んでいます。どうすれば，それらの科学の学びをよりよく支援できるのかについて研究してます。	教育制度改革論（子どもの豊かな育ちの保障に向けて，地域が学校に関与するしくみや，学校内部で教職員同士が協働するしくみ等）に関する研究をしています。	幼稚園の砂場のケンカから国際紛争まで（!?），他者とうまく共存していくのはなかなか難しい。どうすれば紛争は解決，または回避できるのだろう。
			渡部 昭男 教授	渡邊 隆信 教授
			教育行政学（地域教育学，特別ニーズ教育）	西洋教育史，教育哲学
			「学校」は個人的な体験と想い出の場に留まりません。特別ニーズ児を含む人間発達や地域創造の視点から教育行政の在り方を探求しています。	教育の歴史は改革の歴史でした。その改革の一つのピークである20世紀初頭の「新教育」の研究を通して，今日の教育課題解決への示唆を得たいと考えています。

主な卒業研究テーマ

- 地域づくりにおいて公民館の果たす役割—「やねだん」の自活公民館を中心とした地域づくりを事例として—
- 塩尻公明の大学生論・教師論・教育学部論
- 幼児における生命概念の発達—対象の「動き」に着目して—
- 小学校国語教科書における伝記教材の検討
- スマートフォンを用いた植物同定学習支援システムの評価
- 高等学校を拠点とする地域教育の創造—「村を育てる学力」を手掛かりに—
- 自閉症児の社会性の発達と教育的支援—「笑い」を手掛かりとしたアプローチ—
- 小学校の生活指導における教師の感情表出の意義と課題
- 小学校理科の教師用指導書分析—第6学年「電気の利用」
- 「文検」英語科の研究
- 美術館ワークショップにおける学生スタッフの学び・効果
- 理科における知識の適用を支援する教授方法—ルールの代入・対応操作に着目して
- 保幼小連携に関する教育—養成課程の調査を中心に—
- 小学校スキー教室において発生するスキー初心者の諸動作の特性
- 「子どもにとって必然のある」小学校外国語活動
- 保幼小の連携教育—「自分の生き方」「人とのつながり」に関する教育を中心に—
- いじめ問題における教育の役割
- ケータイ小説世代におけるケータイ小説の受容と読書観に関する研究
- 面積概念の形成における算数的活動の実現について —円の面積に焦点をあてて—
- 関西における家庭的保育事業

学生からのメッセージ

教職だけを学んだ教師ではなく，いろんなことを学んだ教師に

竹内 悠希 さん（学校教育論コース4年生）

あなたはどんな先生になりたいと思いますか?

それぞれに夢はあると思いますが，そのためには教職だけではなく，様々なことを学ばなければならないでしょう。

学校教育論コースは，教員になるための必修科目が卒業に必要な単位になるため，その他に自分の興味のある授業を取ることが出来ます。つまり，その夢を実現することが出来るのです。

また，コースの行事のシンポジウムでは，自分たちでテーマを決め調べることで，深く学べるとともに，コースで協力し，みんなと仲良くなれます。みんなで話し合い，アドバイスし合うことで，新たな視点を得ることも出来ます。教師になる上では，仲間の協力は不可欠です。一人で出来ることには限界があり，みんなとやるからできることもたくさんあります。それは，教師になってからも大切なことであると思います。

あなたも大切な仲間と出会い，教職だけではなく様々なことを学んだ，あなたの目指す教師になりませんか?

人間行動学科

人間の発達を身体，健康，行動，運動から考える

学科の理念

人間が行動する環境が高度に発達し,複雑さを増している現代社会においては,人々の価値観も多様化し,それを追求する人間の行動も複雑になっています。このような人間の行動を解明し,人間の発達を探求するには,自然科学から人文・社会科学にわたる学際的な枠組みによる教育研究が重要です。人間行動学科では,人間の行動と発達に係る諸課題を,健康発達・行動発達・身体行動の視点から探求します。

学科の特色

活動的なライフスタイルの構築を目指す ―各ライフステージにおける高いQOLを実現しよう！

社会の高度な発展により,長寿社会の実現とともに,人々の価値観は多様化しています。このような社会においては,自らが自立して生きがいと幸福感を持ち,活動的なライフスタイルを実践できる健康と活力を保持することが必要です。本学科では発育・発達,加齢現象と身体的・心理的・社会的健康を総合的に教育・研究し,各ライフステージにおける高いQOLを実現できる人材を育成します。

実践的行動力を重視 ― 人間行動について理論と実践に強い人材の育成!

行動ということば,単に身体的に行動する（動く）だけでなく,心理的な行動もあれば,社会的な行動もあります。行動は,まさに人間の発達そのものです。他大学の人間行動は心理学・教育学が中心ですが,本学の人間行動学科は,これらに加え健康・スポーツ科学の視点も含め,学際的に教育・研究します。そして実践的行動を重視し,理論と実践の有機的な結合をめざすユニークな学科です。

新たな人間行動研究に挑戦 ― 学際的視点から人間行動を考える

青少年の健康行動,成人・高齢者のメタボや認知機能の問題,子どもの身体能力の低下,地球温暖化と人間行動等,今我が国は人間行動に係わる多くの課題に立ち向かっています。これらの課題は,人間・社会・自然環境の諸要因が複雑に絡み合っています。これらの課題の解決には学際的なアプローチが欠かせません。人間行動学科では健康科学,心理・社会科学,運動・スポーツ科学から,新たな人間行動学の構築を目指します。

履修コース

人々の健康について基礎から実践まで一貫して学ぶ
健康発達論 コース 定員：15名 ▶P28

加齢にともなう人間の行動の「発達」と「適応」を学際的に探求
行動発達論 コース 定員：15名 ▶P30

人間の「行動」と「スポーツ」を科学するチーム
身体行動論 コース 定員：27名 ▶P32

主な取得可能な資格免許

＊全ての学科に共通の資格免許

- 中学校教諭一種免許状（保健体育）
- 高等学校教諭一種免許状（保健体育）
- 学芸員*
- 社会教育主事*
- 社会福祉主専任用資格*
- 環境再生医資格*

学科長からのメッセージ

学科長　平川 和文教授
（身体行動論コース）

人間の行動に関わるみなさんに身近な例として,子どもの体力・健康問題を取り上げて考えてみます。近年の子どもの体力は,長年に渡る体力の持続的低下と,運動をよくする子どもと運動をしない子どもの両極の増加に特徴づけられます。子どもの頃の運動習慣は大人になっても持ち越されます。言い換えれば,運動不足の子どもは将来のメタボ予備軍です。一方,運動をやりすぎる子どもはスポーツ障害やバーンアウトの増加が問題となっています。いずれも深刻な問題です。そのため,どのような運動をどれだけすればよいか,どのように運動環境を整えればよいか,どのように安全対策を講ずればよいかなど,身体的・心理的・社会的・自然環境的視点から総合的に考える必要があります。人間行動学科は,子どもから高齢者までを対象に,身体,健康,行動,運動をキーワードに教育・研究を進める活動的な学科です。

入学から卒業までの流れ・カリキュラム

	1年	2年	3年	4年	卒業後
	学部共通科目		発達支援論コースに進むことも可		
	全学共通科目，全学共通基礎科目				
	学科共通科目				
		コース専門科目			
	コース配属が決まります		ゼミ（研究室）配属が決まります	卒業研究	
全学共通科目	● 教養原論 ● 外国語科目 ● 情報科目 ● 健康・スポーツ科学				
学部共通科目	● 発達科学への招待				
学科共通科目	● 健康発達概論 ● 行動発達概論 ● 身体行動概論 ● 社会調査法 ● 生涯スポーツ論 ● 人体構造機能論 ● 健康管理論 ● 身体機能加齢論 ● 身体運動のしくみ ● からだの構造と運動 ● エイジング論	● 身体文化論 ● 健康教育論 ● 健康評価論 ● 発達支援論研究	● 身体運動発達論 ● 人間行動特論A・B		
コース専門科目 健康発達論		● 公衆衛生学 ● ヘルスプロモーション論 ● 安全行動・管理論 ● 救急医療概説 ● 身体適応論 ● 認知発達論 ● 人間関係発達論 ● 臨床心理学 ● カウンセリング ● 子どもの発達支援 ● 衣環境学1 ● 栄養学 ● 生活環境共生論1 ● 生活環境心理学 ● 身体運動システム論	● 健康統計学 ● 健康行動科学 ● 予防医学概説 ● 健康環境論 ● 健康政策論 ● 国際健康開発論 ● 応用統計学A ● 健康発達研究法	● 健康行動科学演習1・2 ● 健康増進科学1・2 ● 健康環境論演習1・2 ● 健康政策論演習1・2 ● ヘルスプロモーション論演習1・2	
コース専門科目 行動発達論		● 行動発達研究法 ● 行動適応論 ● 運動処方論 ● ヘルスプロモーション論 ● 身体適応論 ● スポーツプロモーション論 ● 運動心理学 ● 身体運動制御論 ● 栄養学 ● 乳幼児発達論 ● 臨床心理学 ● 身体運動システム論	● 予防医学概説 ● エイジング論演習1・2 ● 身体機能加齢論演習1・2 ● 身体適応論演習1・2 ● ｱｸﾃｨﾌﾞｴｲｼﾞﾝｸﾞ研究演習1・2 ● 行動適応論演習1・2 ● 健康行動科学 ● バイオメカニクス実験 ● 健康政策論	● 行動発達演習1・2	
コース専門科目 身体行動論		● 体育・スポーツ史 ● スポーツ社会学 ● スポーツプロモーション論 ● 運動心理学 ● 身体運動技術論 ● 運動処方論 ● 体力科学論 ● 身体適応論 ● 身体運動制御論 ● 身体運動システム論 ● 運動障害論 ● 陸上運動方法論 ● 水泳系運動方法論 ● 野外運動方法論	● スポーツマネジメント論 ● 子どものからだづくり ● 健康行動科学 ● 運動生理学実験 ● バイオメカニクス実験 ● 球技運動方法論 ● 武道系運動方法論 ● 舞踊運動方法論 ● 体育・スポーツ史研究法 ● スポーツ社会学研究法 ● 運動心理学研究法 ● 体育・スポーツ史演習 ● スポーツ社会学演習 ● 運動心理学演習 ● 身体運動技術論演習 ● 身体運動制御論演習 ● 運動処方論演習 ● 体力科学論演習 ● 運動障害論演習 ● 身体運動システム論演習 ● 体操運動方法論		

さらに学びたい人は大学院に進学

人間発達専攻

コース配属について

2年次より各履修コースに所属します。各履修コースの定員の上限は次のとおりです。1年次終了時に行うガイダンスで希望を調整し，履修コースを決定します。

健康発達論 コース　15名
行動発達論 コース　15名
身体行動論 コース　27名

ゼミ配属について

3年次からゼミ（研究室）に所属します。4年次には，指導教員の下，所属するゼミ（研究室）で卒業研究を行います。ゼミ分けは，各履修コースで定められたルールに従って，所属するゼミを決定します。

OB&OG INTERVIEW

INTERVIEW 01

日本テレビ放送網
株式会社 勤務

石浜 勇樹 さん
（2011年3月卒）

人間力を養う学部
やれないことは，ひとつもない

「現場から中継です。石浜さん!!」現場と呼ばれる場所に行き，情報をとり，アナウンサーが読む原稿を書く。時には，中継という形で自分でニュースを読んだりもする。zeroという番組では櫻井翔さんと一緒に仕事をする。女子じゃなくてもやっぱりときめく（笑）　これが報道に携わる私の仕事の一例です。

発達には私みたいな体育会系，芸術センス溢れる人，数学博士みたいな人，四六時中麻雀していたいって人もいます。多様な人間が集まる学部に入ったおかげで「人間」そのものに興味を持ち，世の中を良くも悪くも騒がせる人達と取材を通して関わりたいと思いました。

人付き合いが嫌いな人はもしかすると発達科学部には向いていないかもしれません。人と関わるのが好きで，勉強するときはおもいっきり勉強する，遊ぶときはおもいっきり遊ぶ。とにかく濃い4年間を過ごしたい。そういう人は是非門をくぐってほしいと思います。最高の大学生活が待っていますよ。

INTERVIEW 02

株式会社NTTドコモ 勤務

水間 晴子 さん
（2012年3月卒）

注目度の高まる「健康科学」を
学ぶことのできる充実した環境。

健康発達論コースは，「健康」について文科系，理科系双方問わず様々な分野を専門とする先生がおられ，「健康」について多角的に学ぶことができました。また，教員と学生間の距離が近くアットホームな雰囲気の中できめ細やかな指導を受けることができました。大学時代は部活動にも力を注いでいましたが，そのような環境のおかげで勉強と部活動を両立させることができ，非常に充実した学生生活を送ることができました。「健康」に年々注目度が高まる中，弊社においても「ヘルスケア部門」を立ち上げるなど積極的な取り組みを進めています。

私自身，現在はエリアマネージャーとしてドコモショップの運営をサポートする業務を行っていますが，今後は健康増進につながる新サービスの開発などヘルスケア分野で活躍していきたいと考えています。「健康」を多角的に学んでおくことで，今後の社会において活躍の場が広がることを確信しています。

INTERVIEW 03

長瀬産業株式会社 勤務

高田 京 さん
（2010年3月卒）

発達科学部での大学生活で、
自分の人生の軸がつくられました

私は現在，長瀬産業株式会社という専門商社の人事部門で人材育成の仕事に携わっています。より会社を発展させるためにそこで働く社員に対して何をすればよいのか、ということを日々考えております。

大学では，「人」に焦点をあてて，社会的・心理的・身体的な面から様々なことを学びましたが，次第に人が歳を重ねることで起きる変化に興味を持ちました。ゼミでは加齢にともない起きる筋力やバランス能力の変化を分析し，より高齢者が健康的に生き生きと暮らすには，ということを勉強していました。

このように大学時代に感じていた「人が年を重ねても生き生きと暮らせれば」という思いは，現在仕事を通じて日々感じている「社員1人1人が生き生きと働き満足のできるキャリアをつくることができるよう手助けをしたい」という思いにつながっていると感じます。
今後もこの思いを大切に仕事に精進したいと思っております。

INTERVIEW 04

大阪府立
成城高等学校Ⅲ部 勤務

安田 亜未 さん
（2011年3月卒）

人と人，心と心をつなぐ
スポーツを学ぶ

スポーツなしでは生きていけない!と考えるくらいスポーツが大好きだった私は発達科学部人間行動学科に入り，2回生になって身体行動論コースに進みました。身体行動論コースではスポーツを多角的に勉強することができ「スポーツって面白い!」とより一層思うようになりました。特に六甲縦走，遠泳，スキーなどの宿泊を伴った実習はスポーツの素晴らしさを私に再確認させてくれました。これらの実習は勿論楽しいものなのですが，体力的につらい実習でもありました。しかし，どんなに心が折れそうでも皆で励ましあって乗り越え，絆を深めることができた経験は，スポーツには人と人，心と心をつなぐ力があることを教えてくれました。

私は現在，大阪府の高等学校の保健体育の教員をしています。私は体育を教える教員ではなく，体育で教える教員になりたいです。この4年間で学んだ人と人，心とスポーツの素晴らしさを体育教師として伝え続けていきたいと思います。

主な進路・主な資格免許の取得状況

健康発達論 コース

主な進路

2012年度
- 共栄火災海上保険
- コベルコシステム
- サントリーホールディングス
- ダイドードリンコ
- 福井県経済農業協同組合連合会
- 北陸銀行
- SMBCフレンド証券
- 岡山市教員（中学校）
- 京都府教員（小学）
- 東大阪市職員
- 神戸大学大学院国際文化学研究科

2013年度
- 積水化学工業
- 奈良県農業協同組合
- ハンナン
- 富士通システムズ・ウエスト
- 三越伊勢丹
- TIS

主な資格免許の取得状況　社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2012年度
- 中学校教諭一種免許状（数学）
- 中学校教諭一種免許状（理科）
- 高等学校教諭一種免許状（数学）
- 高等学校教諭一種免許状（理科）

2013年度

行動発達論 コース

主な進路

2012年度
- アルペン
- 伊藤忠商事
- エン・ジャパン
- 能勢電鉄
- ワコールホールディングス

2013年度
- 伊藤忠商事
- 関西電力
- 京セラ
- クラレ
- コスモスイニシア
- サイバーエージェント
- ジーユー
- ジェイアール西日本不動産開発
- 鈴与シンワート
- 太平寺
- 野村證券
- みずほフィナンシャルグループ
- 三井住友銀行
- 三菱電機
- 三菱東京UFJ銀行

主な資格免許の取得状況　社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2012年度

2013年度
- 高等学校教諭一種免許状（保健体育）

身体行動論 コース

主な進路

2012年度
- 朝日新聞社
- アシックス
- アルペン
- 追手門学院職員
- 紀陽銀行
- 京都銀行
- クラレ
- サイボウズ
- サントリーホールディングス
- ダイキン工業
- 東映
- 日本メナード化粧品
- パナソニック
- ベルパーク
- ミキハウス
- ワコールホールディングス
- 大阪府教員（小学）
- 神戸市消防局
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（1名）
- 国立障害者リハビリテーション学院

2013年度
- ウエルネスサプライ
- 大阪偕星学園高等学校講師
- 大阪ガス　・岡谷鋼機
- 花王カスタマーマーケティング
- 神戸デジタル・ラボ
- サンゲツ　・青年海外協力隊(JICA)
- つるや　・西日本電信電話
- 日本イーライリリー
- 日本生命保険相互会社
- ハウス食品　・阪急電鉄
- 日立アプライアンス
- ミズノ
- 三井住友海上あいおい生命保険
- 三菱UFJ信託銀行
- レイス
- 神戸市教員（小学）
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（2名）
- 佛教大学
- 早稲田大学大学院
  スポーツ科学研究科

主な資格免許の取得状況　社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2012年度
- 中学校教諭一種免許状（保健体育）
- 高等学校教諭一種免許状（保健体育）

2013年度
- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状（理科）
- 中学校教諭一種免許状（保健体育）
- 高等学校教諭一種免許状（理科）
- 高等学校教諭一種免許状（保健体育）

健康発達論 コース

Course Keyword【コースキーワード】
- □ヘルスプロモーション
- □こころの健康
- □ライフスキル教育
- □健康行動
- □公衆衛生
- □健康と環境

人々の健康について基礎から実践まで一貫して学ぶ

健康発達論コースは，人間の健康に関わる諸問題を扱う「健康科学」について学習・研究するコースです。健康科学においては，ヒトの構造や機能といった生物学・生命科学に関する領域，自然環境や生活環境に関する領域，健康政策や健康教育などヒトの心理的側面や社会科学などに関する領域についての広範囲な知識を身につけ，自ら問題提起をし，これらの問題に対して科学的且つ論理的に徹底して追及する能力が求められます。このような健康に関する広範囲な知識，および問題解決能力を身に付けることにより，より高度な学問を追求する研究者，あるいは実社会における指導者として活躍できる人材の育成を目標としています。このため，学習の目標を人々の健康増進（ヘルスプロモーション）に置き，そのために必要な基礎的な知識（疾病予防，健康増進のメカニズム，人間の発達と健康，環境と健康とのかかわりなど）および現実に生活している人々に直接貢献する実践的な知識（健康教育と行動変容，健康政策など）の両面について医学，保健学，教育学，心理学等の専門スタッフより教育がなされています。本コースにおいては，文科系，理科系双方の領域に関して広く関心と興味を持ち，ヘルスプロモーションに関する具体的な課題を発見し，健康科学に基づいて基礎的・応用的・実践的な問題を解明するため，徹底的に，且つ多分野にわたる人々と協力して問題解決を図っていこうとする意欲ある学生を待っています。

主なコース専門科目

- □ヘルスプロモーション論
- □安全行動・管理論
- □救急医療概説
- □健康統計学
- □健康行動科学
- □予防医学概説
- □健康環境論
- □健康政策論
- □国際健康開発論
- □健康発達研究法
- □健康行動科学演習1・2
- □健康評価論演習1・2
- □健康環境論演習1・2
- □健康政策論演習1・2
- □ヘルスプロモーション論演習1・2

スタッフと研究分野・研究テーマ

加藤 佳子 教授	川畑 徹朗 教授	中村 晴信 教授	古谷 真樹 講師	村山 留美子 講師
健康教育，健康心理学	健康教育，ヘルスプロモーション	公衆衛生学	睡眠心理学，生理心理学，健康心理学	環境保健学，環境リスク学
生活科学と心理学の学際領域をベースとし，食行動など日常生活における健康に関連する人の行動について探究し，健康の増進を目指しています。	青少年が薬物乱用などの危険行動を避け，健康増進行動を主体的に選択できるようにするため，健康教育，ヘルスプロモーションに関する研究を行っています。	生活習慣と疾病予防や健康増進との関係について研究しています。フィールド調査で健康問題を発掘し，実験で証明するスタイルをとっています。	心身健康の維持・増進を図るために、睡眠とストレスとの関連について生理学的手法を用いた基礎的研究と教育現場や地域における実践的研究を行っています。	環境中の化学物質が身体へもたらす影響についての実験と，環境中のリスクに対する人の認知に関する調査を行い，人と環境との関わりのあり方について研究を行っています。

主な卒業研究テーマ

- A.シュッツの意味論の射程―私と君、生と思考の問題をめぐる試みからレリヴァンスへ―
- 禁煙が身体及び精神に与える効果の文献研究
- 笑顔に対する印象評価と性格特性・メンタルヘルスとの関連の検討
- ランニングの生涯スポーツにおける適性に関する文献的考察
- 中学生の歯科保健行動の関連要因に関する文献研究―心理社会的要因に焦点をあてて―
- メディアリテラシー教育における視線分析装置の有効性の検討
- スピリチュアリティと健康の関係に関する文献研究
- 若年女性におけるストレス対処能力(SOC)と短期的ストレスに関する生体指標との関連性
- 顔の再認記憶に関する研究：社会的情報による顔イメージの予測の影響
- ADHD児のワーキングメモリにおける妨害刺激の影響
- 高齢者の主観的健康感と過去の就労経験の関係性について
- 孤独感と物理的温度の関連
- 地中海式食事スケールを用いた日本の食事様式の評価とアレルギー症状との関係性
- Facebookの利用と人生への満足感の関連―セルフエスティームに着目して―
- 小学生の現状把握と小学校教育にマーチングを取り入れることに関する文献的研究
- 運動部の活動に関連した課題に関する文献的考察
- 里親制度に関する文献研究
- 男性摂食障害の発症リスク軽減のための教育的アプローチに関する研究
- きょうだいと性格特性に関する研究
- PMS（月経前症候群）の実態把握と学校教育における月経随伴症状に関する教育の必要性の文献的検討
- 運動習慣の二極化の現状・学校現場での教育的アプローチの提言
- 現代的なリズムのダンスを中高生の体育授業に取り入れる意義について
- 一般流動性知能と性格特性の相関について
- 顔の再認記憶における社会情報が及ぼす影響に関する研究
- 健康増進に関わる防衛体力とそれに対する運動効果に関する文献研究

教員からのメッセージ

環境からもたらされるリスクと健康の問題を考える

村山 留美子 講師（環境保健学，環境リスク学）

私たちをとりまく環境には，事故や自然災害，化学物質や科学技術がもたらすものなど，多種多様なリスクが顕在化しています。私たちは，健康や命を守るために，その多様なリスクのひとつひとつについて，存在の是非やそれを許容（耐容）するレベル，更に対処方法やその優先順位等について充分に考え，そのリスクと今後どう付き合っていくのかの判断を自ら行わなければなりません。

2013年にスタートした当研究室では，環境中にある化学物質が私たちの健康に与える影響について実験研究を行う他，化学物質を含む環境中の様々なリスクに対して，私たちがどのように感じてそれを判断しているのかを明らかにする調査研究を行っています。私たちの健康と，環境からもたらされるリスクとの関係について客観・主観の両面から考え，そこにある問題とその解決方法を見つけることを目指します。今後ますます重要になる環境と健康の問題を，一緒に考えてみませんか。

学生からのメッセージ

アクティブな気持ちでかかわるほど，楽しくなれる環境

藤本 絢子 さん（健康発達論コース4年生）

私にとって健康発達論コースのいちばんの魅力は，学内で勉強するだけでなく，学びのフィールドが外に開けていることです。私は夏季の長期休暇を利用し，ゼミ活動の一環としてオーストリアのグラーツに短期留学をしました。また，大学の周辺地域と連携したイベントにも積極的に参加し，「目で見て耳で聞いて，肌で感じる」学びを大切にしています。講義のスタイルも多様で，実習や発表，ディスカッション形式のものもあり，授業に主体的に参加することができます。そして，本コースはとてもアットホームな雰囲気です。

勉強のことや将来のことなど，なにか困ったことがあれば，先生はいつも親身になって話を聞いてくださります。一緒に研究をしている仲間とは，研究や就職活動において互いに目標を共有し，一つのチームとして切磋琢磨しあう日々です。素敵な仲間に恵まれ，ゼミでの研究とサークル活動とを両立しながら，とても充実した大学生活を送っています。

行動発達論 コース

Course Keyword【コースキーワード】

□加齢　□学際性
□行動発達　□文理融合
□適応　□高齢社会

加齢にともなう人間の行動の「発達」と「適応」を学際的に探求

年齢とともに人間の行動はいかに発達し，人間はどのように社会に適応していくのでしょうか。人間の行動の発達にはどのような個人的・社会的課題が存在し，どのようにすればそれらの課題を解決でき，人間行動の発達を促進できるのでしょうか。行動発達論コースでは，そうした疑問や関心に答えられるように，人間行動の発達と適応に関する仕組みや原理を学び，現実のさまざまな人間行動を多角的に解明，理解する能力と実践力を身につけ，人類社会に貢献しうる学生の育成を目指しています。行動発達論コースでは，以下に示すような学際的・総合的な4つの学習目標を設定しています。1）人間の行動を生体メカニズムから社会・文化的行動まで総合的に理解する能力を身につける。2）人間の行動を発達論的観点と社会・文化的観点から分析的に理解する能力を身につける。3）人間の行動を自然科学と社会科学の両面から観察・解明する方法を習得する。4）人間の行動と環境との関係についての理解を深める。これらの学習目標を達成するために，このコースでは，応用生理学，環境生理学，身体運動科学，加齢体力学，社会学，社会心理学，行動適応学，実験心理学，ジェロントロジー，アクティブエイジング研究，スポーツプロモーションなど行動発達に関わる諸領域の理論と方法を学び，実践力を養います。現代の人間や社会が抱えている多様な課題に情熱を傾けて意欲的に取り組む学生，そして人間行動に関わる未知の分野を積極的，自主的に開拓する意欲のある学生を待っています。

主なコース専門科目

□行動発達研究法　□予防医学概説　□行動適応論演習1・2　□身体運動制御論　□バイオメカニクス実験
□エイジング論　□エイジング論演習1・2　□行動発達演習1・2　□栄養学　□健康政策論
□行動適応論　□身体機能加齢適応論1・2　□運動処方論　□乳幼児発達論
□身体適応論　□身体適応論演習1・2　□ヘルスプロモーション論　□臨床心理学
□スポーツプロモーション論　□アクティブエイジング研究演習1・2　□運動心理学　□健康行動科学

スタッフと研究分野・研究テーマ

岡田 修一 教授	片桐 恵子 准教授	近藤 徳彦 教授	長ヶ原 誠 教授	増本 康平 准教授
加齢の身体運動科学	社会老年学，社会心理学	応用生理学，運動生理学，環境生理学	スポーツプロモーション，健康行動科学，ジェロントロジー	高齢者心理学，実験心理学，認知心理学
高齢者の立位バランス能力の多角的な分析・評価，及びその知見に基づいた転倒予防法の開発と効果判定に関する研究を行っています。	高齢者の社会参加や街の歩きやすさと健康など，高齢者を囲む環境と高齢者に関する研究を質問紙調査やインタビュー調査などを用いて行っています。	物理的な外部環境の変化や運動に対するヒトの呼吸・循環・体温調節機構の適応を，生理学的観点から検討し，ヒトのからだの不思議にせまります。	成人・中高齢者を対象とした健康増進やスポーツ振興をテーマとして，健康的かつ活動的に年齢を重ねていくための支援方法を探究しています。	ひとの記憶・注意・感情・思考といった認知機能の仕組みや，加齢によるそれら認知機能の変化について実験心理学的手法を用いて研究しています。

主な卒業研究テーマ

- ランニングにおけるピッチの変化が体温調節反応に及ぼす影響
- 三次元映像を用いた突然の視覚的外乱が高齢者の立位バランスに及ぼす影響
- 大学野球部員における野球グラブの満足度と再購入に関する研究
- 大学野球部におけるキャプテンとポジションリーダーのリーダーシップ行動に関する研究
- 8週間にわたるオーディオビジュアル機器を用いた体操が高齢者の運動・認知機能および社会性に及ぼす影響
- なぜ終の棲家として有料老人ホームを選ぶのか
- 大学女子ラクロス競技者のスポーツ価値意識に関する研究 ～男女比較による女子の特徴に着目して～
- 異なる歩行面における二重課題が高齢者の歩行動作に及ぼす影響
- 環境温度の違いが味覚閾値に及ぼす影響
- 地域日本語教室の学習者ニーズに関する研究 ―学習目的別の比較研究―
- 東日本大震災における小規模復興支援プロジェクトに関する研究
- 地デジ化に伴う高齢者のテレビ視聴に関する研究 ―データ放送の利活用に着目して―
- Simple Cognitive testにより評価された認知機能と心身機能及び社会的活動性との関係
- 生け花が中高齢者に及ぼす心理・社会的効果に関する研究
- 家族の死の受容に関する研究 ～ネットがもたらすものとは～
- 高年齢者の就活に関する研究
- 高齢者の投票参加に影響を及ぼす要因分析
- 滋賀県民にみる国民幸福度の要因とは ―滋賀県民のスピリチュアリティに着目して―
- 自助グループにおける摂食障害者の新たな自己概念の獲得 ～「逃げ」という前進～
- ジョガーのランニングウェア選好に関する研究
- 大学生のハンドボール継続に関する研究
- 暖色・寒色が温度環境の違いによる自律神経活動に及ぼす影響
- 段鼻の色および動作局面が高齢者の階段降下時の下肢筋活動に与える影響
- 中高齢者の「婚活」プロセス ―結婚相談所に見る中高齢者の結婚活動の実態―
- 聴覚障害者の国外旅行の実態（国外旅行経験に影響を及ぼす要因の分析）
- 募金を巡る社会行動論的研究
- 歩数の違いが高齢者の運動機能・認知機能および主観的健康度に及ぼす影響
- 幼児の体温と身体活動性および環境要因との関連
- ラベンダーとグレープフルーツの香りが高温下での自律神経活動に及ぼす影響

教員からのメッセージ

幸福な人生を生きるために 終わりよければすべてよし!?

片桐 恵子 准教授（社会老年学,社会心理学）

グローバリゼーションが進む中で,日本は経済の低迷や政治の混乱が続き,かつて世界から注目を集めていた頃の勢いは今はありません。今,世界一と誇れるのは長寿大国であることです。超高齢社会といわれる現在,社会保障の問題など直面する課題ばかりが取りざたされ,人々が長生きできる幸せな国であるという認識に欠けるように思います。

私のゼミでは質問紙調査やインタビュー調査などを用いて調査を行い,高齢者の現状の把握やその問題点やその解決方法の検討などを,主として社会心理学的な関心から行っています。

高齢期に幸せに過ごすためには,高齢者のことだけを調べればいいわけではありません。そこに至るまでの人生の様々な要因,たとえば人間関係,仕事や社会参加活動,経済や健康の状況などが関連していると考えられ,ライフヒストリー的な観点も加味して幸福に生きる,老いる,ということについて考えてほしいと思っています。

多様な学問領域,自分らしい視点から「人間の行動」を探究する

飯野 詩織 さん（行動発達論コース4年生）

行動発達論コースは,生理学,実験心理学,行動科学,社会心理学,社会学といった様々な学問分野・視点から,生涯を通しての多様な人間の「行動」について探究するコースです。

このコースで私は,老年学やスポーツ振興を専攻として学べるゼミに所属し,「マスターズ甲子園」に大会事務局員として関わりを持ち,「支えるスポーツ」「夢の実現」についての実践研究を行っています。その一方で,韓国留学を経験して,隣国である日本と韓国の間でも人々がする行動には特徴や差異が多くあることに気づき,そこに関心を持ちました。「日本と韓国」を大学の講義やゼミ活動における個人的な探究の視点として据えてみると,大学での学びはそれまで以上におもしろく,より能動的なものになってきました。これまでのあなたの「行動」が積み重なって得た経験からなる興味や関心を活かして,あなたらしい視点から,「人間の行動」を探究してみませんか。

学生からのメッセージ

身体行動論 コース

Course Keyword【コースキーワード】

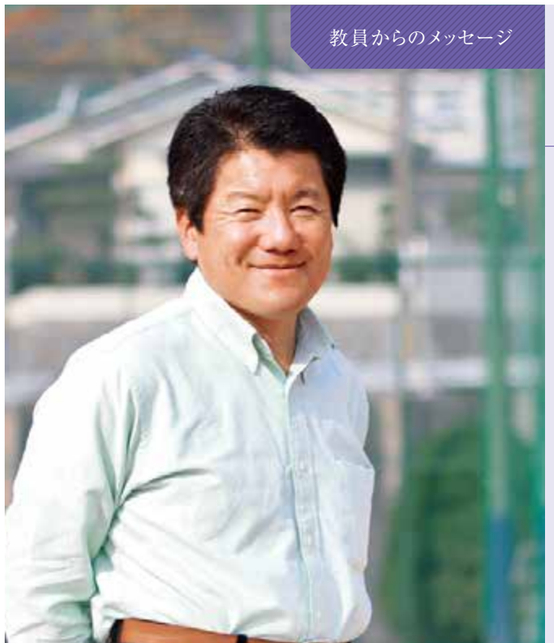
□体力・運動処方の科学　□身体行動の心理
□身体行動とスポーツ医学　□身体行動の社会学
□バイオメカニクス　□体育・スポーツの歴史

人間の「行動」と「スポーツ」を科学するチーム

身体行動には日常生活を構成する基本的な運動から，気晴らしや健康のための軽い運動，スポーツのような人間が創造した身体文化に至るまで，実にさまざまな身体活動が含まれます。本コースでは，このような身体行動に関するさまざまな事象を自然科学・人文科学・社会科学的手法を用いて分析し，人間の発達および社会との関わりにおいて身体行動が果たす役割を究明すること，さらにはこれらの知見をスポーツ行動や生活の場に応用し，運動機能の向上を助け，よりよい身体行動の実践に貢献したいと考えています。代表的な授業科目としては，体育・スポーツ史，運動心理学，体力科学論，身体運動技術論，ストレス生理学，身体運動制御論，生涯スポーツ論，運動処方論などの講義があります。また，実験科目として，バイオメカニクス実験や運動生理学実験も用意しています。人間の運動を種々の測定機器を駆使して，さまざまな手法を用いて分析し，人間の身体運動のメカニズムを自らの手で実験・解析することによって理解を深めます。実習科目では水泳系運動方法論，野外運動方法論など，学生と教員やティーチングアシスタント学生が宿泊をともにして海洋実習や六甲山縦走，スキー実習などを展開しています。3年次からは各研究室に分かれ，演習を中心に卒業研究を進めるために必要な知識や手法を学び，総まとめである卒業研究へと発展させていきます。さらには大学院への研究発展をも可能にできることを目指しています。

主なコース専門科目

□体育・スポーツ史
□スポーツ社会学
□運動心理学
□身体運動技術論
□運動処方論
□体力科学論
□身体適応論
□身体運動制御論
□身体運動システム論
□運動障害論
□陸上運動方法論
□水泳系運動方法論
□野外運動方法論
□スポーツマネジメント論
□運動生理学実験
□バイオメカニクス実験
□球技運動方法論
□武道系運動方法論
□舞踊運動方法論
□体育・スポーツ史研究法
□スポーツ社会学研究法
□運動心理学研究法
□体操運動方法論



教員からのメッセージ

スポーツパフォーマンス向上と子供から高齢者までの体力増進

髙田 義弘 准教授（運動生理学（身体コンディショニング））

スポーツを構成する体力要素は，種目によって大きく違います。例えば投手が速い球を投げるためには，どのような能力を向上させればいいのでしょうか。筋力?筋持久力?筋パワー?これまでのトレーニングの量や質も違えば，身長や腕の長さなどの体格も違い，筋肉の質も違っています。これをやれば絶対に速い球が投げられるなど，パフォーマンスを伸ばす魔法の方法はありません。現在のレベルに応じた正しいトレーニングを行う必要があります。ゼミでは，その競技に必要な体力要素とそれをどのように測定して評価するのかや，どのようなトレーニングをどのくらいを行えばいいのかを研究します。また，現在医療費の高騰などの一因となっている生活習慣病予防対策について，その知識をどのようにすれば啓蒙できるかを各種団体と協力しながら講演会や展示会を企画し行っています。さあ，あなたも一緒に社会に役立つ研究・教育活動を一緒にやりませんか。

スタッフと研究分野・研究テーマ

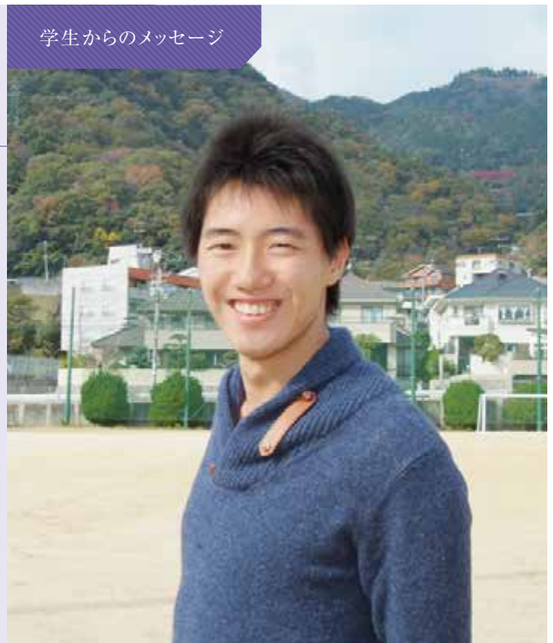
(rp) 2015年3月31日をもって退職の予定

秋元 忍 准教授	河辺 章子 教授	木村 哲也 准教授	髙田 義弘 准教授	髙見 和至 准教授
体育・スポーツ史	運動生理学（身体運動制御）	身体システム学	運動生理学（身体コンディショニング）	運動心理学
スポーツの未来を展望するには，その過去と現在に関する深い認識が不可欠です。身体・スポーツ文化の過去を新しい視点から解明します。	ヒトの運動の発現のしくみから動きの巧みさを考えるとともに，どのようにして巧みな動作を身につけることができるかを探究しています。	ヒトの身体運動の神経制御メカニズムを明らかにする基礎的研究を行っています。基礎的研究から得られた成果をもとに，運動補助器具の開発などの応用研究にも取り組んでいます。	野球投手の障害予防や競技力向上のためにはどのようなトレーニングを行えばいいのかを，疲労とパフォーマンスの変化から研究します。	運動やスポーツは「時間とエネルギーの消費」とも言えます。では何故，人は夢中になり，何を得ているのでしょうか。この人間の心理に潜む「何故」を探求しています。
平川 和文 教授 (rp)	**前田 正登 教授**	**山口 泰雄 教授**		
運動生理学（運動処方論，体力・トレーニング科学）	スポーツ技術論，スポーツバイオメカニクス，スポーツ工学	スポーツ社会学，生涯スポーツ論		
「子どもの体力・運動能力」，「スポーツの競技力向上」，「高齢者の運動と健康」について，運動処方の観点から研究しています。	身体運動やスポーツのバイオメカニクスとして人間（選手）の動作・技術を解析します。またそれらの運動技術の習得過程に関する研究を行います。	スポーツの多様な社会的側面に焦点を当て，スポーツとまちづくり，スポーツ・ツーリズム，ボランティア，スポーツ政策などを研究しています。		

主な卒業研究テーマ

- カヌースプリント競技のストローク方法の違いが競技成績に及ぼす影響
- 逆振りがパフォーマンスに及ぼす影響について ーバットスイングに着目してー
- マッスルインバランスの概念に基づく肩こり改善トレーニング処方に関する研究
- 股関節の静的柔軟性を効果的に向上させる柔軟性トレーニングの検討
- サッカー・インステップキックにおける利き脚・非利き脚間の正確性およびキック動作の差異に関する研究
- 周辺視野における動体の移動速度が反応時間に及ぼす影響
- 的と周囲の関係が投球の正確性に与える影響
- 膝関節伸展動作の再現性に関する研究
- 経時変化から見た静的ストレッチングが最大等尺性筋力へ及ぼす影響について
- 構え姿勢の違いが横方向への踏み出し動作の反応時間に及ぼす影響
- 海軍闘球の誕生
- 武道と宗教の関係性に関する一考察：合気道の身心観形成と大本
- 特撮ヒーロー番組スーパー戦隊シリーズにおけるアクションシーンの変容
- 独立リーグ四国アイランドリーグplus観戦者の観戦動機と類型化
- 高齢者の運動ステージが生活満足度に及ぼす影響に関する質的研究
- 大学運動部員における応援の心理的影響
- 大学運動選手が試合中に用いる気持ちの切り替えに関する研究
- 大学野球選手における心因性動作失調（イップス）に関する研究
- 大学アメリカンフットボール部の集団規範に関する研究
- 野球の打撃におけるミートの正確性に関する研究
- 砲丸投げにおける投射角度の変化が投動作に及ぼす影響
- 跳躍運動および走運動における「ばね的な動き」に関する研究
- 陸上競技400m走における曲走路疾走に関する研究
- 高校野球選手におけるバットの質量と重心位置が打撃のインパクトの正確性に及ぼす影響
- 腰痛を抑えるラクロスのゴールキーパーのセービング動作の研究
- 誘発筋電図からみた疲労筋に対するアイシングの効果
- 着地時における足関節テーピングの制動効果に関する研究

学生からのメッセージ



スポーツの可能性を捉え，拡げることのできる場所

阪本 圭吾 さん（身体行動論コース3年生）

2020年に東京オリンピック開催が決定し，今後日本におけるスポーツの活性化は様々な場面で私たちの目に触れることになると思います。今こそ私たちはスポーツの価値・役割を十分に知り，それを社会で活かしていく必要があるのではないでしょうか。

そのために，身体行動論コースでは，最大の魅力ともいえるフィールドワークでの実技講義を筆頭にして，スポーツや運動の知識を深めることができ，かつスポーツの立場から様々な問題を考えていくことができます。

このような学びを通して，今に生きるスポーツの価値・役割を実感でき，スポーツの立場から多くの問題を考え解決していく能力を培えることがコース最大の特徴です。この能力こそ将来に活きるものだと確信し，今も学びを深めています。

このコースのおかげで，私はスポーツの可能性の深さとその魅力に，虜になりました。スポーツが大好きで，その魅力の虜になりたい方，是非一緒にこのコースで学びましょう!

人間表現学科

人間のあらゆる営みを,「表現」をキーワードに解明する

学科の理念

広い知識を授けるとともに, 音楽, 造形, パフォーミングアーツ等の人間の様々な表現や創造活動について教育研究を行い, 教養並びに表現領域についての幅広い知識や個々の領域における専門的な知識及び技術を身に付け, 研究, 創造及び社会的実践に関する優れた能力を有する人材を養成することを目的とします。

学科の特色

表現の原初に立ち帰る

人の表現行為は, 日常の何気ない所作や立居振舞から「芸術」と呼ばれるものまで, 実に多様です。その現れ方は, 音声や身振りに始まり, 身体や道具を使っての音, 色, かたち, 香り, 味などの創造へと多彩に発展しますが, すべては人間の五感に基づくものです。近年のテクノロジーの進歩は, この表現の実体までも曖昧にしていくかのようですが, 私たちは, 変容し続ける人間の表現や表現行為について, まずその原初に立ち帰って考えます。

複眼的アプローチで挑む

表現は, 私たちの生の反映です。私たちのひとりひとりの一挙一動には, その影響と反応を, 無限に繰り返し共有するコミュニケーションのサイクルが内包されており, それが歴史を創るのです。その混然一体となって姿を変える人間表現の解明に, 私たちは,「表現することの意味」や「表現する行為そのもの」,「表現されたもの」といった複眼的な視点から果敢に挑戦します。

アート/ヒューマンインターフェースの研究・開発を目指す

専門性を高めることは何より重要なことですが, その上で私たちが目指すのは, 本来, 分かちがたく渾然一体となった表現領域から細分化されてきた専門分野を,「表現」を鍵にして結び合おうとする刺激的な教育研究の場です。ここから, 多彩な表現世界を自由に往来して, 深い人間理解と洞察のなかから新しい表現と価値を生み育て, 人と人をつなぐ豊かなアートの創造と研究に携わる人材が生まれていくことを願っています。

履修コース

人間のあらゆる営みを,「表現」をキーワードに解明する

人間表現論 コース　定員:40名　▶P40

主な取得可能な資格免許

＊全ての学科に共通の資格免許

- 中学校教諭一種免許状(音楽)
- 高等学校教諭一種免許状(音楽)
- 中学校教諭一種免許状(美術)
- 高等学校教諭一種免許状(美術)
- 学芸員*
- 社会教育主事*
- 社会福祉主事任用資格*
- 環境再生医資格*

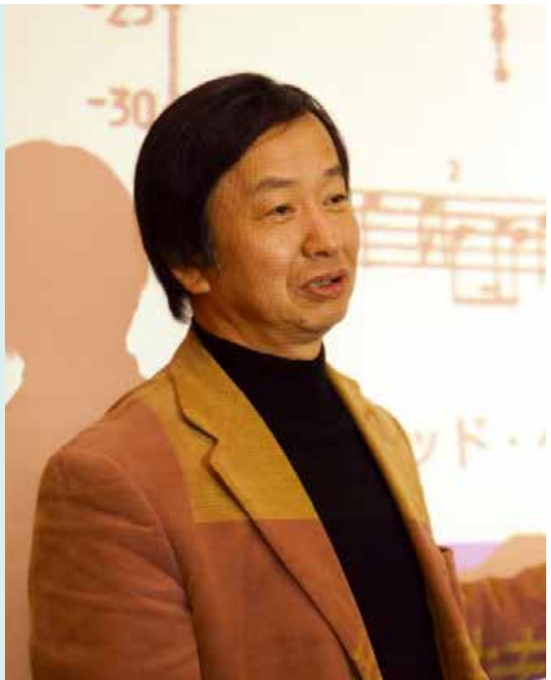
学科長からのメッセージ

学科長　小髙 直樹教授

私たち人間は, 長い歴史にわたって, その時々の環境のもとでさまざまな表現を行い, その時代に固有の文化を生み出してきました。とりわけ音楽や造形, 舞踊といった創造的表現は極めて人間的な行為であり, 人間の発達や変容にとって欠かすことのできない重要な営みです。人間表現学科では, こういった人間の創造表現の本質を, 理論と実践の両面から探究しています。

理論とはいわば論理の世界です。それに対して実践においては, ときとして論理を超えたものを求められることがあります。この論理の世界と, 論理を超えた世界を結びつけることは決して容易なことではないのですが, 理論と実践の世界を往還し, 葛藤するなかにあってこそ, 新たな創造実践のインスピレーションがかき立てられ, また新たな理論の創出も可能になると考えています。

このような考えのもと, 人間表現学科では, さまざまなユニークで刺激的な学びの場を提供しています。理論と実践の世界を縦横無尽にかけめぐりましょう。



入学から卒業までの流れ・カリキュラム

	1年	2年	3年	4年	卒業後
	学部共通科目				
	全学共通科目，全学共通基礎科目		発達支援論コースに進むことも可		
		学科（コース）専門科目【文化・芸術に関する横断的科目】			進路状況はP.39参照
		学科（コース）専門科目【文化・芸術に関する専門科目】			
			ゼミ（研究室）配属が決まります	卒業研究	
全学共通科目	●教養原論 ●外国語科目 ●情報科目 ●健康・スポーツ科学				
学部共通科目	●発達科学への招待				
学科コース専門科目 文化・芸術に関する横断的科目	●人間表現概論1 ●人間表現概論2 ●遊びと芸術 ●創造の発想とプロセスA ●創造の発想とプロセスB ●資料調査法 ●サウンドデザイン ●声の表現 ●生涯学習論 ●サブカルチャー論 ●心理学入門	●感性表現論1 ●場所の文化史 ●表象文化論 ●身体表現論 ●人と音楽 ●表現創造演習（企画） ●子どもの表現 ●図学 ●発達支援論研究 ●音楽療法論1	●舞台芸術論 ●表現の政治学 ●表現創造演習（総合） ●アートマネジメント ●表現ワークショップ論 ●メディア論		さらに学びたい人は大学院に進学
学科コース専門科目 文化・芸術に関する専門科目	●先端表現演習	●音楽作品研究1 ●西洋音楽文化論 ●都市と建築の20世紀 ●音楽作品研究2 ●立体造形 ●音楽民族学 ●ピアノ演奏演習1 ●立体造形論 ●声楽表現演習1 ●デザイン史 ●絵画表現論 ●西洋音楽文化論演習 ●舞踊創造論 ●絵画表現 ●合唱表現演習 ●舞踊表現 ●先端造形演習 ●音楽集団活動論	●人間の発達と表現演習1 ●人間の発達と表現演習2 ●室内楽 ●ピアノ演奏演習2 ●都市と建築の20世紀演習 ●ダンスセラピー ●ファッション文化論 ●感性表現論2 ●合唱表現演習 ●声楽表現演習2 ●感性表現論演習 ●合奏表現演習 ●立体投象論 ●映像論 ●音楽療法論2 ●音楽療法論演習	●映像・メディア論演習 ●ファッション文化論演習	人間発達専攻

ゼミ配属について

3年次からゼミ（研究室）に所属します。4年次には，指導教員の下，所属するゼミ（研究室）で卒業研究を行います。定められたルールに従って，所属するゼミを決定します。

OB&OG INTERVIEW

INTERVIEW 01

ジェイアール京都伊勢丹 勤務

江口 沙織 さん
（人間表現学科 2011年9月卒業）

人生を決めたファッション文化論との出会い

私は現在,百貨店の販売員として売り場に立っており,販売や商品の仕入れ,店頭の展開替えを通じ,顧客満足度,売上の向上に努めています。芸術や表現文化は実利主義で語れば役に立たないものと思われがちですが,そうではありません。表現学科での芸術分野の垣根を越えた講義を受け,私は表現文化と実利の共存の在り方としてのファッションにとても興味を持ちました。そのままより深くファッションの歴史を学ぶにつれファッション業界に関わりたいと考え,今の仕事を選びました。入学当初は教員志望だったので自分でも本当に驚きです。

この学科の良さは,特定の分野に特化するのではなく,幅広い分野を学び高い視座を持てることです。表現学科で学んだことは私のセンスに集約され,「商品をきれいに見せる」という販売の仕事で重要な商品展開の面で生かされています。将来的には今よりも広い売り場を任せてもらい,新しい商品展開に挑戦したいと思っています。

INTERVIEW 02

株式会社ytv Nextry 勤務

小林 翔子 さん
（発達科学部人間表現学科　表現創造論コース立体造形ゼミ 2013年3月卒）

表現学科で学べることの量は好奇心の大きさに比例します。

私は今,音響効果という仕事をしています。楽曲や効果音などを映像（主にテレビ番組）に合うように,自分の感性で選んで付ける仕事です。表現学科で特に現代音楽の多様性に衝撃を受け,音そのものを聴くことに興味を持って学んでいたことが,この仕事につながったのだと思います。

音楽を奏でることだけではなく,何かを創り出す行為そのものが好きだった私は,音楽と美術の融合,またはその境界を曖昧にすることを目指して作品制作をするようになりました。この学科では,知りたいこと・作りたいものを見つけたらとにかく行動するべきです。先生方もそういう学生には非常に親切に協力してくださるので,好奇心はむき出しにいなければ損です。また,私はいろんなジャンルの表現を学ぶ個性豊かな仲間たちからいつも刺激を受けていました。

コンサートやグループ展,舞台制作など仲間と協力して作り上げたものは本当に印象深く,表現学科で良かったと心から思います。

INTERVIEW 03

三菱重工業株式会社 勤務

梅村 紗代 さん
（人間表現学科 2010年3月卒）

学ぶことは「表現」だけではない。

「なぜこの会社に入社したのか?」

出身学科の話になると,必ずと言っていいほど聞かれることです。私が勤務している三菱重工は飛行機や船,発電所などをつくっており,一見すると「表現」とはかけ離れた世界です。しかし,在学中に学んだことは,仕事に大いに活かされていると感じます。

ゼミ活動で,実験の結果に基づいて事象を分析したことから得た分析力。様々な専門を持った仲間達と舞台作品を作り上げたことから得た協調性やプロジェクト完遂力。そして元の専門であるダンスで得た自己を表現する力。振り返ってみると,ビジネスパーソンに必要な基礎能力を培う場となっていました。

幅広い専門を持つ先生方から学び,個性豊かな仲間達と切磋琢磨出来る本学科は,表現の専門家に限らない多様な道を切り開くことの出来る場だと思います。私は今後,類を見ないこの学科で得た経験を自信とし,周りとひと味違うビジネスパーソンとして成長したいと考えています。

主な進路・主な資格免許の取得状況

旧表現創造論 コース

主な進路

2012年度
- 小野
- さくらケーシーエス
- 損害保険ジャパン
- 太陽生命保険
- 富士通アドバンストソリューションズ
- 富士通パーソナルズ
- 三菱東京UFJ銀行
- 良品計画
- 堺市教員（中学）
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（1名）

2013年度
- 池田泉州銀行
- イトキン
- 竹中工務店
- 天満屋
- 兵庫県国民健康保険団体連合会
- 三菱東京UFJ銀行
- 山口銀行
- 高槻市職員

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2012年度
- 中学校教諭一種免許状（音楽）
- 中学校教諭一種免許状（美術）
- 高等学校教諭一種免許状（音楽）
- 高等学校教諭一種免許状（美術）

2013年度
- 中学校教諭一種免許状（美術）
- 中学校教諭一種免許状（音楽）
- 高等学校教諭一種免許状（美術）
- 高等学校教諭一種免許状（音楽）
- 学芸員

旧表現文化論 コース

主な進路

2012年度
- 住友商事
- 第一三共
- ホンコンマダム
- 三菱東京UFJ銀行
- 神戸市職員
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科(2名)

2013年度
- 鴻来堂
- 長沼
- 兵庫大学職員
- 星野リゾート
- 三菱電機
- ラクーン
- レオクラン
- 兵庫県教員(小学)

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2012年度
- 中学校教諭一種免許状（音楽）
- 中学校教諭一種免許状（美術）
- 高等学校教諭一種免許状（音楽）
- 高等学校教諭一種免許状（美術）

2013年度
- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状（美術）
- 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）
- 高等学校教諭一種免許状（美術）
- 特別支援学校教諭一種免許状
- 幼稚園教諭一種免許状
- 学芸員

旧臨床・感性表現論 コース

主な進路

2012年度
- アドバンスト・メディア
- イワタニ近畿
- エコーシステムズ
- 大阪ガス
- 大塚家具
- ナガセケミカル
- JTBコミュニケーションズ
- クイック
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（2名）

2013年度
- アーテック
- エスコミュニケーション
- タイガー魔法瓶
- 武田薬品工業
- ディー・エル・イー
- 日本生命保険相互会社
- 日本放送協会
- パソナ
- 本庄メディカルクリニック
- みなと銀行
- ラプラス・システム
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（1名）
- 神戸大学大学院
  国際文化学研究科

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2012年度
- 高等学校教諭一種免許状（美術）

2013年度
- 中学校教諭一種免許状（美術）
- 高等学校教諭一種免許状（美術）
- 学芸員

人間表現論 コース

Course Keyword【コースキーワード】

□表現創造　□臨床音楽学／舞踊学
□表現文化　□感性心理学

人間のあらゆる営みを,「表現」をキーワードに解明する

私たち人間は,遥か古(いにしえ)の時代より,思考や感情を表現しようとする欲求に駆られて,さまざまな文化を生み出してきました。なかでも,音楽や造形,舞踊といった創造的表現はすぐれて人間的な行為であり,人間を語り,理解するうえで欠かすことのできない重要な営みです。こういった人間の表現について,私たちは,自ら「表現すること」を通じて,あるいは「表現することの意味」や「表現する行為そのもの」,「表現されたもの」といった重層的・複眼的な視点から総合的に探究していきます。そのために,人間表現学科では,まず人間の創造的表現に関する概論を中心とした(文化・芸術に関する)横断的科目群を幅広く履修し,人間の表現に関わる問題群へアプローチするためのさまざまな考え方や方法を多面的に学びます。こうした横断的な一連の学習の成果を参照しつつ学ぶ方向性を見定め,個別の表現領域に軸足を置いた専門科目群の履修を通じて,より専門的に学んでいきます。

たとえば,音楽や美術・デザイン,舞踊に機軸を置いた実践的研究を通じて人間の創造的表現の可能性を多面的に追求したり,あるいは個別の表現領域の枠を超えた総合的な表現の創造に挑戦することも可能でしょう。また建築,デザイン,メディア,ファッション,音楽文化といった近現代において独自の展開を見せてきた人間の創造物や表現行為に関わる歴史や物質文化を,政治や経済,社会,技術といった様々な文脈から学ぶことも可能でしょう。あるいは,音楽療法やダンス療法などの諸芸術療法,感性や心理をもとにした新しいアート・ヒューマンインターフェースの可能性を探ることも可能でしょう。

このように,私たちは,人間の様々な表現や創造活動についての幅広い知識と技術を身に付け,研究,創造及び社会実践に関する優れた能力を有する人材の養成に果敢に挑戦したいと思っています。

主なコース専門科目

□人間表現概論1・2
□創造の発想とプロセスA・B
□表象文化論
□人と音楽
□アートマネジメント
□表現創造演習(企画・総合)
□場所の文化史
□メディア論
□表現の政治学
□舞台芸術論
□音楽作品研究1・2
□ピアノ演奏演習1・2
□立体造形
□舞踊創造論
□ファッション文化論
□人間の発達と表現演習1・2
□音楽民族学
□西洋音楽文化論
□絵画表現
□映像論
□都市と建築の20世紀
□声楽表現演習1・2
□音楽療法論1・2
□デザイン史
□立体投象論
□ダンスセラピー

教員からのメッセージ

自身に向き合い－表現するダイナミズムを自分のものに

岸本 吉弘 准教授(絵画表現)

「ひとつぶの砂にも世界を,いちりんの野の花にも天国を見,きみのたなごころに無限を,そしてひとときのうちに永遠をとらえる。」これは偉大なる詩人であり画家・銅板画家であるウィリアム=ブレイク(イギリス)の詩です。

時間的に永遠,空間的に無限,そうした「普遍的」な価値を描きあらわすことを、古今東西の芸術家(画家)たちは求めてきたのかも知れません。しかしそうした価値であり可能性というのは特別な才能などではなく,実は誰にでも備わっているものなのです。

人間である限り「無限の宇宙(可能性)」が胸中にあります。その各々の宝庫の引出しを「絵画」表現を通じて開いていってもらいたいのです。私はそうした実践をあくまでも重要視し,皆さんには創作活動を「経験」してもらいます。それらは決して楽なことではありません,しかしその「経験」こそが骨肉となり,何にも替え難いあなただけの「人生の価値」となることでしょう。

スタッフと研究分野・研究テーマ

梅宮 弘光 教授	大田 美佐子 准教授	岡崎 香奈 准教授	小髙 直樹 教授	岸本 吉弘 准教授
近代建築史	近現代音楽史, 音楽美学	音楽療法, 即興演奏	感性科学, 図形科学	絵画表現
20世紀の建築について研究しています。とくに日本の大正期, 昭和戦前期。実際に建てられたものだけでなく, 計画倒れや夢想に終わったものも興味深いです。	両大戦間の音楽文化の諸相(音楽・音楽劇における伝統の継承とその展開, 受容の問題)について研究しています。	医療,福祉,教育現場における音楽の臨床的活用について研究しています。特に「表現者としての人間」が即興演奏する行為と,そのプロセスで生起する要素を検証しています。	芸術家の技や個性, デザイナーの暗黙知といった, 曖昧で多義的な感性の世界, いわば形容(動)詞の世界を科学的に取り扱うための方法を探究しています。	現代における「絵画表現」を実践的(実技)また理論的(研究)な両側面より追求し, より本質的な人間表現としての「絵画」像を模索しています。
佐々木 倫子 教授	**関 典子 講師**	**谷 正人 准教授**	**田畑 暁生 准教授**	**田村 文生 准教授**
声楽	舞踊学, コンテンポラリーダンスの創作と研究	民族音楽学・異文化理解教育	社会情報学, 映像論	作曲, 編曲, 西洋芸術音楽を中心とした作品研究
クラシックの声楽曲の中で, 日本・ドイツ・ロシアの歌曲を中心に研究・実践しています。どの歌曲も語るように歌うことがテーマです。	ダンスや身体表現の特質である「現在性」や「コミュニケーション」について, 表現活動と研究活動をフィードバックしながら探究しています。	イラン音楽を題材に,「即興」「伝統」「オリジナリティ」などの諸概念を研究しています。最近はイラン国外に亡命した音楽家達も視野に入れつつ, 伝統音楽の教授法の変遷やエアリエーションを調査しています。	現代は情報社会と呼ばれ, さまざまな情報メディアが社会で利用されていますが, その機能や影響について, 特に映像メディアを中心に, 研究しています。	音楽作品の様式・実態・機能の分析により, 音楽の作られ方・聴かれ方を研究しています。 様々な演奏形態での音楽表現の多様性を, 作品の創作によって提示しています。
塚脇 淳 教授	**野中 哲士 准教授**	**坂東 肇 教授**	**平芳 裕子 准教授**	
美術, 彫刻	認知科学, 生態心理学	器楽(ピアノ, 室内楽)	ファッション文化論, 表象文化論	
20世紀の美術, 特にロダン以降の抽象彫刻について研究教育しています。私自身は彫刻家として鉄の彫刻を制作し, 国内外に精力的に発表しています。	「表現」は外部環境との接点で起こる活動です。人のふるまいが周囲の環境にどのような価値を探りあてているのか, 乳児発達,熟練技能,人工物のデザインなど様々な場面で観察しています。	音の中に込められた想いはどのような形をとって表現となり人の心に達するのか。ピアノ演奏におけるコミュニケーションに内在する原理を探究しています。	ファッションとそれをとりまく文化の歴史を明らかにすることによって, 西洋近現代を中心とするファッションと女性との関わりを考察しています。	

教員からのメッセージ

音楽そのものに加え,音楽を担う人間を探求する

谷　正人 准教授(民族音楽学・異文化理解教育)

私の専門は民族音楽学です。民族音楽の研究というと,ただ「珍しい」地域に行って「珍しい」音楽を「採ってくる」イメージがあるかもしれません。しかし,もしそのような行動だけが目的だとすれば,そこには「音楽を支える人間に対する問い」が欠落していることになります。

「なぜ,音楽がこのようなあり方をしているのか?そうした音楽を担う人々の,どのような精神性がそれを支えているのか?」

こうした問いを重ねてゆくと,音楽研究といえども,それが社会学や文化人類学といった領域の問題意識とも深く重なりあうことがわかってきます。そこで目指されているのは,音楽についての知識の量的な拡大でもなく,また誰も知らないようなトリヴィアルな知識の獲得でもありません。そこにあるのは,これまで自分が前提としていた常識が「書き換え」られ「更新」されてゆくような知的興奮のあり方です。皆さんもぜひそうした興奮を一緒に体験してみませんか。

人間表現論 コース

主な卒業研究テーマ

- チェコ・アニメーション―ズデニェク・ミレル『もぐらのクルテク』を中心に―
- バレエにおける男性の位置づけの変遷―19世紀後半ロシアにおけるバレエ男性ダンサーと振付家の活躍を例に―
- 男性服における異性装ファッション―男性服の歴史から考察する―
- 1970年代神戸における人と街と音楽―喫茶店・ライブハウス文化から見た都市の文化空間的構造―
- 音楽媒体のイノベーションが産業に与える経済的影響について―直近30年間の日本を例にして―
- 芸術文化を活かしたまちづくりについて考える―事例を通して―
- 自治体による路上演奏者支援政策―大阪パフォーマーライセンス制度はなぜ機能していないのか―
- ショパンのエディション比較研究―ポロネーズop.44を例に―
- 日本のピアノ制作の在るべき姿を探る―大橋幡岩のピアノ製作を例に―
- 江戸川乱歩の推理小説と芸術―日本での推理小説普及において果たした役割―
- 女性文化としてのお稽古事、習し事と日本の女性像―近代文化・ジェンダー像としてのピアノを軸に―
- ピアノ演奏における音楽表現のための指遣いについての考察―アルフレッド・コルトー版『厳格な変奏曲op.54』を通して―
- ポピュラー音楽受容における同調と差異化―若年層のアイデンティティを巡って―
- ヴォルフガング・ティルマンスの写真表現―制作者・作品・鑑賞者の関係性をめぐって―
- ミュージカル史における『ライオンキング』
- 公共空間における音環境デザイン研究―発達科学部A棟「D-Room」の音環境を考える―
- 現代演劇の動向とその受容―松尾スズキの作品を例に―
- 大衆とストリートアートの関係性―バンクシー作品を中心に―
- ジャクソン・ポロックとジャズ―即興における絵画と音楽の関連性―
- 奈良美智の絵画と現代人との同時代的な共感性について
- 現代におけるピアノコンクールの役割―その教育的側面に視点を当てて―
- シュルレアリスムにおける「共有」の模索
- コントラバスの弓の種類による奏法と音楽表現の差異に関する研究―奏者の意識調査および音響学的考察を通して―
- 音楽科教育における考察―道徳教育導入の検討を通して―
- プリート・パルンのアニメーションについて―アニメーション史におけるプリート・パルンとその作品―
- 1960年代 - 1970年代のロックミュージック文化におけるプログレッシブロックの受容に関する考察
- 1970年代の身体論―山口小夜子の身体を例に―
- 物語の内容と装丁デザインのマッチングに関する研究
- 宝塚歌劇『ベルサイユのばら』の「型」に関する考察
- 図形記憶における聴覚刺激の影響に関する研究
- 舞踊表現における共有感に関する考察
- 仮面ライダーシリーズの変容―身体運用の変化に注目して―
- ピアスのデザインにおける色と形の効果
- 日本酒ラベルにおける書体の印象と分類
- 少年漫画における主人公のヒーロー性と役割語の関係―90年代前後の週刊少年ジャンプ人気作品を対象として―
- ベーカリーにおけるPOPの効果
- 企業イメージとロゴの関係性
- 舞踊家の社会的地位の現状とその展望

ひとりではできない表現の楽しさを学べる表現学科

学生からのメッセージ

政木 わこ さん（旧表現創造論コース4年生）

私は幼い頃から何かを造ることが好きだったので,大学でも実技的なことを学べるところに進みたいと思ってこの学科に入学しました。芸術大学ではなくこの学科を選んだのは,専門的な分野に偏らずに様々な方向から芸術について学べると思ったからです。美術受験で入学しましたが,美術に限らず音楽や身体表現についての授業も受けることができ,今まで知らなかった表現方法や興味のなかった芸術分野について学ぶことで,興味のある分野がどんどん広がっていきました。また,自分とは違うものを学んできた友人と教え合うこと,それらを組み合わせてみることで,表現する楽しさを改めて感じることが何度もあります。

演習や研究の他にも,作品や演奏を発表する場を自分たちで企画するなど,積極的に活動しています。人を楽しませることを目標に皆で協力して創り上げていくことは簡単ではありませんが,やり遂げた後に得られるものは大きいです。

学生からのメッセージ

何を発達させ科学していくのかは,自分が決めること

岩崎 亮平 准さん（旧表現文化論コース4年生）

私は,今まで音楽を中心に,芸術を創造し表現することだけを考えて生きてきました。「自分の創造表現はこれだ!」というものを確立するまでは決して諦めず,飯や服は二の次,三の次にしてでも,ただただそれに向かって邁進（と呼べるほど自信に満ち溢れている状態ばかりではありませんでしたが）してきたつもりです。そうして,試行錯誤しては行動するということを中学生の頃から続けた結果,34歳になった今やっと「自分の創造表現」の入口に立つことができていると確信しています。その道程にあったのが神戸大学発達科学部であり,そこは,「独自の芸術」という発達させ科学していきたいものがあった私にとって最適な場所でありました。

30歳を過ぎ,社会人特別入試を経て初めて経験している大学生活ではありますが,年齢などに関係なく,ただ前を向いて自分の信じた道を行きたいという思いで生きている者を,懐深く,この学舎は受け止めてくれます。

個が輝き,新たな自分と出会える場所

学生からのメッセージ

西村 滉祐 さん（旧臨床・感性表現論コース4年生）

私は幼少の頃から,クラシックバレエを学んでおり,身体表現受験で入学しました。表現学科では,舞踊を専攻し,実技や舞踊論,ダンス療法といった幅広い分野から学ぶことが出来,日々充実した学生生活を送っています。また大学入学後コンテンポラリーダンスを始め,ゼミ活動としてダンスパフォーマンスを行っています。様々なジャンルのダンスを学んでいる仲間と共に1つの作品を創り上げ,お互いに刺激しあい,成長しながら身体表現を研究しています。この学科の魅力は,音楽や美術といった様々な芸術に触れる機会も多く,自身の専門分野や研究を他ジャンルの芸術を通して,新たな視点から見ることで表現の幅を広げられる点です。

このように,自分のやりたいことに打ち込み,周りの色んな価値観を持った仲間に出会えることは,このコースならではのかけがえのないものだと思います。

人間環境学科

人間発達を支える新たな環境の創造と持続を目指して

学科の理念

人間環境学科では，学生の皆さんは広い知識を身に付けるとともに，人間の発達の在り方に深くかかわる環境の諸問題を総合的・学際的に探究することを学びます。具体的には自然環境，数理情報環境，生活環境及び社会環境の視点から，理系・文系の枠を超えて幅広い教養と多様な専門的知識を身に付け，それらの統合・融合を積極的に図ることを目指しています。これらの学びを通じ，新たな人間環境の創造に向けて理論的・実践的な問題解決の力を得ようとする意欲的な皆さんを，人間環境学科はお待ちしています。

学科の特色

学際性 — 理系・文系の枠組みを超え，多様な知を融合させる

人間の発達と環境の関係をめぐる諸問題は，特定専門分野の方法だけでは捉えられない複雑な構造を有しています。それを理解するには，これまでの学問分野の構成にとらわれず，複数の分野からの複眼的な視点をもつ必要があります。本学科では，理系・文系の枠組みを超え，多様な学的知見の融合をはかり，人間環境に関する諸問題に幅広い視野からアプローチできる人材を養成します。

専門性 — 高度な専門性に根ざし，環境の理解に立ち向かう

他方で，学際的な勉学・研究は，専門性という拠点があってはじめて成り立ちます。複雑で多様な人間環境を理解するためには，しっかりした専門分野をもち，その固有の論理に立脚したうえで，多様な視点を身につける必要があります。本学科は，自然環境論，数理情報環境論，生活環境論，社会環境論という四つの履修コースを擁し，それぞれにおいて高度な専門教育を行います。

実践性 — 問題解決に必要な力を能動的に身につける

人間が発達できる環境をどのように形成し，維持するかは，理論上の問いであると同時に，優れて実践的な課題です。現に私たちは，環境に関する多彩な問題状況に取り巻かれ，その解決を必要としています。本学科は，講義に加え，実験，調査，フィールドワーク，演習，実習などを重視することによって，人間環境の諸問題を実証的に分析し，その解決に能動的に挑戦する人材を養成します。

履修コース

科学の幅広い視野から自然環境の本質を探求してこそ，答えが見えてくる

自然環境論 コース 定員：35名 ▶P50

数理と情報が生み出す精密な道具を手に，情報の海を旅しよう

数理情報環境論 コース 定員：25名 ▶P52

日常生活の現場から環境のあり方を追究する

生活環境論 コース 定員：30名 ▶P54

人間の発達と社会の発展を多様な視点の総合から学ぶ

社会環境論 コース 定員：30名 ▶P56

主な取得可能な資格免許

＊全ての学科に共通の資格免許

- 中学校教諭一種免許状（理科）
- 中学校教諭一種免許状（数学）
- 中学校教諭一種免許状（社会）
- 中学校教諭一種免許状（家庭）
- 高等学校教諭一種免許状（理科）
- 高等学校教諭一種免許状（数学）
- 高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民）
- 高等学校教諭一種免許状（家庭）
- 学芸員*
- 社会教育主事*
- 社会福祉主事任用資格*
- 環境再生医資格*

学科長からのメッセージ

学科長　平山 洋介教授
（生活環境論コース）

私たちを取り巻く環境は，グローバル化，気候変動，資源枯渇，高度情報化，少子高齢化などによって，大きく変わろうとしています。この状況のなかで，人間環境学科は，人間の発達を支える環境の構築を目指し，次のような特徴をもつ教育と研究に取り組んでいます。第一は，学際性です。本学科は，理系・文系の枠を超え，多様な学的知見の統合をはかり，幅広い視野を備えた人材を育成します。しかし同時に，高度な専門性をも重視する点に特色があります。本学科は，専門教育のために，自然環境論，数理情報環境論，生活環境論，社会環境論という四つのコースを擁しています。さらに第三は，実践性です。本学科では，講義だけでなく，実験，調査，フィールドワーク，演習，実習などに力点を置き，人間環境をめぐる諸問題に果敢に挑戦する姿勢を養成します。

入学から卒業までの流れ・カリキュラム

	1年	2年	3年	4年	卒業後
	学部共通科目		発達支援論コースに進むことも可		進路状況P.49参照
	全学共通科目, 全学共通基礎科目				
	学科共通科目				
		コース専門科目			
	コース配属が決まります		ゼミ(研究室)配属が決まります	卒業研究	
全学共通科目	● 教養原論 ● 外国語科目 ● 情報科目 ● 健康・スポーツ科学				
共通専門基礎科目	● 物理学B1・B2 ● 物理学C1・C2・C3 ● 無機化学基礎 ● 有機化学基礎 ● 生物学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ● 基礎地学 ● 線形代数学入門 ● 線形代数学1・2 ● 微分積分学入門 ● 微分積分学1・2 ● 法律学 ● 経済学 ● 政治学 ● 社会学 ● 倫理学	● 物理学B3 ● 物理学C4 ● 物理学実験 ● 数理統計学 ● 人文地理学 ● 外国史 ● 日本史			
学部共通科目	● 発達科学への招待				
学科共通科目	● 人間環境学概論 ● 自然環境概論 ● 数理情報環境概論 ● 生活環境概論 ● 社会環境概論	● 統計の考え方 ● 環境モデリング入門 ● 発達支援論研究	● 高齢者環境論 ● エコロジー論		
コース専門科目 自然環境論	● 自然科学演習 ● 自然科学総合演習	● 自然環境科学実験A・B・C ● 自然環境科学 ● 環境地球科学A・B ● 現代物質科学 ● 現代物理化学A ● 現代生命科学A ● 宇宙史 ● 大気環境学 ● 環境計測学A ● 鉱物学 ● 植物環境学1・2 ● 生活環境緑化論1 ● 生物多様性論 ● 自然環境科学特論A・B ● 自然環境総合演習 ● 情報処理演習 ● 環境数値解析1 ● 応用数学入門・同演習 ● 数理の基礎 ● 解析系の基礎 ● 数理統計の基礎	● 現代物理化学B ● 現代生命科学B ● 環境物理学実験 ● 物質環境科学実験 ● 生物環境科学実験 ● 地球環境科学実験 ● 野外生物学実習 ● 分子生命科学実習 ● 地球環境科学特別講義 ● 地球環境変遷学 ● 宇宙環境物理学 ● 無機化学 ● 環境植物生態学 ● 科学哲学論 ● 環境遺伝学 ● 環境地球化学・同演習A ● 環境計測学B ● 生活環境緑化論2 ● 環境経済学 ● 公衆衛生学 ● 身体適応論 ● 環境物理学 ● 量子物理学 ● 基本粒子物理学 ● 分析化学 ● 環境有機化学 ● 生物有機化学 ● 化学反応論 ● 量子化学 ● 高次分子生命科学 ● 生物環境科学 ● 動物行動生態学 ● 環境地質学・同演習1 ● 地球流体力学 ● 人間環境学総合演習 ● 環境数値解析2 ● 生命情報科学A ● 応用解析学A ● 応用統計学A ● 情報環境科学A・B・C	● 環境地球化学・同演習B ● 環境地質学・同演習2 ● 現代物質科学演習 ● 環境物理学特別演習 ● 生命情報科学B ● 応用解析学B ● 応用統計学B	
コース専門科目 数理情報環境論		● 数理の基礎 ● 数理と計算機 ● 計算機科学A・B ● 幾何系の基礎 ● 解析系の基礎 ● 代数系の基礎 ● 数理統計の基礎 ● 生活環境メカニクス1 ● 生活環境電子計測論1 ● 社会調査法	● 応用代数学 ● 数理と論証 ● 計算機数学 ● 応用解析学A・B ● 応用幾何学A・B ● 応用統計学A・B・C ● 数理情報先端特論 ● 情報環境科学A・B・C ● 代数学Ⅱ ● 解析学Ⅲ ● 幾何学Ⅲ ● 確率論Ⅰ ● 環境経済学 ● 生命情報科学A・B ● 生活環境メカニクス実験 ● ヒューマンエレクトロニクス実験 ● 数理認識発達論 ● メディア論 ● 応用数理特論1 ● 情報環境特論1	● 応用数理特論2・3 ● 情報環境特論2・3	
コース専門科目 生活環境論		● 生活環境基礎実験 ● 生活環境調査法 ● 生活空間計画論1・2 ● 生活環境心理学 ● 生活環境緑化論1 ● 衣環境学1・2 ● 生活環境メカニクス1 ● 生活環境電子計測論1・2 ● 食環境学1・2 ● 植物環境学1・2 ● 生活環境共生論1・2 ● 栄養学 ● 現代生活論 ● ライフスタイル論1・2	● 生活環境緑化論2 ● 住宅設計論 ● 生活電気・機械 ● 生活環境メカニクス2 ● 生活エネルギー機器論 ● 食環境学実習 ● 衣環境学実験 ● ヒューマンエレクトロニクス実験 ● ライフスタイル論実習 ● 植物環境学実験実習 ● 食環境学実習 ● 生活環境共生論実習 ● 生活環境心理学演習 ● 生活環境緑化論演習 ● 衣環境学演習 ● 動作解析コンピュータ演習 ● 植物環境学演習 ● 生活環境共生論演習 ● ライフスタイル論演習 ● 環境経済学	● 生活環境メカニクス実験 ● 生活空間計画論演習	
コース専門科目 社会環境論		● 社会規範論A・B ● 社会文化環境論 ● 産業社会環境論A・B ● 地域社会環境論A・B ● 国際社会環境論 ● 社会環境思想史 ● 社会変動史 ● 産業構造論 ● 労働史 ● コミュニティ論 ● 国際平和論 ● 地域空間システム論 ● 現代日本社会史 ● 生活空間計画論1・2 ● 生活環境心理学 ● 現代生活論 ● 生活環境緑化論1 ● 社会調査法 ● 教育思想史	● 都市地域論 ● 社会政策史 ● 福祉国家論 ● 農村開発論 ● フィールドワーク実習 ● 憲法秩序論 ● 公共性論 ● 家族論 ● 自治体論 ● 国際開発論 ● 環境経済学 ● 生活環境緑化論2 ● 環境植物生態学 ● 数理と論証 ● メディア論 ● 公共性論演習A・B ● 社会環境思想史演習A・B ● 社会文化環境論演習A・B ● 産業構造論演習A・B ● 労働史演習A・B ● 都市地域論演習A・B ● コミュニティ論演習A・B ● 国際開発論演習A・B		

さらに学びたい人は大学院に進学

人間環境学専攻

コース配属について

2年次より各履修コースに所属します。各履修コースの定員は次のとおりです。1年次終了時に行うガイダンスで希望を調整し, 履修コースを決定します。

自然環境論 コース	35名
数理情報環境論 コース	25名
生活環境論 コース	30名
社会環境論 コース	30名

ゼミ配属について

3年次からゼミ（研究室）に所属します。4年次には, 指導教員の下, 所属するゼミ（研究室）で卒業研究を行います。各履修コースで定められたルールに従って, 所属するゼミを決定します。

OB&OG INTERVIEW

INTERVIEW 01

グンゼ株式会社 勤務

池島 宏亮 さん
（2010年3月卒）

人間の生活と環境を総合的に扱う多彩な講義や実習が今に活きる

私はメーカーでインナーウエアの営業担当として勤務しています。人間が快適に生活するための環境や物に興味があり，最も身近な物の1つであるインナーウエアのメーカーに入社を決めました。仕事では，どのような商品が求められているのか?商品の良さや特徴を分かりやすく伝えるためには?等を考える必要があるので，商品や素材に関する事だけではなく，消費者心理も含めた幅広い知識が必要になります。人間環境学科の専攻分野では快適なインナーウエアの条件について，各種測定機器を用いた客観評価に加えて主観評価を行い，快適性の評価に取り組みました。他の分野でも単なる知識の習得だけではなく，実験や実習を多数経験できました。社会人になった今，専攻分野はもちろん，幅広く他の分野も経験できた事が自らの糧となり仕事の様々な場面で役立っていることを実感しています。今に活きる多彩な内容を学べるところ，それが人間環境学科です。

INTERVIEW 02

株式会社
住化分析センター 勤務

小山 泰弘 さん
（2010年3月卒）

幅広い分野を柔軟に学んだことで身につけた社会への適応力

私は学生時代，人間環境学科の分析化学研究室に所属していました。ここでは日々の実験や毎週のゼミなどを通じて，世間でどのような分析技術が必要とされ，またそれに対してどのように取り組んでいくかを学んできました。そして大学で学んだ知識や技術を社会に出ても活かしたいと考え，現在は化学分析の企業で技術者として分析に関わる仕事をしています。

人間環境学科で学んだことは，もちろんこのように社会で直接役立つ場合も多々あります。とはいえ，大学で学んだことを将来どのように活かしていくかは様々でしょう。むしろ学んだ内容そのものよりも，学びを通して自発的に問題意識を持てるようになった点こそが自身のためになる，というのが私の実感です。特に発達科学部には多様な研究分野の人が集まっており，学問以外の部分でも多様な価値観を共有できたことは，私にとっての財産です。今後も，自分の知識を多様な視点で社会に還元できればと思います。

INTERVIEW 03

株式会社
三菱東京UFJ銀行 勤務

櫻井 絵里 さん
（2011年3月卒）

幅広い分野を学び，たくさんの人と出会える環境

私はもともと理系だったので，理系の専門的な学部への進学も考えていました。ですが，幅広い分野を学習でき，将来の選択肢を限定しない自由さに魅力を感じ，この学部を選びました。実際，私は数学を専攻しながら，現在は銀行の法人営業部門に勤務し，様々な企業に対するソリューション—業務上の問題点や課題を解決するための手段—を提供する業務を行なっています。

こう書くと，大学での勉強と仕事が無関係に見えるかもしれません。ですが，銀行の営業は様々な業種の人と話す機会が多く，幅広い価値観と多様な視点が求められる仕事です。発達科学部では多様な分野の人が仲良く交流でき，自然に多様な視点が身につきますし，卒業研究を進める中でも論理的な考え方と多面的な見方を学ぶことができました。

社会人になってからも，人との出会いを大切にし，何事も幅広く貪欲に学んでいきたい，そう思える基盤を作れたのは，人間環境学科で学んだ成果なのです。

INTERVIEW 04

西日本旅客鉄道
株式会社 勤務

林 風介 さん
（2009年3月卒）

大学時代の行動原則は興味・関心—勉強も遊びもそれに尽きます

皆さんは鉄道会社が多くの商業施設を保有していることをご存知でしょうか。学生時代，私は建設途中のJR大阪三越伊勢丹やルクアで働きたいと思い，JR西日本という鉄道会社に就職しました。現在はその念願が叶い，大阪駅のJR大阪三越伊勢丹のワイン売場で働いています。

鉄道会社の社員が百貨店で働いていることに皆さんは違和感を覚えるかもしれません。私が商業施設に携わりたくて鉄道会社に入ったのは，所属していた都市地理学のゼミで，商業施設など都市機能の裏側・仕組みを学べたからでした。今，自分の興味・関心と直結した仕事を出来ているのは，振り返れば，学科内で自分の興味・関心に基づいて自由に学ぶ内容を選択できた結果だと思います。その意味で，人間環境学科は自分の真にやりたいことを見つけるには最適でした。皆さんにもたくさんの選択の機会が待っています。ぜひ自分の興味・関心を大事にして下さい。未来はそこから見えてきます。

主な進路・主な資格免許の取得状況

自然環境論 コース

主な進路

2012年度
- 花王プロフェッショナル・サービス
- 関西電力
- 西日本電信電話
- 日立システムズ
- プロクターアンド・ギャンブル・ジャパン
- 法務省
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（7名）
- 京都大学大学院地球環境学研究科

2013年度
- 花王カスタマーマーケティング
- 関西アーバン銀行
- キリンビバレッジ
- シミック
- トヨタ自動車
- 阪急電鉄
- 富士通システムズ・ウエスト
- 三井住友銀行
- 三菱東京UFJ銀行
- 兵庫県教員（高校）
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（13名）
- 名古屋大学大学院環境学研究科

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2012年度
- 中学校教諭一種免許状（理科）
- 中学校教諭一種免許状（数学）
- 高等学校教諭一種免許状（理科）
- 高等学校教諭一種免許状（数学

2013年度
- 中学校教諭一種免許状（理科）
- 高等学校教諭一種免許状（理科）
- 環境再生医

数理情報環境論 コース

主な進路

2012年度
- 成学社
- 大阪府教員（高校）
- 大阪府教員（中学）
- 香川県教員（中学）
- 神戸市教員（中学）
- 京都府教員（高校）
- 滋賀県教員（高校）
- 滋賀県職員
- 長岡京市職員
- 奈良県教員（高校）
- 兵庫県教員（中学）
- 和歌山県教員（中学）
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（4名）
- 京都工芸繊維大学（編入）

2013年度
- さくらケーシーエス
- 成学社
- 千趣会
- ワオ・コーポレーション
- USEN
- WAVE
- 大阪府教員（高校）
- 兵庫県教員（高校）
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（8名）
- 大阪教育大学大学院
  教育学研究科

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2012年度
- 幼稚園教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状（理科）
- 中学校教諭一種免許状（数学）
- 高等学校教諭一種免許状（理科）
- 高等学校教諭一種免許状（数学）

2013年度
- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状（数学）
- 高等学校教諭一種免許状（数学）

生活環境論 コース

主な進路

2012年度
- アサツーディ・ケイ
- 関西アーバン銀行
- 京都造形大学職員
- 近畿大学付属福山高等学校・中学校教員
- 小林産業
- ジェイアール東海高島屋
- 神鋼環境メンテナンス
- ソフテム
- 立川ブラインド工業
- 中央労働金庫
- 西日本旅客鉄道
- 日本生命保険相互会社
- 日本電気
- 日本バイリーン
- ファースト住建
- 三菱商事ファッション
- 裕幸計装
- NRIネットコム
- 大阪狭山市職員
- 裁判所
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（1名）

2013年度
- 伊藤工機　・伊予銀行
- ヴィス　・大阪ガス
- 関電不動産
- ソフトバンクモバイル
- 大和ハウスインシュアランス
- 中央コンピューター
- 東レ　・阪急阪神ホテルズ
- 日立造船　・広島銀行
- 兵庫医科大学　・兵庫大学
- フィールズ　・マイナビ
- 毎日新聞社　・三井住友銀行
- 三菱商事ファッション
- 三菱東京UFJ銀行　・みなと銀行
- りそな銀行　・JTB西日本
- MUS情報システム　・SUS
- 神戸市職員　・奈良市職員
- 農林水産省 林野庁　・広島市職員
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（3名）
- 名古屋大学大学院
  創薬科学研究科

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2012年度
- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状（家庭）
- 中学校教諭一種免許状（数学）
- 高等学校教諭一種免許状（家庭）
- 高等学校教諭一種免許状（数学）

2013年度
- 中学校教諭一種免許状（家庭）
- 高等学校教諭一種免許状（家庭）
- 学芸員
- 環境再生医

社会環境論 コース

主な進路

2012年度
- アップ
- 四国電力
- 住友生命保険相互会社
- 双日
- 大東建託
- トヨタ自動車
- 日本放送協会
- パソナ パソナキャリアカンパニー
- 阪急電鉄
- 日立ソリューションズ
- 富士通
- 三菱電機
- ローソン
- JTB中国四国
- JX日鉱日石金属
- 鹿児島県職員
- 神戸市職員
- 裁判所
- 福岡市職員
- 和歌山県職員

2013年度
- ウイングル　・宗教法人 圓通寺
- 関西アーバン銀行
- 関西医科大学
- キヤノンシステムアンドサポート
- コスモ石油　・スズキ
- 全国農業協同組合連合会
- 東急不動産　・西日本電信電話
- ハート介護サービス
- パソナ パソナキャリアカンパニー
- 姫路商工会議所　・三菱マテリアル
- リコージャパン
- DNPメディアクリエイト
- 石川県職員
- 国土交通省神戸運輸監理部
- 財務省近畿財務局
- 奈良県教員（小学）　・兵庫県職員
- 神戸大学大学院
  人間発達環境学研究科（1名）
- 神戸大学大学院
  国際協力研究科

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2012年度
- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状（社会）
- 高等学校教諭一種免許状（公民）
- 高等学校教諭一種免許状（地歴）

2013年度
- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状（社会）
- 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）
- 高等学校教諭一種免許状（公民）
- 幼稚園教諭一種免許状
- 学芸員

自然環境論 コース

Course Keyword【コースキーワード】

- □自然環境の多角的理解
- □異分野との相互刺激
- □環境物理学
- □物質環境
- □地球環境
- □生物環境

科学の幅広い視野から自然環境の本質を探求してこそ，答えが見えてくる

環境問題に根本から取り組もうとするならば，自然の成り立ちや法則を本質から理解することが必要不可欠です。特に現在は，人類が宇宙へと本格的に足を踏み入れた宇宙時代の黎明期とも言うべき時代です。人類がこの時代にふさわしいアイデンティティーを確立できるか否かは，宇宙の創成と進化，太陽系や地球の形成の歴史，さらに物質の化学進化を経て生命の誕生と進化に至る壮大な歴史と，その中の個々のプロセスとを科学的に解明してはじめて得られる，透徹した認識にかかっていると言えるでしょう。環境問題の根本への取り組みも，こうした広い認識があって初めて可能となるのです。だとするなら，現在求められているのは，物理，化学，生物，地学など旧来の学問枠組にとらわれず，対象によって自分自身のポジションを自在に変えながら，広い視野から状況に応じた解決策を見出すことに他なりません。

このような考えのもと，自然環境論コースでは，環境破壊などの身近な問題だけでなく，地球や宇宙の様々な場での物質と生命の多様な現象を本質から理解するための授業科目を用意しています。このコースでは，早くから自分の専門分野を限定せず，自然科学の様々な方法論の基礎を習得する事に特色があります。高学年次では，具体的な問題をより深く追求するため，環境物理学，物質環境，地球環境，生物環境の4つの教育研究分野から2つを選び，さらに専門的に学習，研究します。4年生になると具体的な課題を決めて研究の訓練をすることになります。そのときには，生物学と化学，生物学と地球科学，化学と物理学などの境界領域の研究や環境問題の背後にあるより基礎的なテーマについての研究も可能です。

主なコース専門科目

- □環境地球科学A・B
- □現代物質科学
- □現代物理化学A・B
- □現代生命科学A・B
- □大気環境学
- □環境計測学A・B
- □鉱物学
- □植物環境学1・2
- □生物多様性論
- □地球環境変遷学
- □宇宙環境物理学
- □無機化学
- □環境植物生態学
- □環境遺伝学
- □環境地球化学・同演習A・B
- □環境物理学
- □量子物理学
- □分析化学
- □環境有機化学
- □生物有機化学
- □化学反応論
- □量子化学
- □高次分子生命科学
- □生物環境科学
- □環境地質学・同演習1・2

教員からのメッセージ

宇宙科学と持続可能な社会づくり

伊藤 真之 教授（宇宙物理学・科学教育）

20世紀，人類は地球大気圏を出て宇宙空間に探査機を送り出す技術を手にしました。人工衛星を利用した宇宙観測により，地上からの観測では得られない宇宙の姿を捉えることが可能になりました。人間にとって宇宙は，最も大きな意味での環境であるとともに，そのフロンティアでもあります。私の研究領域の一つはこのような人工衛星を利用した宇宙観測で，現在は大学院生や卒業研究の学生とともにX線望遠鏡と検出器を別々の人工衛星に載せて宇宙を観測し，多くの巨大ブラックホールを探る計画の検討に参加しています。また，月周回衛星「かぐや」によって得られたデータを解析して，月の放射線環境や地殻構造等について調べる研究を進めています。さらに，これらと並行して，持続可能な社会の発展に向けて，地域社会の中で科学者と市民の対話と協働を促すしくみづくりにも取り組んでいます。未来の社会を担う皆さんと研究に取組めるのを楽しみにしています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

(rp) 2015年3月31日をもって退職の予定

青木 茂樹 教授	蘆田 弘樹 准教授	伊藤 真之 教授	丑丸 敦史 教授	榎本 平 教授
素粒子・宇宙線物理学	光合成酵素・代謝制御学	宇宙物理学，科学教育	植物生態学	分子生物学
素粒子および宇宙線に関する実験的な研究をしています。	植物や藻類の光合成機能の解明とその環境問題解決への応用。特に，光合成炭素固定酵素RuBisCOに注目し，触媒・機能発現機構，構造活性相関，分子進化など様々な角度から研究を行っています。	人工衛星等によって得られるデータを用いた宇宙の観測的研究や地域社会における市民科学活動支援システムの構築に関する研究をしています。	花（被子植物）の形質進化や多様性創出機構および里山や都市域における生物多様性保全を目的とした希少種の分布特性・環境依存性の解明を目指しています。	高増殖性・高重油生産性を有する重油生産藻類 Botryococcus brauniiの開発に関する研究や遺伝子クローニング技術の開発を行っています。
江原 靖人 准教授	蛯名 邦禎 教授	大串 健一 准教授	齊藤 惠逸 教授	佐藤 春実 准教授
生物有機化学	環境物理学，理論生命科学	地球環境	分析化学	高分子化学・環境調和型高分子学
生物の優れた能力を利用した，新規機能性物質の創製，さらに，それらの物質を組み合わせた人工細胞，人工生命の構築を行っています。	地球システムと生命システムのダイナミクスを理解するための基礎理論の構築と，環境問題に係わる科学研究の成果の批判的な検討を行っています。	地球環境変動のメカニズム解明に向けた古環境研究を行っています。	発光現象を利用した物質の分析法，有機化合物を用いた金属イオンセンサー，ストレスマーカー測定法の開発に取り組んでいます。	環境にやさしい生分解性高分子の構造と物性について，主に振動分光法とx線回折法を用いて研究を行っています。
高見 泰興 准教授	田中 成典 教授	寺門 靖高 教授	中川 和道 教授 (rp)	源 利之 特命助教
進化生態学	計算生物学，理論生命科学	環境地球化学	放射光物性物理学，環境物理学	水域生態学，環境生理学
地球上の多様な生物が，どのように生じ，維持されているのかについて，形態学，行動学，生態学，進化学の各視点から研究しています。	タンパク質やDNA，RNAなどの生体分子に対する計算機シミュレーションや原子・分子のミクロなレベルからコンピュータ上で構築する理論構造生物学について研究しています。	河川水，生物が作る鉱物，地殻を構成する岩石・鉱物などの様々な地球表層物質についての元素濃度や同位体組成を用いた地球環境の地球化学的研究を行っています。	大気環境科学（太陽を光源とした温暖化ガスの検出など）やシンクロトロン放射を用いた生体分子の分光（アミノ酸やDNA分子など）に関する研究を行っています。	主に河川や湖沼を対象として，広い意味での生態学・環境生理学に取り組んでいます。環境DNAなど，新しい技術の開発も行っています。

主な卒業研究テーマ

- テトラチオエーテル類をイオンノフェアとしたイオン選択性電極の研究
- 電気化学発光検出を用いた微小流体デバイスの開発
- インフルエンザウイルスと結合する糖鎖修飾核酸の合成
- 糖鎖修飾核酸に対するインフルエンザウイルス結合能の評価
- オオオサムシ亜属における雌雄交尾器の形態変異の解析
- メスによる選択の場としての花柱
- 河川水中環境DNAの同時検出による希少種と近縁外来種の分布調査 －オオサンショウウオ属を対象とした検証例－
- 藻類における炭素濃縮機構遺伝子CCM1/CIA5のクローニング
- 飼育実験によるサンゴ骨格中の微量元素の測定と分配に関する考察
- 宇宙ガンマ線精密観測計画GRAINE－次期フライトのための多段シフター駆動試験－
- 放射線教育カリキュラム要素の開発
- 近年の有害紫外線量増加傾向の要因を探る
- 真空紫外線照射を停止した後も持続する反応を考慮した化学進化量子効率の決定法
- SELENE搭載α線観測器による月面α線強度分布の導出 －コリメータ角度応答関数を考慮した解析アルゴリズムの開発と適用－
- インフルエンザウイルスとの結合能を有する糖鎖修飾核酸の合成
- Botrococcus braunii 共生細菌の単離・同定と培養系に与える影響
- 都市のツユクサ集団における送粉者の減少と自殖性の進化
- 低層大気自動測風システムの動作条件の検討
- 六甲山地における花崗岩の風化と断層の影響評価
- 2011年東北地方太平洋地震による津波堆積物の堆積学的研究
- 月面突発発光現象の観測と新たに形成されたクレーターの探査

学生からのメッセージ

恵まれた環境のなかで 自分を磨くことができる場所

丹羽 萌子 さん（自然環境論コース4年生）

地球温暖化，生物多様性，エネルギー開発…我々の身の回りには，数多くの自然環境に関する問題が山積しています。これらの問題にアプローチしていこうと考えたとき，必要とされるのが幅広い知識です。広い視野を持つ学生が育つ場所，それが自然環境論コースです。

自然環境論コースでは3回生まで物理，化学，生物，地学を学び，4回生で自分の専門分野の研究室に所属します。2,3回生では個人でテーマを設定して，研究を行うという授業があります。私はその授業に参加し，ひとつの研究が様々な分野との相互作用によって生み出されていくということや，日頃の学習が持つ重要性を，強く実感しました。

その他にも研究所見学ツアーや合宿など，学生が成長する為の貴重な機会がたくさん与えられます。また，スポーツ・バーベキュー大会など多くの行事が行われ，コース内の仲の良さも魅力です。自然環境を学ぶ上でこれほど恵まれた環境はないと私は感じています。

数理情報環境論 コース

Course Keyword【コースキーワード】

- □情報環境
- □現象の数理的モデル化
- □論理的思考
- □数理的手法の理論と応用
- □情報処理の理論と実務
- □統計的手法の理論と応用

数理と情報が生み出す精密な道具を手に,情報の海を旅しよう

アメリカの調査会社によると,2006年のデジタル情報の総量は,これまでに書かれた全書物の情報量の数百万倍にのぼるそうです。しかもその量は数年でさらに数倍に増えたとも言います。この膨大で多様な情報の海が,人間の知的発達や産業構造に多大な変化を与えつつあることは言うまでもありません。こうした現代の情報環境で,情報の海に漂流することなく様々な問題を解決するには,何よりも信頼できる精巧な道具が必要です。そしてその基礎的技法を与えるのが数理情報環境論コースなのです。

このコースでは,数理的理論を基礎から応用まで幅広く学ぶこと,様々な情報環境問題を数理的に捉え,解析し,処理する能力を養うことを2つの柱にしています。2年次では,具体的な問題解決に必要な数学や情報科学の基礎理論を学びます。論理的な思考にもとづいてものごとを正確に表現するトレーニングを行い,プログラミングやネットワークに関する基礎知識を習得します。3年次では,次の3つの領域で学んでいきます。情報数理では,情報環境を構成するコンピュータを理論的に考察し,計算やプログラムのしくみなど情報そのものがもつ数理的メカニズムの解明を目指します。応用数理では,自然科学や社会科学に現れる様々な現象を数学的な視点からモデル化するとともに,そのモデルをコンピュータで詳しく解析する方法についても学びます。情報統計では,私たちの身近に存在する様々なデータを考え,情報のもつ理論的な背景を考察し,統計学的な問題解決の方法について学びます。そして3年次後半から4年次にかけて,いよいよ各自で課題を設定し,これまでに身につけた道具を駆使して問題の解明を目指し,結果を卒業論文にまとめます。情報の海を縦横無尽に旅したいあなたをお待ちしています。

主なコース専門科目

- □数理の基礎
- □数理と計算機
- □計算機科学A・B
- □幾何系の基礎
- □解析系の基礎
- □代数系の基礎
- □数理統計の基礎
- □応用代数学
- □数理と論証
- □計算機数学
- □応用解析学A・B
- □応用幾何学A・B
- □応用統計学A・B・C
- □数理情報先端特論
- □情報環境科学A・B・C
- □応用数理特論1・2・3
- □情報環境特論1・2・3

スタッフと研究分野・研究テーマ

稲葉 太一 准教授
数理統計学, 応用統計学, データ解析
統計学は, データを解析することから始まります。学部生の間に, 自分の興味を持てるテーマを選び, 適切な統計手法の適用方法を研究することを目的としています。

桑村 雅隆 教授
応用解析学
物理学, 化学, 生物学などに現れる問題を解析学（微分積分学を基礎としている数学の一分野）とコンピュータシミュレーションを利用して調べています。

阪本 雄二 准教授
数理統計学
水の流れの中を漂う花粉の運動や株価の変動のような時々刻々とランダムに変化する現象について, そのメカニズムを解明するデータ解析法を研究しています。

高橋 譲嗣 教授
数理論理学
論証による証明を効率よく理解しかつ正しく書くために有効な実践的知恵の体系化, 及び数理的方法全般の数理論理学的手法を用いた考察に取り組んでいます。

髙橋 真 教授
情報論理学
システム検証 （ソフトウェアが信頼できるかどうかを数学的な方法で検証する方法）と公理的集合論（集合の理論を公理的に扱う体系）を研究しています。

長坂 耕作 准教授
計算機代数
数値・数式融合計算（パソコン上で様々な計算を行うために必要な理論研究やプログラミングによる実現）と, その応用（ICTによる様々な分野への展開）について研究しています。

宮田 任寿 教授
幾何学的トポロジー
様々な図形をトポロジーと呼ばれる「柔らかい幾何学」によって分類したり, その考え方や技術を数学内外の様々な分野に応用する研究をしています。

主な卒業研究テーマ

- サッカーにおけるボランチからのパスについての分析
- 自治体による放射線量測定データの分析
- 紫外線強度の尺度(UVインデックス)の背景と気象条件による影響分析
- ブロックの枚数と決定率
- Digital topology
- ランダムフラクタル
- 測度と積分
- 形式仕様記述とモデル検査
- モデル検査の基礎とUPPAALによる検証
- サッカー日本代表試合分析～サッカー界における通説の解析～
- 統計学における近似公式について
- 広報システムの開発2011
- より快適な Web ブラウジングの為のユーザ補助の検討
- Androidによる手書き計算アプリケーションの設計と開発
- ２人ゼロ和有限確定完備情報戦略型ゲームの解の考察
- スクイークEtoysとDr.Geoの数学教育への活用について
- 数理論理学と超準解析について
- 自然数論とゲーデルの不完全性定理について
- インフルエンザによる学級閉鎖の基準制定の影響について
- Fixed Points and An Application to Economics
- On Kakutani's Fixed Point Theorem
- Game Theory and the Nash Equilibrium
- Fixed Point Theorems and Applications
- 複素関数について
- 学生食堂の売上解析
- カイ二乗分布の自由度
- 正規確率場の最大値の分布 tubeの方法とその応用
- ウィルソンーフィルファティ近似とポールソンー竹内近似

教員からのメッセージ

証明のつぼを身につけよう, どつぼさんとさよならしよう

高橋 譲嗣 教授（数理論理学）

数理の世界では演繹的論証により定理を証明するという営みが重要な役割を演じます。私のゼミでは, ひとまとまりの数理的理論を時間をかけてじっくり勉強しながら, 数理的証明の技法に習熟することを目指します。

証明は小さな推論を積み重ねて作られます。単位となる推論の一つ一つは至極単純なのですが, ひとかどの定理を証明するとなると何百何千もの推論を1か所の間違いもなくつなぎ合わせる必要があり, これは一筋縄では行きません。しかし, 推論の組み合わせ方にはある程度決まったパターンがあり, 迷路のように推論が錯綜して見える証明にも, 核となる流れ, そこから派生する支流等からなる構造があり, 証明の記述の仕方を工夫することでその構造をより効率よく管理することができます。こうした知恵を身につければ, 証明とは手におえない化け物ではなく, 一定の法則によって制御できる綺麗な構造体であることが見えてきます。一緒に体験してみませんか？

学生からのメッセージ

いろんなタイプの幼い数学者が課題に取り組んでいます!

中島 健太朗 さん（数理情報環境論コース4年）

ここは,文系から理系,いろんなことが勉強できる,いろんな考えの人と友達になれるところです。そのため,一年目は自分の考え方や進路選択がより拡がって,いろんなタイプの人と話す機会が持てました。

二年目からコース配属で,数理情報環境論コースを選びました。なんだか難しそうな名前ですよね（笑）。実際,解析や代数などが登場したとき,数学にはこんなにも分野があるんだと驚き,内容も「大学の数学」で難しいものでした。何より苦戦したのはプログラミングで,慣れない手つきでコンピュータに触る機会も増えました。しかし不思議なもので,これらを十数人のコースの仲間たちがあぁだこうだといって一緒に解いていく,これが楽しいんです。学んだことは今の私の学習の基盤になっていて,少し数学者になった気分です。ここでは,専門的な数学の研究ももちろんできますし,私を含めた十数人のにわか数学者たちが大学生ライフを送っています。

生活環境論 コース

Course Keyword【コースキーワード】

□生活の質（QOL）　□生活空間
□安全・安心　□生活技術
□持続可能　□生活資源

日常生活の現場から環境のあり方を追究する

昔,「大人になる」とは親世代と同じ暮らしをすることでした。しかし現代の私たちは，誰も「大人になれば親世代のように暮らす」などとは思えません。私たちの暮らしと，それを取り巻く環境との変化は，それほど激しく急速になっています。日々創られる最先端技術は日常生活の利便性を高める一方で，暮らしと環境に関わる新たな課題も生み続けています。生活の基礎条件である衣食住さえ，つねにその様相を変え続けています。さらに住まいから近隣，都市までの生活を取り巻く空間の変貌ぶりは言うまでもありません。私たちの生活環境は，かつてなく複雑な状況の中に置かれているのです。

そこで生活環境論コースは，日常生活と環境の関係をどのように理解し，組み立てるべきかという問題に対処できる人材の養成を目指しています。具体的には私たちが暮らし，働き，憩うための空間をどのように創造すべきかについて，住居，福祉施設，緑地，都市などの空間の実態を調べ，生活環境のあり方を考える「生活空間領域」，さまざまな技術が，衣食住にかかわる生活用品や健康と福祉にかかわる機器などにどのように用いられ，暮らしの環境に影響を及ぼしているか，その現状を把握し，技術利用の方向性を考える「生活技術領域」，食糧，水，エネルギーなどの資源環境と暮らしがどのような関係をもつべきなのかを追究し，生活のための資源利用・保全・管理の方法を考える「生活資源領域」という3つの領域から生活環境を捉えます。実験，フィールドワーク，シミュレーションを組み合わせて生活環境の分析を進め，生活製品設計の提案，福祉機器開発，食糧生産のあり方，まちづくりへの参画，高齢者施設計画への参加，環境負荷低減など，実践的なプロジェクトを重視して問題解決のための教育・研究を行っています。

主なコース専門科目

□生活環境基礎実験　□生活環境緑化論1・2　□食環境学1・2　□現代生活論　□生活エネルギー機器論
□生活環境調査法　□衣環境学1・2　□植物環境学1・2　□住宅設計論
□生活空間計画論1・2　□生活環境メカニクス1・2　□生活環境共生論1・2　□生活電気・機械
□生活環境心理学　□生活環境電子計測論1・2　□ライフスタイル論1・2　□栄養学

教員からのメッセージ

食生活が生み出す環境問題に「実験+学際的視点」でアプローチ

白杉 直子 教授（食環境学）

食環境学研究室では,「食生活が生み出す環境問題」を,食卓だけではなく食糧生産の場まで遡って考えます。例えば,現代日本の農業が抱える問題として,農地における肥料の与え過ぎがあります。農作物の生産性を上げるために行われている多施肥が地下水の窒素汚染などの環境問題を引き起こしているのです。地下水の飲料水としての安全性に問題が起こるだけでなく,野菜などの農作物自体の安全性にも影響を与えています。この問題の解決を目指して,生産農家の協力を得て,圃場に赴き,土壌溶液などの試料を自分たちの手で採取し,研究室に持ち帰ります。実験室で主に化学実験の手法で試料を分析します。調理室では食味などの検査をします。時間と労力が掛かりますが,まだ誰も知らない事実を自らの手で明らかにしていくのは楽しいことでもあります。責任を持って出した実験データを基に,消費者の意識にまで遡って解決の糸口を探そうとするのが当研究室の特色です。

スタッフと研究分野・研究テーマ

(rp) 2015年3月31日をもって退職の予定

市橋 秀樹 教授 (rp)	井上 真理 教授	近江戸 伸子 教授	佐藤 真行 准教授	城 仁士 教授
植物環境学	衣環境学, 感性工学	環境バイオテクノロジー	ライフスタイル論、環境経済学	生活環境心理学
植物が生活環境において果たしている多様な働きを量的に評価して，それに基づいた植物を利用した快適な生活環境作りについて研究しています。	着用感・使用感の良い製品設計のために，繊維状材料をはじめ生活の中で人が触れて用いる材料の特性と人間の感覚との関係を捉える研究を行っています。	農業，医療，食糧生産，環境保全に貢献するための人間生活の中で変化する環境に対応する植物バイオテクノロジーに関連する研究を行っています。	環境・資源制約のもとでの経済システムと,そのときの人々のライフスタイルの分析を中心に,生活の質と社会・環境・経済の持続的発展について研究しています。	身近な生活環境での人間活動の心理学的解明を行っています。研究者と研究対象者の協同的実践で新たな人間科学的意味の再発見に努めています。
白杉 直子 教授	**田畑 智博 准教授**	**平山 洋介 教授**	**福田 博也 准教授**	**矢野 澄雄 教授**
食環境学	環境システム工学	生活空間計画	生体電子計測, ヒューマンエレクトロニクス	振動工学, バイオメカニクス
食生活が生み出す環境問題（台所排水の汚濁負荷，過剰肥料による地下水の窒素汚染）に関する研究や食品成分からみた味覚研究を行っています。	地域，個人等，様々なレベルでの環境負荷の発生要因やその構造を調査，解析し，解決に導くための手法論を提案する研究を行っています。	住居からコミュニティ，都市にいたる生活空間をどのように構想すればよいのか，という問題を理論と実証の双方から考えています。	人や植物の生体電位を計測することにより，人と環境に優しい技術・物としての「ヒューマンエレクトロニクス」について研究しています。	日常生活動作を力学的に分析し，骨や筋肉などの身体機能・特性を計測して福祉・介護や健康科学関連の機器・用具の開発などにかかわる研究を行っています。

主な卒業研究テーマ

- バイオ燃料植物ジャトロファの花の形態学的研究
- 日本のクズの系統間における核型解析による遺伝的差異
- ジャトロファの早期開花に向けた培養と接ぎ木法の確立
- 海外留学の意思決定における阻害要因の検討と海外留学促進に向けて
- 就職活動における自己効力の変動と不安について
- 仮想的有能感と協同作業認識およびソーシャルスキルとの関連
- 教育実習における「あがり」の原因帰属と対応策　ーその構造と関係性ー
- Facebook におけるトラブルやストレスの実態とその対策
- VORTEX 糸の製造条件の違いが糸の物理的性質に及ぼす影響
- 繊維素材や糸構造の違いが熱・水分移動特性に及ぼす影響
- 綿布の仕上げ加工が材料特性と着用感に及ぼす影響
- レディースインナーにおける材料の物理特性と着心地の関係性について
- ボディタオルの肌触りと物理特性
- 人工芝のねじり特性とその耐久性能
- 高齢者の生活空間としての商店街
- 団地居住高齢者の生活空間に関する研究　ー住戸内完結型生活とネットワーク支援型生活ー
- ストリートダンサーの都市空間
- 東日本大震災における広域避難者の住宅確保と生活再建
- 団地再生への親子ネットワークの役割
- 持家社会形成の言説分析
- 育った環境と大学生の緑化に対する意識形成
- アンデスのご飯はなぜまずいのか？　ーアンデス地方の米飯の再現と物理・化学的特性の検討ー
- ハンバーグステーキの焼成条件の違いが消費エネルギー及び CO_2 排出量に及ぼす影響
- 調理上の工夫による日本人のアフラトキシン摂取量の低減化に関する研究　ー洋菓子におけるアーモンドパウダーの代替可能性ー
- 'やぶきた'と'こまかげ'の減肥有機栽培二番茶の呈味成分と抹茶チョコレートの品質の比較
- 消費者のごみ排出抑制に対する受容性の評価
- 建設業から林業への人材移転による切捨間伐材のエネルギー利用促進可能性の検討
- 大学生の生活行動とそれに伴う二酸化炭素排出構造の評価

学生からのメッセージ

ホントの自分に気づかせてくれる場所，可能性を広げてくれる場所

三島 尚樹 さん（生活環境論コース4年生）

「将来の夢が決まっていないからどの学部に行けばいいか分からない…」

僕が受験生のとき,このせいで勉強のモチベーションが出なかったのを覚えています。そこで出会ったのが発達科学部,この生活環境論コースです。

このコースの良さは何と言っても「いろいろなチャンスに巡り会える」ということです。ここでは,いろいろな学問に触れることで字面では知り得ない学問の「中身」を体感することができ,受験生の頃では想像もつかなかったような自分の本当の興味を見つけることができました。

授業の他にも,2回生の頃に留学をした経験から英語に興味を持ち,このキャンパス内でSkype英会話に定期的に参加したり,TOEICのセミナーを受講したりなど,さまざまな機会があふれています。

今ではこのコースでの勉強に励みながら,傍ら路上ライブやインターネット上の動画配信などの音楽活動にも力を入れ,勉強と自分の興味を両立したキャンパスライフを楽しんでいます。

社会環境論 コース

Course Keyword【コースキーワード】

□グローバル化　□新自由主義
□地域社会　□第三世界
□文化変容　□公共性

人間の発達と社会の発展を多様な視点の総合から学ぶ

「社会」とは不思議なものです。一方で，社会とは一人一人の人間の集合であり，つまり社会を形作っているのは他ならぬ私たちです。そして私たちはこの社会の中で，迷いや力不足を感じつつも，他の人たちとともに少しでも幸せに，充実して生きていこうとしています。より良い生き方を目指して他の人たちと協働する場，それが社会であるはずです。

しかし他方で，私たちはこの社会の中で，必ずしも思うように生きていくことができません。いや，「思うように」どころか，せめて「もう少しマシな」生き方を目指すことさえ簡単ではないのが現実でしょう。むしろ様々な壁に囲まれ，「生きにくい」と感じている人も少なくないようです。しかもその苦しみや不安，窮屈さは，最近ますます強まってはいないでしょうか。

私たち自身が社会を作っているはずなのに，なぜこうなるのか。一体どうすれば今の状況を変えられるのか。そして何を目指して進むのか――こうした問題を考えるのが，社会についての新しい学問である【社会環境論】です。

【社会環境論】では，社会を人間の自由な発達のための環境として捉えます。今の社会で私たちはどんな状況に置かれているのか，私たちはなぜ今のような社会を作り出したのか，一人一人が充実して生きるためにはどんな社会が良いのか，そしてそうした社会を私たち自身がどう作り上げるのか。これが【社会環境論】のテーマです。

ですが，このテーマに取り組むには社会を多面的に見る必要があります（社会全体にかかわる問題を一つの解法で解けるわけがありません）。そのために【社会環境論】は様々な分野（政治，経済，法律，歴史，地理…）をベースにしながら，その枠を越えた学問を目指してチャレンジしています。

あなたもこのチャレンジに参加してみませんか?面白さは保証つきです。

主なコース専門科目

□社会規範論A・B　□社会環境思想史　□国際平和論　□福祉国家論　□自治体論
□社会文化環境論　□社会変動史　□地域空間システム論　□農村開発論　□国際開発論
□産業社会環境論A・B　□産業構造論　□現代日本社会史　□フィールドワーク実習　□環境経済学
□地域社会環境論A・B　□労働史　□都市地域論　□公共性論
□国際社会環境論　□コミュニティ論　□社会政策史　□家族論

スタッフと研究分野・研究テーマ

浅野 慎一 教授	井口 克郎 講師	岩佐 卓也 准教授	太田 和宏 准教授	岡田 章宏 教授
社会文化環境論，社会学	経済学，社会保障	社会政策	途上国政治経済	社会規範論，イギリス統治構造論
国境を越えて移動する人々を主な対象として，歴史に翻弄されながらも，自ら主体的に新たな歴史を創り出す諸個人の生活や行為について研究しています。	人間の生活と発達を支える雇用・労働や医療・福祉制度のあり 方を研究しています。特に災害被災者の生活保障に取り組んでいます。	新自由主義的な制度改革と社会編成が進行するなかで，雇用のルールはどのように変容してきているのか，賃金問題などを焦点に研究しています。	グローバル社会の抱える諸問題を発展途上国に焦点を当てて研究しています。特に開発政策と政治構造のあり方について検討しています。	近現代におけるイギリス地方自治の形成と展開を検討の対象としながら，住民自らが自治を行う可能性とそのあり方について研究を行っています。

澤 宗則 教授	橋本 直人 准教授	山崎 健 教授
人文地理学，地域社会論	社会思想，社会学史	都市地理学
グローバル化にともなう地域社会の変容，特に開発途上国インドの農村の変化，先進国の移民社会の形成について，現地調査に基づいて研究を行っています。	ドイツの哲学・社会学を中心に，これまで現代社会がどうとらえられてきたかを研究することで，社会と人間に関する新しい考え方を探求しています。	日本及び中国の都市・都市圏内部の地域構造の形成と変容について，地理学的な手法を用いて研究を行っています。

主な卒業研究テーマ

- 「環境と経済の共生」にむけて―「日本 版グリーン・ニューディール」の課題
- 「循環型社会」の10年 ―「国内循環」から「国際循環」へ
- バブル崩壊とグローバル化による若者意識の変化―社会との関わり方を中心に
- 現代の女性を支える労働環境―ポジティブ・アクションの現状と課題
- 結婚と仕事の危ういバランス―メディアと通してみた女性の社会進出の歴史
- 男子大学生の恋愛と人間発達―「人を好きになる能力」とジェンダーのはざまで
- 教育を媒介とする貧困の再生産構造―「貧困と教育格差に関する仮説モデル」に基づいて検証する
- ブータンにおける「国民総幸福量」―家族・地域社会のセーフティネットを求めて
- 開発援助の重要性と危険性―我々はいかにして開発援助と向き合うべきか
- 災害復興公営住宅の実践と課題―HAT神戸灘浜を素材として
- 企業城下町の産業観光化―宇部市を事例に
- 「ゆるキャラ」による地域アイデンティティの創造―奈良県観光におけるせんとくんを事例に
- 地方都市中心商店街の再生と課題―高松市丸亀町商店街を中心に
- ニュータウンにおける「場所への愛着」の構築―兵庫県三田市フラワータウン地区を事例に
- ショーペンハウアーの世界観―生と死
- 若者のコミュニケーション能力の低下とデジタル化―高校生・大学生の「ケータイ」を中心に
- 男と女と「自分らしさ」―ポスト・団塊ジュニアの視点から―
- 「神戸らしさ」にみる場所イメージの多重性について―旧居留地・トアウエストをフィールドに
- 場所 のイメージからみた神戸の洋菓子―KOBEスイーツを事例に
- 多民族社会における高齢者福祉―福祉施設に入居する在日韓国・朝鮮人の高齢者を事例に―
- 民主的なコーヒー市場の実現のために―支配される一杯の重み
- 現代日本における農業経営―法人化の意味とその可能性

教員からのメッセージ

人々が住み慣れた地域に住み続けられるシステムを創る

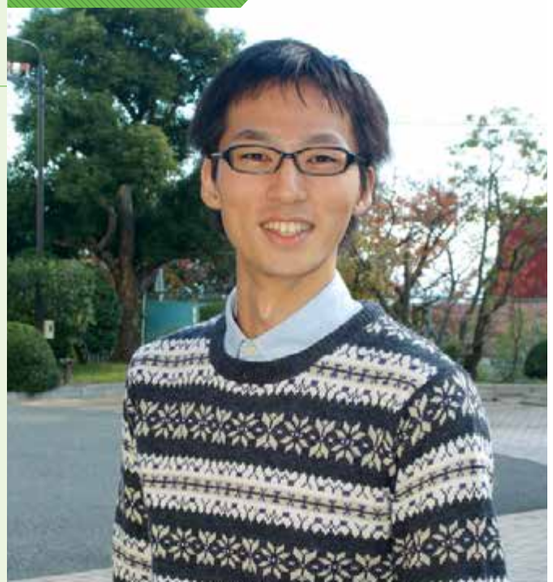
井口 克郎 講師（経済学,社会保障）

阪神・淡路大震災や東日本大震災をはじめ,近年日本では大災害が頻発しています。神戸のような都市部で起きることもあれば,東北,中越,能登といった地方で起こることもあります。日本のあちこちで災害が発生し人々が地域に住み続けることが困難になる状況が生まれています。

被災地以外でも2000年代以降深刻化している「格差社会」（貧困と不平等）にみるように,人々の生活が成り立たず,住み続けられない問題が引き起こされています（地方の過疎化の進行,働き場所を転々と漂流する不安定就労の若者たち,等）。このような普段からの社会の問題が,災害時に顕在化するのです。

貧困や不平等は,資本主義経済システムがもたらす負の問題ですが,それを解決するために現代には社会保障制度などの人々の健康で文化的な生活を保障するシステム（人権）があります。それをどのように発展させ人々が住み続けられる地域を実現するか。一緒に考えましょう。

学生からのメッセージ



社会環境論コースは魅力的な人が集まるコースです!

木村 直樹 さん（社会環境論コース4年生）

社会環境論コースのアピールポイントは,ずばり「人」です。まず,なんと言っても,先生方がとても魅力的です。現在,本コースには8人の先生がおられますが,どの先生も広い視野と高い専門性に基づく興味深い研究をされています。例えば,私の所属している岡田ゼミでは公共性をテーマにしているので,一見すると法学部で扱うような内容ですが,経済,文化,歴史,思想など多岐に渡る内容に話が及びます。これは,先生が幅広い視点で研究をされているからこそです。また,どの先生方も普段から気さくにお話ししてくださり,たわいのない雑談から進路の相談までしていただけます。先生方と学生の距離がとても近くにあります。そして,本コースは所属している学生も魅力的です。同回生や先輩,後輩の誰もが個性豊かで,会話をしていて飽きることがありません。どんな学生が集まるかは毎年異なると思いますが,本コースには多様な人が集まる環境があります。

発達支援論 コース

Course Keyword【コースキーワード】

- □子どもと家庭の支援
- □ジェンダー・イクイティー
- □成人学習
- □ボランタリズム
- □社会的排除
- □持続可能な社会づくり

4学科横断のユニークなコースで，鋭い問題意識を幅広い観点から鍛える

発達支援論コースは，発達科学部の特色を生かすことを目的に作られました。どの学科からでも3年次から，実践的研究に関心のある学生なら進むことができ，自分の関心に基づいて他のどのコースの授業でも受講することができます。卒業論文にその成果をまとめることが目的です。卒論研究に当たっては，人間発達環境学研究科に設置されたHCセンター（ヒューマン・コミュニティ創成研究センター）の活動と連動しながら，アクション・リサーチという，実践現場に足をおいた研究方法の指導を受けることができます。HCセンターには，「ヘルスプロモーション」，「ジェンダー研究・学習支援」，「子ども・家庭支援」，「労働・成人教育支援」，「障害共生支援」，「ボランティア社会・学習支援」という6つの領域があります。詳細はそれぞれの教員紹介欄を見てください。

これらの多様なプロジェクトに参加しながら，鋭い問題意識を養っていきます。たとえば，HCセンターでは，アクション・リサーチに取り組むために大学外の市街地に，のびやかスペース「あーち」というサテライト施設をつくっています。ここでは「子ども・家庭支援」と「障害共生支援」の2つの部門がさまざまなプログラムを展開しています。毎年，この施設を利用して卒論に取り組む学生がいます。また，学生たちの表現活動の場にもなっています。このコースで学ぶためには，社会の動きに目を向けその成り行きに関心をもっていることや，さまざまなアクティヴィティに自分から参加して，参加者の間をつないでいくような能動的な姿勢が必要です。

主なコース専門科目

- □発達支援論研究
- □発達支援論演習（ジェンダー研究・学習支援論）
- □発達支援論演習（労働・成人教育支援論）
- □発達支援論演習（ヘルスプロモーション論）
- □発達支援論演習（子ども・家庭支援論）
- □発達支援論演習（ボランティア社会・学習支援論）
- □発達支援論演習（障害共生支援論）
- □発達支援研究法

教員からのメッセージ

社会全体で子どもの育ちと子育てを支援するシステムを考えよう

伊藤　篤 教授（子ども家庭福祉論）

私のゼミでは，「乳幼児から青年までの幅広い年齢層の子どもたちが生き生きと暮らしていける環境を地域や社会全体で創り上げていくために必要なことは何か」を研究したいと考えている学生が集っています。

3年次の後期から毎週設定されるゼミの時間では，各自が，自分の関心や課題意識に関連する先行研究などの資料を読んで発表し，その内容をゼミ教員とゼミ生全員で検討します。こうした学習活動を繰り返したのち，4年次には「卒業研究（卒業論文）」のテーマを決めていきます。また、灘区役所旧庁舎にある大学サテライト施設（神戸市の地域子育て支援拠点のひとつ）をはじめとする地域の様々な児童福祉関連施設や子育て支援の現場にもかかわるという豊かな体験的学習も保障されています。このゼミを通して，「社会の中で子どもが育つことの価値」「親や地域の大人が子育てにかかわることの意味」について自分なりの考え方を形成していくことが期待されます。

スタッフと研究分野・研究テーマ

(rp) 2015年3月31日をもって退職の予定

伊藤 篤 教授	川畑 徹朗 教授	末本 誠 教授 (rp)	津田 英二 准教授
子ども家庭福祉論	健康教育，ヘルスプロモーション	社会教育，成人教育，成人学習論，ライフヒストリー	生涯学習論，障害共生支援論
出産から青年期までの子どもの発達を支援する仕組みを，当事者である家庭と学校を含む公的資源およびNPOを含む地域資源との協働という視点から考えています。	青少年が薬物乱用などの危険行動を避け，健康増進行動を主体的に選択できるようにするため，健康教育とヘルスプロモーションに関する研究を行っています。	社会に存在する学校以外の場での，成人の学習の意義やその支援の方法などについて研究しています。現在とくに取り組んでいるのは，ライフヒストリーを成人教育に応用するという方法論の開発です。	障害の問題を社会の問題として捉え，社会的排除のない共生社会にどのように近づくことができるかということを実践的に追究する研究を行っています。

朴木 佳緒留 教授 (rp)	松岡 広路 教授
ジェンダー問題と教育・学習	生涯学習論，福祉教育・ボランティア学習論
日本のジェンダー問題を明らかにし，教育や学習の問題また学習者支援について具体的，実践的に追究する研究を行っています。	持続不可能な開発をしつづけてきた現代社会を変革するためのさまざまな市民活動・社会的事業・教育活動を対象に，その推進方策・原理を実践的に研究しています。

主な卒業研究テーマ

- 不登校と不登校児の家族の家族療法による変化に関する考察
- ブックスタートの現状と親子に与える影響についての一考察
- 母体体重に関する産後の不安を減らす試み —やせ妊婦増加の視点から—
- 子どもを対象とした野外活動における ボランティアサブリーダーの役割についての考察
- 岸和田男女共同参画と岸和田だんじり祭りの関係についての一考察
- ボランティアが拓く学校内の脱学校的取組の可能性 —放課後の学習支援実践を通して—
- 家庭に問題を抱える子どもに対応した教員の連携に関する一考察
- 歴史的に見た演劇教育の発展と衰退 —現代の普及に向けて—
- アスペルガー障害のある学生の 高校から大学初年度にわたる支援についての一提言
- 学童保育施設における健常児と障害児の関係の発展に関する一考察
- 児童相談所におけるマンパワー不足問題 —児童相談所数・児童福祉数等の量的問題について
- 性行為におけるジェンダーについての研究 —デンマーク・オーフス市の事例と聞き取り調査を通して—
- 男性の育児休業取得促進のために —スウェーデンの育児休業制度・企業対応・人々の意識を参照して—
- 地域と【協働】するワークキャンプに関する一考察 —ワークキャンプ実践が未来への懸け橋となる事を願って—
- 内的キャリア形成のあり方についての考察 —自己のライフストーリーをもとに—
- 薬物をめぐる文化に関する考察
- ゆとり教育をめぐるメディア報道の当事者的観点からの考察 ～新聞記事に対する当事者へのインタビューを通して～

学生からのメッセージ

発達支援論コースから，世界に飛び出そう!!

黒木 宏太 さん（発達支援論コース4年生）

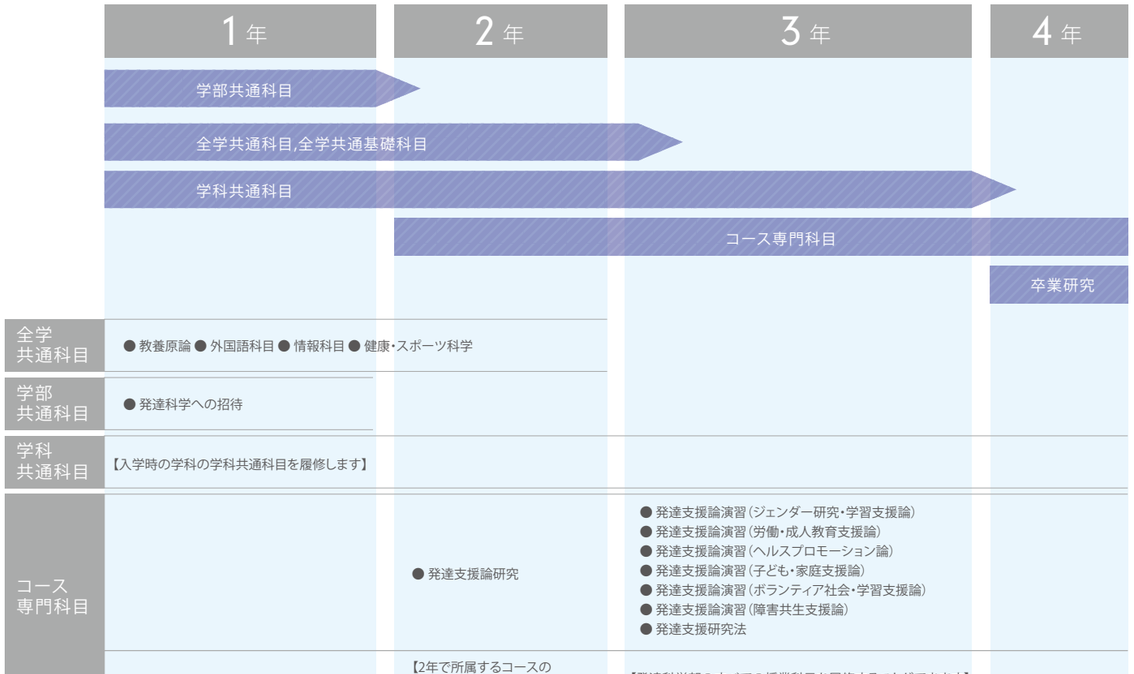
発達支援論コース（以下，《支援論》）には，主に2つの魅力があります。

1つめの魅力は多様なメンバーがいることです。4学科から集まった学生は，みんな個性的です。また大学院の方々とも日常的な交流があり，留学生や社会人など，より一層多彩な人たちに出会えます。《支援論》に所属しているだけで，多様な世界を垣間見ることができるのです。

2つめの魅力は，自分で自分の学びを作れることです。《支援論》には特定のカリキュラムが存在せず，神戸大学のほとんどの授業を受けることができます。さらに，教授陣の実践的研究やボランティア，学会などに，参加する機会もたくさんあります。私自身は，東北での支援活動や国立ハンセン病療養所でのワークキャンプなどに関わり，掛け替えのない経験をすることができました。自分の意気込みしだいで，多様な世界に関われるのです。

ぜひ《支援論》を通して，世界の扉をたたいてみてください。

カリキュラム



主な進路・主な資格免許の取得状況

主な進路

2012年度
- インサイト
- 関西電力
- グリー
- 千趣会
- 八十二銀行
- 日本アクセス
- 日本コープ共済生活協同組合連合会
- 東大阪市職員
- 兵庫県教員(特別支援)
- 神戸大学大学院農学研究科

2013年度
- 霧島酒造
- 春日井市職員
- 京都府教員(高校)
- 和歌山県職員
- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科(1名)
- 筑波大学大学院教育研究科

主な資格免許の取得状況

社会教育主事, 社会福祉主事任用資格を除きます。

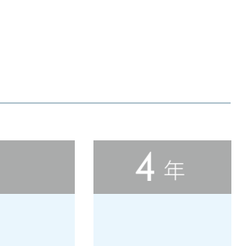
2012年度
- 中学校教諭一種免許状(理科)
- 中学校教諭一種免許状(数学)
- 高等学校教諭一種免許状(理科)
- 高等学校教諭一種免許状(数学)
- 特別支援学校教諭一種免許状

2013年度
- 幼稚園教諭一種免許状
- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状(数学)
- 高等学校教諭一種免許状(地理歴史)
- 高等学校教諭一種免許状(公民)
- 高等学校教諭一種免許状(数学)
- 学芸員

OB&OG INTERVIEW

社会福祉法人恵伸会
サンレジデンス湘南 勤務

伊藤 美友 さん
(2010年3月卒)



今の私は神戸大学での4年間があったからこそ

私は今, 神奈川県平塚市にある社会福祉法人で福祉用具の販売やレンタルの仕事をしながら, 人事やヘルパー2級講座の事務局など法人内の様々な仕事に関わらせてもらっています。また, 現在社会福祉士通信課程で社会福祉士の取得を目指して勉強中です。

大学時代は人間表現学科に所属し, 自由劇場という演劇部で4年間演劇をしていました。学科のみんなと卒業公演で舞台をやれたことは, 最高の思い出であると共に今の私の原動力となっています。発達科学部では本当にたくさんの人と出会い, たくさんのことを学べました。

私が現在の仕事に就こうと思ったのも, 所属していた発達支援論コースの院生と話をしている中で「どんな人でも集えるような『コミューン』つくりたいよね。」という話題で盛り上がったことがきっかけ。本当にそんな居場所づくりしたいという思いが今の仕事に結びついています。将来はもちろん自分で『コミューン』を作ってそこで演劇したいですね!

神戸大学ESD コース

Course Keyword【コースキーワード】

- □持続可能な社会の構築
- □人権・平和・環境・開発・倫理
- □アクションリサーチ
- □人間の変革可能性
- □新しい価値観の形成
- □未来への責任

専門的な13コースでの学びに加え,履修可能な補助カリキュラム

神戸大学ESDコースは,発達科学部・文学部・経済学部・農学部・国際文化学部・工学部・医学部の7つの学部が協働し運営している学部を超えた領域横断型のユニークなコースです。発達科学部の学生は主専攻に加えて選択できるコースとなっているため,サブコースと呼ばれています。

地球規模の環境破壊や,エネルギーや水などの資源保全の問題など,人々が現在の生活レベルを維持しつつ,次世代も含む全ての人々により質の高い生活をもたらすことができる社会づくりが重要な課題になっています。これを解決するため,国連で決議された「持続可能な開発のための教育」のことをESD(Education for Sustainable Development)といいます。

このコースは,3つの特徴を持っています。ESDに求められる課題の多様性に対応し,貧困,平和,人権,倫理,健康など「持続可能な社会の形成」に重点をおいた各学部の特色を生かした多領域の学びが用意されています。次に,学生のみなさんは,地域社会の活動現場に出かけ,学外の人々と連携しながら実践活動への参画(アクションリサーチ)を通して,持続不可能な社会や仕組みの問題性,解決の方向性を探究することになります。そして,関連科目を含め14単位を取得することで,卒業学位とは別に「ESDプラクティショナー」として認証を受けることができます。こうした特徴的な仕組みのなかで,個別の専門知識に偏らない複眼的な視点,実際の問題を解決する上で求められる組織・集団の調整能力,および問題を解決する意志とスキルを持った人材の養成を目標としています。

カリキュラム

	1年	2年	3年	4年
基礎科目	● ESD基礎(持続可能な社会づくり) ● 実践農学入門 ● 総合科目Ⅰ(ESD論)			
関連科目	●生涯スポーツ論 ●農と植物医科学入門 ●熱帯有用植物学 ●森林環境学入門 ●地球環境論 ● 阪神・淡路大震災 ● 総合科目Ⅰ(ボランティアと社会貢献活動)	●子どもの発達 ●自然教育論 ●健康行動科学 ●場所の文化史 ●生活空間計画論1 ●生活環境緑化論1 ●環境人文学講義 Ⅰ ●環境人文学講義 Ⅱ ●環境NPO実践論 ●社会コミュニケーション入門 ●経済地理学 ●食糧生産管理学 ●森林生態学 ●植物栄養学 ●ガヴァナンス論 ●バイオエシックス ●国際保健	●感性表現論 2 ●国際開発論 ●環境植物生態学 ●エコロジー論 ●メディア論 ●生涯発達心理学 ●森林保護学 ●水文学 ●国際関係論 ●都市地域計画 ●合意形成論 ●災害保健	
フィールド演習科目	●ESD演習Ⅰ(初期体験実習)	●ESD演習Ⅰ(環境発達学) ●ESD演習Ⅰ(環境人文学) ●ESD演習Ⅰ(環境経済学) ●ESD演習Ⅰ(兵庫県農業環境論) ●ESD演習Ⅱ(環境発達学) ●ESD演習Ⅱ(環境人文学) ●ESD演習Ⅱ(環境経済学)	●ESD演習Ⅱ(実践農学)	●ESD演習Ⅱ(IPW統合演習)
総合実践科目			●ESD実践論	

他人事から我が事へ 豊かな「出会い」で視野が広がる

学生からのメッセージ

居村 成美 さん(人間形成学科教育科学論コース4年生)

「地球の未来が危ない!」そう言われても, どうしても他人事のような気がしていませんか?ESDサブコースで, 私たち学生は実際に地域社会に入っていきます。そこで体を動かし, 人と交流しながら, 社会の抱えている課題を発見します。「自分には関係ない」そう思っていた問題が, いつのまにか自分のこととして感じられてきます。持続可能な社会をつくるのは一部の天才でも専門家でもありません。私たち自身なのです。未来を担う当事者になれるのが, ESDサブコースの魅力です。

またフィールドワークでは, グループでの活動が鉄則です。学部・学科に関係なくさまざまな分野を学ぶ人たちが集います。自分とは異なる考え方に触れ, 常に新しい気づきがあります。多様な視点から課題にアプローチするおもしろさを感じています。人, 価値観, フィールド, 地域の課題…ESDサブコースには豊かな出会いがあふれています。あなたの知らない世界との出会いがきっとありますよ。

神戸大学大学院
人間発達環境学研究科

Graduate School of Human Development and Environment

人間発達環境学研究科とは

21世紀を迎え,科学技術の進化を背景に社会経済における高度情報化やグローバル化が急激に進展し,人類の更なる発展が期待できる状況にあります。しかしその反面,この動きは価値観の衝突や知識・富の偏在の遠因にもなり,多くの国や地域では,人間の自由な発達を阻害する深刻な事態も数多く発生しています。

このななか,私たちは,人間の発達(human development)とは何か,そしてそれはどうすれば可能か,という根本的な問いと向き合い,より実践的な観点から早急に具体的な解を導くことを強く要請されています。もとより,容易な課題ではありません。なぜなら,人間の発達を真に捉えるためには,人間それ自身だけでなく,人間をとりまく環境にも注意深く関心をいだき,人類の叡智を結集しながら多面的かつ重層的に研究していくことが求められるからです。

人間発達環境学研究科は,これらの課題に応えるため,「ヒューマン・コミュニティ創成研究」という理念に基づいて,文系・理系の理論や学内外の実践的知見を総動員し,より総合的な観点から人間発達研究に新たな学問的地平を拓くことを目的とした大学院です。「ヒューマン・コミュニティ創成研究」とは,大学が地域,行政,企業,NPO,NGO,市民と連携しながら,より実践的な観点から人間的な社会(ヒューマン・コミュニティ)の創成をめざす教育研究活動の総体を意味し,本研究科における教育研究の特徴を示しています。

教育の特色

博士課程前期課程の特色

博士課程前期課程では,人間の発達やそれを取り巻く環境の発展に関わる基礎的あるいは応用的・実践的な教育・研究活動に対し,学生の主体的参加を促し,高度な専門的能力を備えた人材の養成をめざしています。このため,本研究科では,個々の学生が本研究科在学中のあらゆる機会を通じて知識・スキル・能力・資質とそれらの自己開発力を獲得できるよう,学生の「学び」をトータルにプロデュースし支援する体制をとっています。以下のような特色をもつ,学ぶ側の立場に立った能力開発支援型の教育プログラムです。

●研究科共通科目(「ヒューマンコミュニティ創成研究」)の設定

研究科共通科目「ヒューマンコミュニティ創成研究」において,ヒューマン・コミュニティ創成研究センター,のびやかスペース「あーち」,サイエンスショップなどを活用した産学官民協働のフィールド研究活動に積極的に参画し,それらの活動を通して,ヒューマン・コミュニティ創成のマインドを醸成します。

●特別研究Ⅰ・Ⅱの設定

研究科共通科目「特別研究Ⅰ」において,文献調査法や資料収集法,フィールドワークやアクション・リサーチの技法など,研究に必要な方法論の基本的手法を修得することで研究能力の基礎を固めます。さらに共通科目「特別研究Ⅱ」において,フィールドワークやワークショップ,プロジェクト研究や作品展など,研究の実際の場面に関わることで,研究遂行のための実際的手法を修得します。

これらの「特別研究」では,主指導教員の個別的な指導のほかに,副指導教員を含む他専門の教員による指導助言を受けたり,学生相互の意見交換を行う機会を積極的に設けます。学生は,多様な見方・意見の自由な交流をとおして自らの解を主体的・自律的に導くことができます。

●個々の学習課題に応える積み上げ方式の専門教育

全般的な専門力量の形成を支援するために,人間発達専攻では専攻共通科目(「人間発達総合研究Ⅰ・Ⅱ」「人間発達相関研究」「人間発達研究」)を置いているほか,個々の研究課題に応じたコース・ワークが可能になるように,専門科目は,基礎科目(「特論Ⅰ」など),展開科目(「演習」など)および関連科目から構成される積み上げ方式のカリキュラム構成をとっています。特に「演習」では,開発するスキル群をシラバスに明記し,スキル開発を重視しています。

●複数教員による指導体制

本研究科では,主指導教員1名のほかに副指導教員2名をおき,副指導教員には,異なる専門分野でありながら学生の研究内容に関連する領域の教員があたるように配慮しています。これらの教員間の協議に基づき綿密な研究指導を行うことで,高い専門性とともに幅広い視野を備えた独創性・創造性をもつ人材を養成するところにねらいがあります。また,後期課程進学志望者については,1年次での学会参加,2年次での学会発表を支援します。

●取得できる学位と後期課程への進学

前期課程では,修士(学術)が基本ですが,教育研究内容によっては,教育・学習専攻においては修士(教育学),人間環境学専攻においては修士(理学)を取得することができます。また,前期課程を修了した者が引き続き後期課程に進学を希望する場合は,選考の上,進学することができ,後期課程への入学料は必要ありません。

●先端的研究に協働する「研究道場」の設置(人間発達専攻)

人間発達研究の特定分野において,特に優れた大学教員・研究者を養成するため,教員が共同で進める先端的研究の場に学生が参加し協働する体制として「研究道場」を設置し,学生が実践的な研究力量を身につけ,研究者として早期に自立できる素養を習得できるようにします。

●ソフトスキルや社会人基礎力の育成

専攻レベル,研究室レベルで実施されている諸活動(専攻研究セミナー,修士論文発表会など)について,「参加」「運営」といった役割を担うことを通して,コミュニケーション・スキル,ネゴシエーション・スキル,企画力,マネジメント・スキル,チームワーク・スキル,リーダーシップ・スキルといったソフトスキルや社会人基礎力の育成を支援します。

●長期履修制度や柔軟・適切な教育方法の実施(社会人学生)

社会人学生については,長期履修制度を設けるとともに,学習の機会が制約されないよう,(大学設置基準第14条に定める教育方法の特例にもとづく)夜間・休日開講など,柔軟かつ適切な教育方法を実施します。

求める学生像

人間発達環境学研究科は,人間の発達及びそれを取り巻く環境に関わる基礎的並びに応用的・実践的な教育研究活動に主体的に参加し,これを推進する指導的役割を担える高度な専門的能力を有する人材の養成を目指しています。そのため,次のような資質・能力を持った学生を積極的に受け入れます。

- ●高度な研究を遂行していくための基礎的な資質・能力
- ●人間の発達や環境に関する諸課題に対する鋭敏な感受性と深い専門知識にもとづいて新しい課題を析出していく資質・能力
- ●多角的かつ重層的に課題を分析・考察し,体系的に概念化と理論化を行うことができる高度な知的能力
- ●現代的諸問題を解決するための具体的方策を提案し,柔軟に対応できる行動力

博士課程後期課程の特色

博士課程後期課程では,人間の発達やそれを取り巻く環境の発展に関わる原理的あるいは応用的・実践的な教育研究活動に対し,学生の主体的参加を促し,高度な専門的能力だけでなく,独創的で卓越した研究能力を備えた人材の養成をめざしています。そのため,本研究科では,以下の特色をもつ教育プログラムのもとで,学生が,自らの専門を深めるだけでなく,多角的かつ相対的に捉えることにより,自らの専門のアイデンティティを練り上げることができる高度な学問的能力を身に付けるようにします。

●特別研究Ⅲ・Ⅳの設定

研究科共通科目「特別研究Ⅲ」において,文献課題やレビュー論文の作成などを通して,国内外の研究状況を把握するための能力発展をめざします。また,本研究科が開催する「学術Weeks」等での研究発表をとおして,国際学会での発表の基盤を固めます。共通科目「特別研究Ⅳ」では,フィールドワークやワークショップ,研究会,学会,プロジェクト研究などの企画・運営に参画し,研究を組織化する方法を修得します。また,国際的な論文の作成能力を養成します。

●専門力量の深化

さらなる専門力量の深化をめざした高度化科目(特論Ⅱ)を展開します。

●体系的な博士論文作成指導システムの提供

前期課程,後期課程の5年間で円滑に博士論文を作成できるようにするため,複数教員による体系的な論文作成指導システム(基礎論文,予備審査論文,公開最終試験)が準備されています。

●先端的研究に協働する「研究道場」の設置(人間発達専攻)

人間発達研究の特定分野において,特に優れた大学教員・研究者を養成するため,教員が共同で進める先端的研究の場に学生が参加し協働する体制として「研究道場」を設置し,学生が実践的な研究力量を身につけ,研究者として早期に自立できる素養を習得できるようにします。

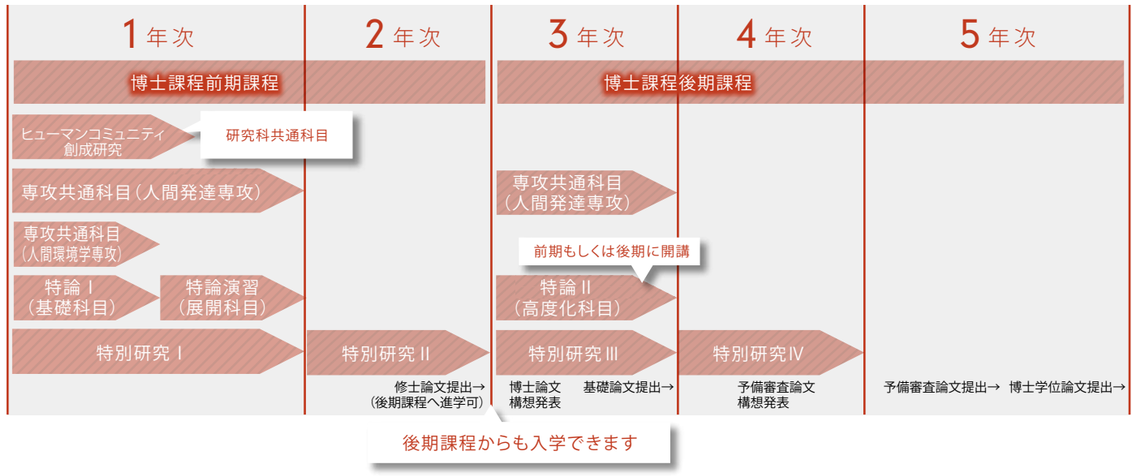
●実践的な教育力の涵養支援

大学教員をめざす学生に対して,学部の教育実習に相当する科目「教育能力養成演習」の履修により,実践的な教育力の開発を支援します。

●取得できる学位

博士(学術)を基本としますが,教育研究内容によっては,人間発達専攻においては博士(教育学),人間環境学専攻においては博士(理学)を取得することもできます。

研究科のカリキュラム



研究科構成図

大学院 人間発達環境学研究科

専攻	博士課程前期課程	専攻	博士課程後期課程
人間発達専攻（56名）	こころ系 ▶P 72 臨床心理学コース 表現系 ▶P 88 からだ系 ▶P 84 学び系 ▶P 78 1年履修コース	人間発達専攻（11名）	こころ系 ▶P 72 表現系 ▶P 88 からだ系 ▶P 84 学び系 ▶P 78
人間環境学専攻（40名）	自然環境論コース ▶P 94 数理情報環境論コース ▶P 96 生活環境論コース ▶P 98 社会環境論コース ▶P100	人間環境学専攻（6名）	自然環境論教育研究分野 ▶P 94 環境先端科学（連携）講座 ▶P102 数理情報環境論教育研究分野 ▶P 96 生活環境論教育研究分野 ▶P 98 社会環境論教育研究分野 ▶P100

ESDサブコース

発達支援インスティテュート ▶P106

ヒューマン・コミュニティ創成研究センター　心理教育相談室　サイエンスショップ

ESDサブコースは,「持続可能な開発のための教育:Education for Sustainable Development」の理論と実践について学ぶことを目的にしたコースです。環境,人権,開発,防災,経済など,多様な課題の解決について,教育の観点から考究し行動することのできる国際人の育成をめざしています。次のような授業によって構成されており,このコースの修了生には, ESD Advanced Practitioner の認証が付与されます。(学部の神戸大学ESDコースも参照すること。p.61)

＜主な授業＞**ESD基礎科目群**:人間発達と人間環境の相互性を軸とした講義。

ESD研究:英語による授業。人権,開発,共生などをテーマとしたESDの知見を知るための講義とディスカッション。

ESD研究演習:スタディツアーをはじめとしたアクションを伴った学習に取り組み,リサーチペーパーに結実させる。

研究トピックス

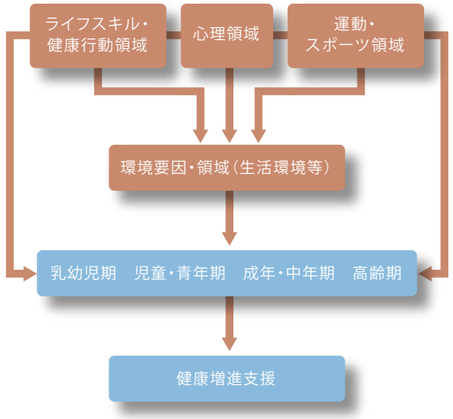
TOPICS 1

“アクティブ・エイジング”プロジェクト

「多世代を対象としたウェルビーイング（well-being）なコミュニティづくりをめざした支援プログラム開発の試み」

我が国の人口の少子高齢化は,医療・福祉領域にとどまらず,経済・産業・文化など広範で複雑な課題を生み出しています。また,これら多くの課題は日々の生活の中にみられることから,生活の場であるコミュニティの課題を明らかにし,それを解決することは重要な取り組みといえます。この取り組みには,研究者グループの分野横断的・学際的アプローチに加え,研究者が自治体,住民,企業などと協働し,世代を超えた人々の参画のもと,健康を維持しながら社会参加ができる,安全な生活の場としてのアクティブ・エイジングに根ざした新しいコミュニティを創出することが求められています。そこで,本研究では「健康」「社会参加」「安全・安心」「多世代交流」などの観点から,地域コミュニティの様々な問題を明らかにするとともに,それらの解決に向け,研究科教員が地域住民,行政,及び企業と協働し,学びと活動の基礎となる“場”を形成します。そして,その“場”を利用したプログラムの開発と地域への実装を行う計画が進行中です。

なお,このプロジェクトは2011年度から立ち上げた健康増進支援プロジェクトの実績を基に,多領域横断型の発達研究への展開をめざしたプロジェクトで,2012年度から科学研究費補助金（基盤研究A）の援助を受けて実施しています。



TOPICS 2

ESD海外実践研究

「海外フィールドワークで 現実を直視し問題の本質に迫る」

2012年秋,2回に分けて教職員と学生の総勢延べ14名が,韓国で各4日間の学習活動を行いました。訪問先の韓国ナザレ大学は,私たちの学部・研究科と連携協定を結んでいる大学で,ここ5年ほど毎年相互に学生と教員が行ったり来たりしています。韓国ナザレ大学は,韓国随一の障害学生支援を展開していて,障害者福祉や障害児教育の分野ばかりでなく,情報科学,経済,音楽,舞台芸術,文学など,さまざまな分野で障害者が活躍するための基盤づくりに力を発揮しています。学生たちは,韓国ナザレ大学の障害学生を対象としたインタビュー調査,アンケート調査を行ったり,授業参観をしたり,自分たちの研究テーマについて英語でプレゼンテーションをしたりしました。韓国の学生との間に友情も生まれ,日韓の文化的差異,日韓の障害者の高等教育保障などについての関心がそれぞれ深まりました。そうした関心に基づいて,学生たちは自主的に韓国ナザレ大学の取り組みを紹介し,日本における障害者の高等教育保障について深める論文の執筆を行い,研究科紀要に投稿する計画を立てています。

TOPICS 3

学術Weeks

「国内・国際交流研究会を軸として 学際的研究を推進する」

学術Weeksは,教員,大学院生,大学生が総体となり,国内・国際交流研究会ならびに研究活動報告会を企画,実践するもので,2008年度から11月頃に毎年実施しています。これらの実践活動を通して,個人ならびにグループの研究を鳥瞰的に見つめ直し,研究能力の向上を図ることが目的の一つです。また,本研究科で行われている多様な研究領域について,教員,大学院生,大学生が異なる学術分野の枠を超えて交流するように多角的に工夫されており,新たな学際的研究を生むフィールドとしても期待されます。2012年度の学術Weeksでは,13企画を実践し,外国人研究者は12名,大学院生と大学生はのべ1,127名が参加しました。特に大学院生が企画段階から主体的に取り組むことで,On the job training（OJT）として,英語力,企画・運営力,広報力,発表力などの研究に重要なスキルを習得し,キャリアを育成する支援を行うという教育的な側面も持っています。

Academic Exchange Weeks

研究トピックス

TOPICS 4
教育基礎研究道場
「先端的研究と議論の場で優れた大学教員・研究者を養成する」

人間発達研究としての教育学関連分野において,教育学の学位を志向した特に優れた大学教員・研究者を養成するため,教員が共同で進める先端的研究や議論の場に学生が参加し協働する体制として本研究道場を設置しています。具体的には,本研究道場では,道場特別講義等を通して,参加する学生が実践的な研究力量を身につけ,教育学関連分野の研究者として自立できる素養を習得できるように鍛えます。

2013年度には,プレ企画を3回,研究道場特別講義を16回,研究道場論文合評会を2回開催しました。プレ企画も含め,研究道場特別講義では,優れた研究に取り組まれている研究者を多数招聘し,研究の最前線についてご講演頂きました。参加学生は研究力量の向上をめざし,積極的にグループワークや討論を行い,講演内容に関する理解を深めました。研究道場論文合評会では,論文の相互批評を行い,評者の立場を経験することで,自らの論文をより客観的に評価する力量を高めました。

TOPICS 5
高度教員養成プログラム
「参画型実践研究を基盤として高度な専門性を有する教員を養成する」

知識基盤社会をリードできる高度な能力を備えた教員の養成が重要な課題となっています。そのため,修士論文として附属校園等を活用したアクションリサーチによる実証的研究に取り組むとともに,専修免許を取得し,将来教職を目指す博士課程前期課程在籍学生を対象に本プログラムを実施しています。

本プログラムの第一の特徴は,高い専門性に基づく教科内容研究と,適切な指導法研究の結びつきを重視している点です。教科内容研究だけですと,内容に関する見識は向上するものの,それを効果的に学習者の発達に活かす視点は希薄になります。一方,教科内容研究と切り離された指導法研究は,便利なノウハウの開発にとどまる危険性があります。双方を有機的に結びつけることが重要です。

第二の特徴は,論理的な分析のみでなく,感性による気づきを重視し,表現することを重視している点です。有能な実践家は,合理的に分別されたり完全に記述したりできない現象を認識することができると言われています。学生の気づきを重視し,それを多様な方法で表現し,認識を深めることを促しています。

これらを基盤として,授業をデザイン・評価する際の枠組みを構成し,さらに再構成する力量を備えた,ダイナミックに成長することのできる教員の養成を目指しています。

TOPICS 6
マスターズ甲子園
「大会企画・運営の実践からスポーツプロモーションを学ぶ」

「マスターズ甲子園」は,全国の高校野球OB/OGが,性別,世代,甲子園出場・非出場,元プロ・アマチュア等のキャリアの壁を越えて出身校別に同窓会チームを結成し,全員共通の憧れであり野球の原点でもあった「甲子園球場」で白球を追いかける夢の舞台を目指そうとするものです。大会事務局と主催団体である全国高校野球OBクラブ連合の事務局を神戸大学発達科学部内のスポーツプロモーション研究室に2004年から併設し,現在,大会事務局が運営する全国高校野球OBクラブ連合には33都道府県,約460のOB校からなる約2万人が登録し,各地方予選組織と本大会を支える各種民間団体や行政組織との連携事業として本プロジェクトを進めています。2013年11月に第10周年記念大会を開催し,神戸大学の発達科学部の学生や卒業生を中心として,全国からの大学生ボランティアがこの大会運営を支えました。本学部が中心となったアクションリサーチと共に,スポーツ振興や生涯教育,老年学等のテーマに興味を持つ大学生が,成人・中高年のスポーツ活動支援や生きがい創造支援を実践から学ぶ機会としても機能しています。

TOPICS 7
人間環境学専攻研究プロジェクト
「生活安心指標の考案:質の高い生活を実現する人間環境の総合的アプローチとその指標化」

安心で暮らしやすい生活とはいかなるものか,またそれを実現するためにはどのような条件が満たされなければならないのか,さらに課題は何かという問題を,「人間発達」およびそれを支える「人間環境」の視点から総合的に検討し,可視化する指標を考案することを目的としています。

近年,人間の生活のあり方を経済面のみならず社会資本,主観的満足度などのさまざまな観点から根本的に捉えなおそうと議論が活発となっています。グローバル化の進行にともない不安定な経済構造や,住みにくい生活環境が露呈したことに対する危機感を背景に,従来とは異なる視点からの社会を見直そうという模索が始まったのです。しかし,これまでの議論において,主体が能動的に思考し行動する「人間発達」という観点は弱いというのが実態です。

本研究は,自然・社会条件に制約されながらも自律的に生きていこうとする主体としての人間へのまなざしを重視して社会科学,人文学,自然科学が重ねてきた研究蓄積をもとに,「人々が安心できる生活」を再考しようという試みです。そして,その検討成果をさらに「生活安心指標」として可視化する作業を行う予定です。

TOPICS 8
人間環境学専攻研究プロジェクト
「都市域における人と生物多様性のつながり」

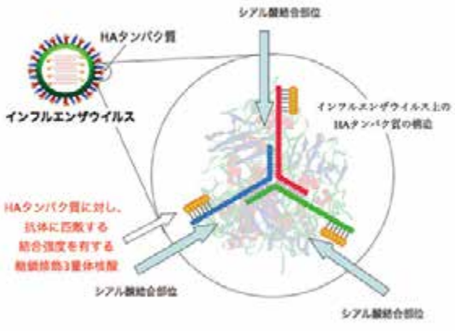
国連が2011年からの10年を「生物多様性の10年」と位置づけるなど,生物多様性保全は21世紀の重要な環境課題です。世界的に,都市への人口集中が急速に進む中で,都市近郊における生物多様性の保全はその最前線の一つと位置付けらています。日本のメガシティの一つ阪神地区は,六甲山系・生駒山系等と大阪湾に囲まれ,大都市近郊に豊かな自然が存する国際的にもユニークな特徴を有しています。この地域特性を活かし,研究フィールドとすることで,都市住民と生物多様性の関係の在り方を学際的・統合的に研究し,21世紀社会における生物多様性と共生する都市モデルを探り,国際社会に向けて発信することを目指しています。特に,神戸市は独自に生物多様性神戸プラン2020を作成するなど「人と自然がつながり,多様ないのちを育む自然共生都市"こうべ"」を目指しており,本研究を行う絶好のフィールドです。

本プロジェクトは,生物学,地理学,環境経済学,教育学,サイエンスコミュニケーションをそれぞれ専門とする多様な研究者が共存する人間発達環境学研究科の特性を最大限に活かして展開します。

都市開発によって失われつつある阪神地区の水田。
トノサマガエルなどの水田性のカエル類などが減ってきている。

TOPICS 9
人間環境学専攻研究プロジェクト
「環境ストレスと疾病リスクを客観的に評価するシステムの開発」

本プロジェクトでは,人間の健康の維持,および心理的,物理的疾病の予防を目指し,ストレス(心理的要因,物理的要因(電磁波,紫外線他)など)や,疾病のリスクを迅速かつ客観的に定量化し評価できるシステムを構築することを目的としています。そのために,研究科内で,公衆衛生学,環境バイオテクノロジー,ヒューマンエレクトロニクス,分析化学,高分子材料科学,マイクロ流体工学を専門とする教員に協力していただき,研究を進めています。一例として,糖鎖修飾核酸を用いたインフルエンザウイルスの高感度検出システムの開発を始めています。医療機関で用いられる従来の診断キットにおいては,ウイルスに対する抗体が塗布されていますが,抗体は製造に時間とコストがかかり,また安定性も十分ではありません。また変異したウイルスに対しては感度が低下する可能性も指摘されています。本研究ではインフルエンザウイルス表面に存在するヘマグルチニンタンパク質を認識する人工核酸を用いることで,抗体よりも安定でかつ,H1型,H3型,またこれらが変異した新型ウイルスに対しても高感度検出が可能なシステムを作りたいと考えています。



人間発達専攻

専攻の理念

人間の発達は，すべての人がもつかけがえのない個性を前提とする概念です。1人ひとりの人間は，さまざまな潜在能力をその人に固有の道筋で開花させていくのであり，それを人間の発達と呼ぶことができます。ですから，実際に現れる発達の様相は，とても多様で複雑です。「人間発達専攻」は一筋縄では捉えられない人間の発達と向き合おうとするとき，関連する学問分野が相互につながり，それぞれに蓄積された学問的知見を有機的に結びつける“学問領域複合型人間発達研究”こそ，発達の実像の解明に効果的であると考えています。

人間発達環境学研究科は，「人間それ自体の発達」に関わる教育・研究のあり方をさらに高度化，総合化していきます。新たにスタートする人間発達専攻は，今までの心身発達専攻，教育・学習専攻，人間行動専攻，人間表現専攻という4つの専攻を統合し，これまで蓄積したそのエネルギーを1つの専攻に集中させることで，人間発達研究の新たな一歩を踏み出します。

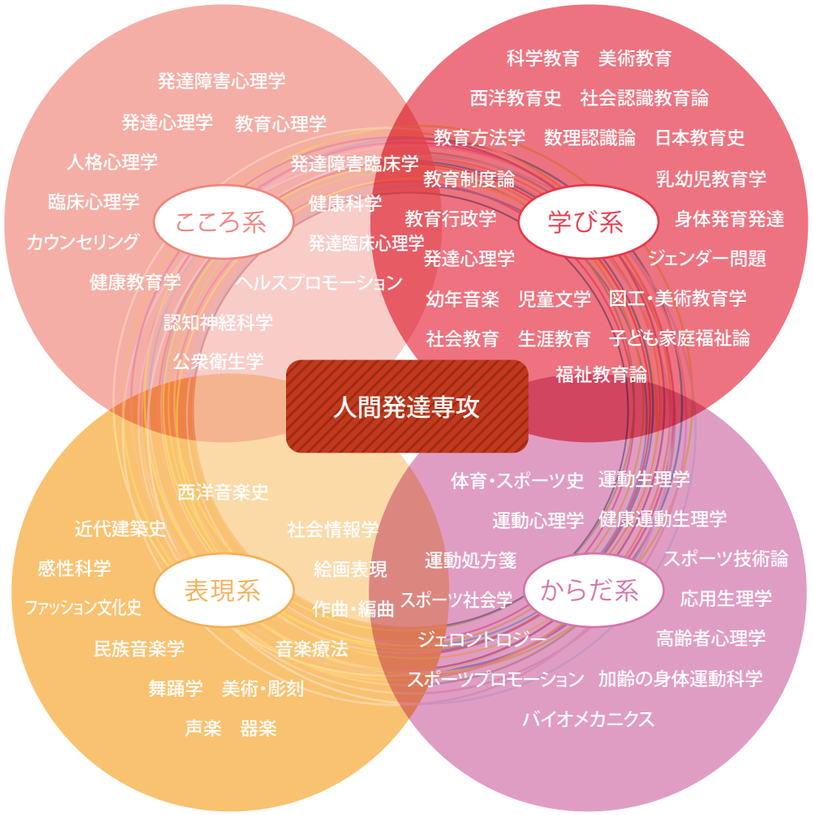
人間発達専攻は，もうひとつの専攻である人間環境学専攻とともに，急激に変容する今日の状況に柔軟に対応するためパワーアップを図り，人間発達環境学研究科を支える“車の両輪”として，これまで以上に充実した教育・研究を提供していきます。

専攻長からのメッセージ

専攻長　森岡 正芳 教授

人間発達専攻という新しい専攻が私たちの研究科に誕生します。専攻で用意するカリキュラムは多彩です。こころ系，からだ系，学び系，表現系という4つの系の科目群と共通科目群によってカバーする領域は広く，教育と研究両面での交流が格段に活発になることが期待されます。皆さんが入学されたら，これらの各群の科目を積極的に組み合わせてください。独自の専門領域を構想することができます。たとえば，赤ちゃんから高齢者にいたる人生の発達と学びを心理，教育，社会の観点からとらえたり，アートのさまざまな方法を用いて社会支援のフィールドに活かしたりすることが可能になります。心と身体の働きをハードからソフトにいたる技術によって測定し，心身の健康回復と増進に貢献する基礎力を養うこともできます。社会の様々な実践現場で，借り物ではない知を培い活かす力が求められています。その期待に添いたいです。新専攻を皆さんとともに充実させましょう。

人間発達専攻がカバーしている４つの系の専門領域



【図】
人間発達専攻が包摂する専門領域

人間発達専攻では，学生自らが様々な専門領域を自由に組み合わせ，独自の視点から人間の発達を解明することを期待しています。この図は，そのための道標を示しています。

先端的研究に協働する「研究道場」の設置

人間発達専攻では，人間発達研究の特定分野において，特に優れた大学教員・研究者を養成するため，教員が共同で先端的研究を進める研究会に学生が参加し協働する体制として「研究道場」を作ります。そこでは，学生が実践的な研究力量を身につけ，研究者として早期に自立できる素養を習得するようにします。この道場への参加は，原則として前期課程1年次又は後期課程1年次において参画意欲のある学生を募った上で，主・副指導教員の判断により決定します。

主な進路（旧専攻ごとの実績を表記）

（旧心身発達専攻）
- 社会福祉法人北摂杉の子会 ジョブジョイントおおさか
- 武蔵村山病院
- よこうちクリニック
- ローソン
- 我孫子市職員
- 姫路市立総合教育センター
- 兵庫県職員
- 兵庫県職員（心理判定員）
- 梅花女子大学教員
- 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科（1名）

（旧教育・学習専攻）
- 社会福祉法人一麦会麦の郷
- インターネットコム
- 小泉製麻
- 情報技術開発
- 日本丸天醤油
- 富士テクノトランス
- 大阪府教員（特別支援）
- 神戸市教員（小学）
- 奈良県教員（小学）
- 愛知江南短期大学講師
- 宮崎大学教員
- 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科（1名）

（旧人間行動専攻）
- アールビーズ
- 神戸市職員
- 奈良県教員（高校）
- 兵庫県教員（中学）
- 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科

（旧人間表現専攻）
- 阪急電鉄
- 一般財団法人 ヤマハ音楽振興会
- 水戸市職員

主な取得可能な資格免許

- 幼稚園教諭専修免許状
- 小学校教諭専修免許状
- 中学校教諭専修免状（保健体育，音楽，美術）
- 高等学校教諭専修免許状（保健体育，音楽，美術）
- 特別支援学校教諭専修免許状
- 臨床心理士資格試験の受験資格（臨床心理学コースのみ）

心理発達に関する研究分野

「心の科学」を体系的に追究し，専門的な力量を深める

主な授業科目

後 後期課程開講科目

- □人間発達特論 I
- □自己形成特論 I
- □教育発達心理学特論 I
- □発達障害心理学特論 I
- □発達障害臨床学特論 I
- □心理統計法特論
- □人間発達特論 II 後
- □自己形成特論 II 後
- □教育発達心理学特論 II 後
- □教育能力養成演習 後
- □臨床人間関係学特論 II 後
- □臨床心理学特論 II 後
- □芸術療法特論 II 後
- □臨床心理実習 II 後

大学院生からのメッセージ

自分の興味を探る研究ができる場所

中井 由貴子 さん（前期課程2年生）

私は，自己のイメージと他者の目に映る自分の姿の違いに興味を持ち，研究をしています。友人や家族など大切な人の目に映る自分と自分自身が抱く自分のイメージのズレを感じた時，人はどんな気持ちになり，どんな行動をとるのだろうという関心からこの研究を始めました。実際に研究を行うと，他者からどう思われているのかを尋ねる方法に課題や限界もあるなど大変なこともありますが，自己イメージと他者の目に映る自分の姿との違いについて，少しでも明らかにできればと思い研究に取り組んでいます。

授業などでは自分の研究とは異なる分野を研究している人たちと話をする機会もあり，今までの私の視点だけでは気づけなかった新しい考えに触れることができ，新たな視点から自分の研究を捉え直すこともできます。この研究科で出会えた人たちに，たくさんのことを教わり，いつも感謝しています。これからもたくさんの人に支えられながら，研究を頑張りたいです。

スタッフと研究分野・研究テーマ

後 前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

赤木 和重 准教授 後

発達障害心理学

自閉症スペクトラム障害児における教示行為の発達と支援

自閉症スペクトラム障害児における自己と社会性の発達に注目して研究しています。特に教示行為の発達と障害について，実証的な研究を行っています。同時に，障害のある子どもどうしが教えあう・学びあう授業の構造と展開について，現場の教員と協同しながらすすめています。

林 創 准教授 後

認知発達心理学

子どもはいつ頃「目に見えない他者の気持ち」の存在に気づくのでしょう?

主として幼児期から児童期を対象とした認知の発達的問題に焦点をあてています。とくに「他者とかかわる心」に関心があり，社会性の認知発達に関して，実証的に研究を行っています。また，教育実践や日常生活への示唆が得られ，社会的貢献ができることを目標にして研究を進めています。

齊藤 誠一 准教授 後

発達心理学

受精から死まで人間発達の不思議と面白さをわくわくドキドキしながら研究しています

①からだとこころの関係：思春期発育がどのような心理的影響を与えるか，生殖期女性の性周期がどのような心理的意義をもつかを研究しています。②震災とこころの関係：阪神・淡路大震災や東日本大震災とりわけ放射能汚染がその人の生き方や未来にどのような影響を与えているかを研究しています。

坂本 美紀 准教授 後

教育心理学

質の高い学びの実現に向け,心理学の観点から,学習の過程と評価を検討する。

教科学習場面における児童の協調学習について，理科を中心に研究しています。現在の関心は，科学的思考とその表現にあり，知識を活用して思考する力と，思考の内容を文章等で表現する力とを一体的に育成する理科授業，ならびに思考力の評価方法を開発・改良し，授業の成果評価に取り組んでいます。

谷　冬彦 准教授 後

人格心理学

青年期におけるアイデンティティ形成の研究とパーソナリティ (人格) 研究

青年期におけるアイデンティティ (自我同一性) 形成の研究を主に行っています。そのほか，広くパーソナリティ (人格) や自己に関する実証的研究をしています。パーソナリティ (人格) の研究としては，「甘え」や自己愛や基本的信頼感など，精神分析的人格理論に基づいた研究をしています。

鳥居 深雪 教授 後

発達障害心理学

発達障害を科学する

発達障害の子どもや大人が示す,さまざまな困難さの背景にある認知神経心理学的な問題について追及するとともに,幼児期から成人期までの発達を支える支援のありかたについて研究しています。特に,ニーズに基づく教育モデルとしての「発達障害支援グランドデザイン」に力を入れています。

主な学位論文テーマ

- 恋愛関係における多次元的な嫉妬について
- 思春期における問題行動の促進・抑制要因の検討：衝動性に注目して
- 小学生に対する話し合いを取り入れた意見文指導の効果 －意見構築能力と文章作成スキルの向上を目指して－
- 小中移行期における学校適応の変化 －縦断研究による調査から－
- 愛着との関係からみる自己愛人格の構造に関する研究
- 青年期における親子関係及び父母関係の認知と対人態度の関連

心理発達に関する研究分野
（前期課程：臨床心理学コース）

豊富な臨床実習体験ときめ細かい指導システム

主な授業科目

後 後期課程開講科目

- □心理療法特論 I
- □臨床人間関係学特論 I
- □臨床心理学特論 I
- □芸術療法特論 I
- □臨床心理検査特論 I
- □臨床心理実習 I
- □精神医学特論
- □教育臨床特論
- □イメージ臨床特論
- □心理療法特論 II 後
- □臨床人間関係学特論 II 後
- □臨床心理学特論 II 後
- □芸術療法特論 II 後
- □臨床心理実習 II 後

大学院生からのメッセージ

「語ること」と「聴くこと」で紡ぐ物語

（前期課程2年生）

私は,同じ悩みや問題を抱える人々が集まる「自助グループ」に関心をもっています。私の研究テーマは,自助グループの場で「語ること」と「聴くこと」がその当事者にどのような意味をもたらすのかということです。自助グループには「言いっぱなし聴きっぱなし」というルールがあり,一人が話している間は誰も口を挟むことはなく,じっとその人の語りに耳を傾けます。じっくりと話を聴いてもらえるという体験は,語る側にどのような影響をもたらすのか。また, 聴く側の体験とは一体どのようなものなのか。自らもその場に身を置きながら,語るということ,聴くということをあらためて考えてみたいと思っています。

現在は大学院での授業に加え,学校や病院,施設などさまざまな領域での実習を通して,貴重な経験を積んでいる毎日です。研究と実践のどちらも充実している恵まれた環境に感謝し,これからも仲間と切磋琢磨しながら,日々を過ごしていきたいです。

スタッフと研究分野・研究テーマ

後 前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

相澤 直樹 准教授 後
臨床心理学, 臨床心理検査（投影法）

対人恐怖の心理を探る研究と臨床事例を中心としたロールシャッハ法研究

対人恐怖とは, 人の目に映る自分の姿に強くとらわれる状態で, 青年期に多い悩みとされています。その心理を発達の観点から解明する調査研究をしています。また, 投影法心理検査として有名なロールシャッハ検査を臨床現場で用い, 事例研究を中心にさまざまな心の問題に悩む人にアプローチしています。

伊藤 俊樹 准教授 後
臨床心理学, 芸術療法

無意識から産み出されるイメージを通じて自分や他者の「こころ」をさぐる

①心理療法の中でも, 特にイメージを用いた芸術療法に関する研究。②ロールシャッハテストを用いた, 芸術家の無意識の創造性に関する研究。③投影法的な手法を用いた, 消費者の商品・ブランド等に対する無意識のイメージの研究。また, その知見を生かした, 商品の開発・企画の研究。

河﨑 佳子 教授 後
臨床心理学, 発達臨床心理学

「心の風景」を求めて － 聴覚障害児, 被虐待児への心的支援の実践的研究

聴覚障害児・者とその家族に対する心的支援をテーマに研究してきました。きこえない子どもたちの心理発達に手話が果たす役割に注目し, 彼らの映像思考に関心を寄せて取り組んでいます。また, 被虐待体験をもつ乳幼児への心理的ケアについて, 乳児院・児童養護施設を舞台に実践研究を続けています。

森岡 正芳 教授 後
臨床心理学, 文化心理学, 臨床ナラティヴアプローチ

語りが自己を形作る。その文化社会的, 関係性の要因をさぐり,心理療法に活かす。

ナラティヴアプローチによる治療的意味生成に関する研究。ナラティヴや対話的自己という視点から家族関係, トラウマのケア, 心身相関,病と障害, 文化と癒しの問題に取り組んでいます。対話関係の中で自己が積極的に構成されるプロセスを分析しています。

吉田 圭吾 教授 後
臨床心理学, 教育臨床心理学

教育現場における教師と心理との連携を図る―子どもや保護者のために何ができるか?

幼稚園から小中高を通して大学・大学院にまで至る教育現場における, 教育相談の理論と実際, 教師の教育相談の在り方, 教師とスクールカウンセラーとの連携, 保護者面接の仕方, 発達障害や精神障害を抱える人への支援の仕方について研究しています。また最近は自死遺族相談にも力を入れています。

この５名が担当する臨床心理学コース（博士課程前期課程）は,臨床心理士受験資格取得の第Ｉ種指定大学院コースです。

主な学位論文テーマ

- アタッチメントと孤独感, 甘えとの関連
- 独り言に隠された対話関係 ―「声」によってつくられる発話 ―
- 労働者の持つひとりの時間と精神的健康との関連
- 不登校体験の語りをきく ― 当事者の体験の意味づけとその課程 ―
- 認知症の母親を介護する娘が抱える葛藤について
- 就労3年目以降の高機能自閉症スペクトラム障害者における職業価値観の変容プロセス ― 就労上の困難に焦点を当てて ―

健康発達に関する研究分野

包括的かつ体系的なヘルスプロモーション研究

主な授業科目

後 後期課程開講科目

- □健康教育学特論 I
- □健康行動科学特論 I
- □健康環境科学特論 I
- □健康増進科学特論 I
- □ヘルスプロモーション特論 I
- □健康教育学特論 II 後
- □健康行動科学特論 II 後
- □健康環境科学特論 II 後
- □健康増進科学特論 II 後
- □教育能力養成演習 後
- □ヘルスプロモーション特論 II 後

大学院生からのメッセージ

アットホームな雰囲気は，私にとって本当に宝物です。

劉 力瑋 さん（前期課程2年生）

私は中国からの留学生です。中国の大学で,教育についての知識を少し身に付けました。入学してからは,川畑先生の下で,健康教育,行動科学を学んでいます。授業を通じて最新の知見に出合いながら,研究テーマをとことん掘り下げていく過程には,他では得がたい喜びがありました。私の研究テーマは「中国中学生の喫煙及びその関連要因について」です。喫煙に関する研究は山ほどありますが,中国では,特に中学生において,喫煙と心理社会的要因との関係についての研究は,まだまだ少ないという現状があります。その関連要因を明らかにすることによって,喫煙防止教育に科学的な根拠を提供していきたいと思います。

川畑研究室では,先生も先輩も,研究のことにしろ,生活のことにしろ,やさしく教えて下さいます。何があっても,日々,前向きに一歩一歩踏み出すことが重要だとわかりました。こういうアットホームな雰囲気は,留学生の私にとって本当に宝物です。

スタッフと研究分野・研究テーマ

後 前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

加藤 佳子 教授 後

健康教育, 健康心理学

生活科学と行動科学の学際的な立場から健康行動を解明し健康教育に貢献する

心や体の健康に関する人の行動を探り，HR-QOLとWell-beingの向上を目指しています。現在の研究課題は，健康生成モデルにもとづいた食嗜好と偏食の機序に関する研究やオーストリアと日本のHR-QOLおよびWell-beingに関する文化比較研究，ジェンダーと健康の研究です。

川畑 徹朗 教授 後

ライフスキル教育，ヘルスプロモーション

しなやかに生きる心の能力（ライフスキル）を育てる教育プログラムの開発

思春期の様々な危険行動を防止するために，ライフスキルやメディアリテラシー形成に焦点を当てたプログラムの開発研究を行っています。具体的には，メディアが喫煙，飲酒行動，ボディイメージに及ぼす影響，ライフスキル形成を基礎とするいじめ防止や性教育プログラムの開発研究に取り組んでいます。

中村 晴信 教授 後

公衆衛生学, 生理人類学

疾病予防と健康増進につながる生活習慣の探索とその生理学的メカニズムの解明

生活習慣と疾病予防や健康増進との関係について，疫学調査と実験を組み合わせて，健康問題の探索や生理学的メカニズムの解明を行っています。現在の主なテーマは，子どもの発達と体組成との関係に関する研究や，食事が生体に及ぼす影響や食行動と精神的健康との関係についての神経生理学的研究です。

古谷 真樹 講師

睡眠心理学, 生理心理学, 健康心理学

眠れない時,心や体はどうなっているのか?どうすれば,よく眠れるのか?を探求する

心身健康の維持・増進を図るために，睡眠とストレスとの関連について生理学的手法を用いた基礎的研究と教育現場や地域における実践的研究を行っています。主に就床前のストレスを低減し，円滑な入眠を導入する方法を自律神経活動から模索・実践する研究をしています。

村山 留美子 講師

環境保健学, 環境リスク学

環境からもたらされるリスクと健康の問題を考える

環境からもたらされるリスクと私たちの健康との間にある問題を，客観・主観の両面から捉え，その複合的な姿を明らかにすることを目指し，環境中の化学物質と健康影響についての実験的研究や，環境中の様々なリスクに対する私たちの認知の状況に関する調査研究を実施しています。

主な学位論文テーマ

博 は博士学位論文

- 食事制限が月経随伴症状の軽減に及ぼす影響
- 知的好奇心を育む試み：絵本の読書習慣と読み聞かせ実践の相互作用
- 子どもの足と靴の健康教育に関する一次予防のための基礎的研究
- 中国高校生の性行動とその関連要因に関する文献研究
- ライフスキル形成を基礎とする性にかかわる危険行動防止プログラムの中国への適用可能性に関する研究 後
- レジリエンシー，ソーシャル・サポート，ライフスキル形成に焦点を当てたいじめ防止プログラムの開発に関する基礎的研究 後

教育科学論に関する研究分野

教育はいかにして可能か?教育現象を探求する高度な専門能力育成

主な授業科目

後 後期課程開講科目

- □西洋教育史特論 I
- □教育行政特論 I
- □教育制度特論 I
- □日本教育史特論 I
- □高等教育特論 I
- □高等教育計画特論 I
- □教育方法学特論 I
- □社会認識教育内容特論 I
- □科学教育カリキュラム特論 I
- □科学教育原理特論 I
- □西洋教育史特論 II 後
- □教育行政特論 II 後
- □教育制度特論 II 後
- □日本教育史特論 II 後
- □高等教育特論 II 後
- □高等教育計画特論 II 後
- □社会認識教育内容特論 II 後
- □科学教育カリキュラム特論 II 後
- □科学教育原理特論 II 後
- □教育方法学特論 II 後

大学院生からのメッセージ

穏やかな日々のなかで,教育へのまなざしを養う

惟任 泰裕 さん(前期課程2年生)

教育科学論コースでは,歴史・制度・方法などの観点から教育について学ぶことができます。先生方は丁寧にご指導をしてくださり,図書館等の設備も充実していて,非常に恵まれた環境です。目標も背景もさまざまな学生が在籍し,学生同士とても仲が良く,穏やかに日々を送りながら勉強に励んでいます。その中で私は英語教育史を研究しています。岡倉由三郎や福原麟太郎など,英語教育に深く関わった人物の著作を読んだり,明治以降の英語教員養成の歴史を調べたりするなかで,「なぜ英語を学ばないといけないのか。」「日本人の英語が下手と言われる理由は何か。」といった疑問の答えを探求することはとても楽しいです。私は船寄先生の研究室に所属していますが,先生は「教育の未来を見通すために,歴史観を磨きなさい」とよく仰います。私も日本の教育に少しでも貢献できるよう,現代的な課題意識を持って,地に足のついた研究を着実に進めたいと思っています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

後 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

稲垣 成哲 教授 後 科学教育 科学教育におけるテクノロジ利用についてプロジェクト型の研究を通して考える。 科学教育におけるテクノロジを利用した学習支援のための理論,方法,評価及び実践デザインについて研究しています。	川地 亜弥子 准教授 後 教育方法学 よりよい教育実践のあり方を,子どもの生活と表現から探究する 子どもの発達を助成する意図的な営みとして教育をとらえ,そのよりよいあり方を探究しています。特に,戦前・戦後の生活綴方実践に注目して研究しています。近年は,系統的な教科の指導と子どもの生活と表現に根ざした指導の関係や,子どもの自由な表現を保障する指導と教育評価に焦点を当てています。	勅使河原 君江 講師 美術教育 美術を通した子どもの発達支援研究を資料研究と実践研究の両面からアプローチしています。 美術教育資料研究として,1940年代から1970年代に関西で出版された童詩雑誌『きりん』にみられる美術作家達による美術教育の資料研究を行っています。子どもの表現を実践的に理解する研究としては,対話型美術鑑賞をベースとした美術教育実践研究を行っています。
船寄 俊雄 教授 後 日本教育史,教育学 教育の歴史を知り,明日の教育を拓く——日本教員養成史を中心に 明治時代以降現在に至る教員の養成史を研究しています。その中でも最も関心をもっているのは,戦前にあった中等教員の国家検定試験(文検)の研究です。	山口 悦司 准教授 後 科学教育 科学の学びをよりよく支援するための理論的・実践的な研究に取り組んでいます。 教育学の中でも,科学(理科を含む)の教育に特化した専門分野で研究しています。最近では,子どもの学習だけではなく教師の教えることに関する学習も支援しうる「教師用指導書」の研究,長期にわたる子どもの概念変化や思考発達を扱う「ラーニング・プログレッションズ」の研究に取り組んでいます。	山下 晃一 准教授 後 教育制度論 「なぜ学校に行くのか」不透明な時代に,いかにして「通いたい学校」を実現できるか 「なぜ学校に通わなければならないのか」という苦悩が少しでも減り,子どもが通いたくなる,大人も勤めたく・関わりたくなる学校をどう創るか。地域が学校や教師を評価・承認する制度や,教師が互いに支えあい,子どもや保護者への感受性を発揮できる校内組織などのあり方について研究しています。
吉永 潤 准教授 後 社会認識教育論 社会科教育は,政治,国家,権力作用,そして戦争をどう教えるべきか? 社会認識とは何か。それは,つきつめれば,人間がどうすれば共存しうるかという問いへの各自の答えの構築だと考えています。あなたならどう答えますか?	渡部 昭男 教授 後 教育行政学(地域教育学,特別ニーズ教育) 人権と幸福を享受できるよう教育法制度を運用する智恵&工夫を学ぶのが教育行政学です。 特別ニーズのある子どもたちを含む,人間発達と地域創造を保障できるような教育行政の在り方,特に住民と身近な基礎自治体(市町村)の可能性を探っています。近年は,「糸賀一雄の思想」「発達権の保障」「漸進的な無償化」「インクルーシヴ教育への道」を探究しています(附属図書館Kernelのサイトで検索閲覧可能)。	渡邊 隆信 教授 後 西洋教育史,教育哲学 「新教育」の思想と実践に,今日の教育課題解決の糸口を探る。 これまで主に,オーデンヴァルト校を中心とした「新教育」の思想と実践の研究と,精神科学的教育学派を中心としたドイツ教育学説史研究に取り組んできました。その際,特に関心があるのは「共同体」と「責任」の概念です。近年は,日本とドイツの教師教育改革にも研究関心を広げています。

主な学位論文テーマ

後 は博士学位論文

- アーギュメンテーションを促進するための教授方略の研究 ―静電気を題材とした小学校第6学年の理科授業を事例として
- イタリア・ルネサンス期の喜劇にみる教師像 ―P. アレティーノ『マレスカルコ』を手がかりに―
- 学習意欲の高揚と持続を具現化する小学校理科授業の方略 ―「ARCSモデル」に基づいた単元構築を手がかりとして
- 中国の公立小中学校における教師と保護者間の衝突現象に関する研究 ―上海を中心に―
- コネクショニストモデルを応用した理科の授業研究 後
- 能力人間学としての骨相学 ―近代教育言説における「能力」のエピステモロジー― 後

子ども発達に関する研究分野

乳幼児から青年期の子どもを対象に，子どもの教育と発達を総合的に学びます

主な授業科目

後 後期課程開講科目

- □乳幼児発達特論 I
- □乳幼児教育保育特論 I
- □数理認識発達特論 I
- □造形表現学習特論 I
- □幼年音楽表現特論 I
- □児童造形表現特論 I
- □児童文学表現特論 I
- □身体運動発達特論 I
- □乳幼児発達特論 II 後
- □乳幼児教育保育特論 II 後
- □造形表現学習特論 II 後
- □幼年音楽表現特論 II 後
- □身体運動発達特論 II 後

大学院生からのメッセージ

子どもたちが心身ともに健康に育つことを願って

中橋 葵 さん（前期課程2年生）

私は幼児の数概念の発達に関する研究を行っています。みなさんの多くは「幼児」「数」というキーワードから，おにごっこやお風呂で数を数えるのを思い浮かべるのではないでしょうか。このような日常生活の何気ない行為も，数概念を大いに反映した行為であるといえます。また，幼児期に発達した数概念は就学後の学習の基盤にもなります。

こうした観点から，私は幼児の数概念の発達の重要性を感じ，研究を始めたわけですが，より深い部分で私の研究を支えているのは，子どもたちに心身ともに健康に育ってほしいという願いです。その実現のため，研究で明らかになったことを現場の先生方にわかりやすく伝え，どのように支援していくかを一緒に考えていきたいと思っています。今の私ではとても力不足ですが，子どもが大好きで，教育に対する情熱に溢れた本研究科の仲間や先生方のもと，子どもたちが心身ともに健康に育つ未来に向けて，学んでいきたいと思います。

スタッフと研究分野・研究テーマ

後 前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

岡部 恭幸 准教授 後
数理認識論，数学教育
算数・数学についての子どもの「わかり」を解き明かし，「わかる」授業をつくる。
よりよい算数・数学教育が実践されるために，子どもがどのようにそれぞれの数学概念を認識していくか，またそれぞれの数学概念がどのような構造を持っているかについて研究しています。そして，それらの研究で得られた知見に基づいて教育内容や方法の開発を実践的に行っています。

北野 幸子 准教授 後
乳幼児教育学，保育学
乳幼児の特性を理解し尊重し発達に適した乳幼児教育と保育者の専門性を探求する。
乳幼児（0～8歳くらい）を対象とし，その発達に適した保育の内容や方法，保育に独自な専門性，保育者の専門要件，養成教育や研修の在り方について研究しています。また，国内外の専門組織の活動や政策を検討し，乳幼児教育保育領域の専門性の確立や，維持向上を図るシステムについて探求しています。

木下 孝司 教授 後
発達心理学
子どもの「不思議」を通して，人間の発達の「謎」に迫る。
乳幼児や障害のある子どもの発達について，次のようなテーマで発達心理学的な研究を行っています。1)乳幼児が相互に相手の心の状態を理解するプロセス。2)子どもが他者とのコミュニケーションを経て自己を形成していくプロセス。3)保育や療育を通した発達支援のあり方と発達保障の基盤づくり。

國土 将平 教授 後
身体発育発達，保健体育科教育，健康・スポーツ測定
子どものからだの発育・運動能力の発達・健康・生活を計量的に切り取り解明する。
日本やアジアの子どものからだの発育や健康，体力・運動能力・運動動作の発達を計量学的に明らかにし，これらの相互作用を検証するとともに，教育・学習活動，生活環境や生活習慣の影響について研究しています。統計を駆使して複雑な現象を説明しますが，人間の感覚に近い観点や結果を目指しています。

五味 克久 教授 後
幼年音楽，リトミック，合唱指揮
リトミック及び幼年音楽をどのような課題でどのように指導するか。
生活の中にある音や音楽に気づくことから始めます。そして，身近にある物で簡単に音のでるものを作ってみます。音の発見あるいは音の気づき，というようなことから考えています。このようなことからどのように音楽教育や音楽の活動に繋げていくかという研究をしています。

鈴木 幹雄 教授 後
図工・美術教育学，芸術教育に関連した教育学
子どもの心に語りかける表現教育，その営みと努力
ヨーロッパの芸術教育学に関心があります。この点で，ナチズム期亡命者達によりアメリカにもたらされたヨーロッパの学問に関心があります。

目黒 強 准教授 後
児童文学，国語教育
児童文学作品を通して，子どもという存在に価値を見出す社会について考える。
明治以降，特定の子ども観が学校・家庭・社会のそれぞれの領域で発見され，相互に関連しながら，近代的子ども観を形作ってきました。このようなムーブメントのなかで，児童文学の文学場がどのようにして成立したのかについて，歴史社会学的観点から明らかにしようと試みています。

主な学位論文テーマ

- 割合概念の獲得にみられるつまずきとスキーマ形成の関連
- 時間的広がりをもった感情理解の発達
- 幼児期の絵における意図の発達 ―意味づけによる意図の持続の検討―
- 自閉症の幼児における笑いと発達 ―通園施設での観察事例の分析―
- 2歳児における葛藤場面での自己調整の発達
- 関数描画ソフトを利用した数学教育について
- 高機能自閉症児の自己認知と自尊心を育む教育的支援 ―「9,10歳の節」での自己認知の質的変化に着目して―

発達支援に関する研究分野

現場の実践者と協働した実践的研究を行う

主な授業科目

後 後期課程開講科目

- □生涯学習支援特論Ⅰ
- □エンパワメント支援特論Ⅰ
- □継続教育支援特論Ⅰ
- □ジェンダー文化学習特論Ⅰ
- □児童発達支援特論Ⅰ
- □子ども・家庭支援論
- □労働・成人教育支援論
- □ヘルスプロモーション論
- □ボランティア社会・学習支援論
- □ジェンダー研究・学習支援論
- □障害共生支援論
- □発達支援技術論
- □生涯学習支援特論Ⅱ 後
- □エンパワメント支援特論Ⅱ 後
- □継続教育支援特論Ⅱ 後
- □ジェンダー文化学習特論Ⅱ 後
- □児童発達支援特論Ⅱ 後

大学院生からのメッセージ

当たり前が当たり前ではない

青 格尔 さん（前期課程2年生）

私は中国の内モンゴルから来た留学生です。私は,中国の大学で人的資源管理専門を卒業し，その中で特に企業内人材育成に興味を持っていました。そのため，成人教育に興味を持ち発達支援論コースに研究生として入学しました。しかし，発達支援論コースに入学してから，私は今まで当たり前だと思っていた様々なことは当たり前でないことに気づかされ，「ショック」を受けました。例えば，「～だから～べき」や「～らしさ」のような日々当たり前に口にすることばは，実はその時の社会の潮流に形づくられたものだということです。このような「ショック」のお陰で，私は自分自身の出自に目を向けるようになり，修士論文のテーマを多文化教育に一変しました。

発達支援論コースは私のような留学生や社会人等の多様な背景を持つ人が集まり，また様々な分野の研究ができる「多様性」と「自由」の特徴があります。また，フィールドに出かけたり，ボランティア活動に参加したりする中で人との「出会い」のチャンスが多く，人と人との関係性のなかで大事な視点が得られます。こういった視点が，将来にもつながる大事な視点になると思われます。

スタッフと研究分野・研究テーマ

(rp) 2015年3月31日をもって退職の予定
後 前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

伊藤 篤 教授 後
子ども家庭福祉論

拠点を核とした最早期からの育児支援システムを構築し,その効果について検討します

地域における子育て支援の質を高めるための支援構造を，家庭のライフサイクル・被支援者のニーズやリスクの水準・支援主体間の協働・センターモデルなどから検討します。

末本 誠 教授 後 (rp)
社会教育，成人教育，成人学習論，ライフヒストリー

ライフストーリーを成人教育に取り入れる方法について実践的に研究します

成人が学ぶことにはどのような意味があり，どのような支援が求められているのかを，ライフヒストリーを応用することによって実践的に探究する研究を行っています。

津田 英二 准教授 後
生涯学習論，障害共生支援論

「障害」を主テーマにしながら,インクルーシヴな社会形成の実践課程を追求します

障害に関する社会的課題を切り口として，インクルーシヴな社会に向かう人々の学びの方法や過程を追究する実践的研究を行っています。

朴木 佳緒留 教授 後 (rp)
ジェンダー問題と教育・学習

「見えないジェンダー」の可視化とジェンダー平等のためのストラテジーを研究します

現代日本のジェンダー問題の特質をとらえ，ジェンダー問題克服のための学習支援のあり方や方策を追究する実践的研究を行っています。

松岡 広路 教授 後
生涯学習論，福祉教育・ボランティア学習論

「持続可能な社会」の創成プロセスにおける学びの様態を実践的・理論的に探究します

ESD推進の原理・システムを，生涯学習論および福祉教育・ボランティア学習論の観点から考究し，ポスト近代教育の枠組みの構築を目指しています。

主な学位論文テーマ

後 は博士学位論文

- 障害児の発達を促す環境形成に向けた地域資源の相互連携
- 子育て支援としての親子リズム教室の意義と可能性
- 大学を基盤とした福祉教育実践における学習者の変容プロセスに関する 一考察
- 共感的自己肯定感を育むインクルーシブ教育に向けて —特別支援学校における工業高等専門学校と高齢者小規模多機能施設のつながりを通して—
- ひとり親家庭の母の自己形成からみる就労支援のあり方 —公共職業訓練修了生のライフヒストリー研究—
- 病院ボランティア活動に内在するインフォーマルな福祉教育に関する研究 後

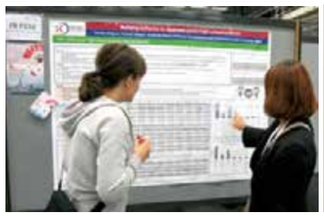
身体行動に関する研究分野

人間の行動・スポーツを科学するチームです！

主な授業科目

後 後期課程開講科目

- □身体運動処方特論 I
- □運動心理学特論 I
- □身体運動制御特論 I
- □身体システム特論 I
- □スポーツバイオメカニクス特論
- □生涯スポーツ特論 I
- □身体コンディショニング特論
- □スポーツ文化史特論
- □身体運動処方特論 II 後
- □運動心理学特論 II 後
- □身体運動制御特論 II 後
- □身体システム特論 II 後
- □身体運動技術特論 後
- □生涯スポーツ特論 II 後
- □スポーツ文化史特論 II 後



大学院生からのメッセージ

スポーツを核とした人々の結びつきが生み出す力

稲葉 慎太郎 さん（後期課程3年生）

現代社会のスポーツを取り巻く環境は，トップスポーツから市民スポーツまで実に様々です。私は，スポーツ社会学を専攻しており，特に，“生涯スポーツ”を実現するべく育成が進んでいる総合型地域スポーツクラブを焦点に当てて研究をしています。このクラブでは，スポーツをする人はもちろんですが，子どもの試合を応援する人，指導者や事務局として日々の活動をささえる人，さらに，クラブへの協賛などで応援している地元の商店や地域団体など様々な人々が関わっています。このようなスポーツ現場を中心とした地域社会との多様な結びつきが，活動をより豊かなものにしていくといわれています。私は研究を通して，スポーツに様々な人が関わることによって生み出されるソーシャル・キャピタル（社会関係資本）について探求し，実際に活動現場に好影響をもたらすことを実証することで，より豊かな地域スポーツのネットワーク形成に貢献できればと考えています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

(rp) 2015年3月31日をもって退職の予定
後 前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

秋元 忍 准教授 後
体育・スポーツ史
近代社会におけるスポーツ文化の特質を，歴史学の方法に基づき解明します。

19世紀末から20世紀初頭の英国を対象として，近代社会におけるスポーツ文化の特質を，歴史学の方法に基づき解明します。統括組織設立以前のゲームの組織化とルールの統一化の経緯，統括組織のゲーム普及戦略，統括組織非加盟クラブの活動，スポーツ用具業者の役割などを主要検討課題としています。

河辺 章子 教授 後
運動生理学（身体運動制御）
身体運動の巧みさを探る。

ヒトの身体運動の制御機構を探求し，随意動作の巧みさを探るとともに，巧みな動作の獲得過程を解明し，最終的には子どもから高齢者まで様々なレベルのスキル向上に貢献すること，そしてより適切な効率のよい練習法や指導法の開発への貢献を目指しています。

木村 哲也 准教授 後
身体システム学
様々な対象者の運動に役立てることを目標とした研究を進めます

立位バランス制御など，ヒトの運動制御システムにおける感覚入力と運動出力の統合メカニズム解明に向けた基礎的研究から，運動補助器具の開発などの応用研究まで幅広く研究を行っています。生理学，バイオメカニクス，生体工学の各手法を用いています。

髙田 義弘 准教授
運動生理学（身体コンディショニング）
運動、スポーツ活動を通じて，健康と競技力向上を目指します!!

運動・スポーツ（トレーニング）することによって疾病を予防することが出来るのか?競技力向上・障害予防のためのトレーニングとはどのような方法が最適なのか?運動による身体コンディションやパフォーマンスへの影響について研究しています。

髙見 和至 准教授 後
運動心理学
意識的に思考した行動から,無意識に遂行される行動へ,人間の行動が習慣化する不思議。

現在の研究テーマは，「運動習慣の心理的プロセス」です。人間行動の発現から定着という習慣化を生み出す心理的プロセスを，運動行動から解明しています。運動・スポーツの場合，習慣化の強さは，行動ルーティンの有無，環境刺激による動機づけ，7非遂行時の否定的感情生起などから推測できそうです。

平川 和文 教授 後 (rp)
運動生理学（運動処方論，体力・トレーニング科学）
理論と実践を結びつけたスポーツ科学の研究、活動的なライフスタイルの実現!

子どもの体力・運動能力の二極化現象の解消，ハイパワー持続能力からみた競技力向上，成人・高齢者の健康・体力増進のための運動処方を研究課題としています。研究活動の基本姿勢は，理論と実践を有機的に結びつけ，活動的なライフスタイルの実現に向けて，学際的視点を持って研究を進めることです。

前田 正登 教授 後
スポーツ技術論，スポーツバイオメカニクス，スポーツ工学
スポーツの用器具を使いこなすために
～動作研究と用具研究の交点

人間の動きや運動技術を考慮に入れたスポーツ用具とは?スポーツの動作・技術研究と用具研究を融合し，それら相互間の影響までを含めた研究は，スポーツで勝つために，あるいはスポーツをより楽しいものにするには不可欠です。選手が使いこなせる，人の動きにマッチしたスポーツ用具を考えていきます。

山口 泰雄 教授 後
スポーツ社会学，生涯スポーツ論
国内外のスポーツ振興やスポーツ政策の現状と課題を社会科学の手法により解明します。

スポーツ社会科学の理論と手法により，スポーツ参与，スポーツ政策，スポーツツーリズム，国際比較研究等に取り組んでいます。特に、スポーツ・フォー・オール（生涯スポーツ）の推進に貢献できる応用研究に焦点を当て，フィールドワークを中心に進め、国内や海外の学会・コングレスで情報発信しています。

主な学位論文テーマ

後 は博士学位論文

- 戦前期の関西圏における都市公園内野球場の設立に関する研究
- 中国における大学運動選手の社会的スキル：社会的スキルの獲得に及ぼすスポーツ経験の影響
- 発揮筋力の再現性からみた筋出力量の記憶保持に関する研究
- 上り坂を利用したスプリント走トレーニングに関する研究
- 子どもの投動作における身体各部の動きが投距離に及ぼす影響
- 総合型地域スポーツクラブにおけるスポーツ指導者のコンピテンシーに関する研究
- 縄跳び運動が子どものAcademic Performanceに及ぼす影響
- 足踏み動作におけるプリファードテンポに関する研究
- 脳内の準備的構えが筋力発揮動作に与える影響
- 野球投手の投球における主観的努力度がボール挙動に及ぼす影響
- 疾走における主観的努力度が下肢動作の左右差に及ぼす影響
- 指定管理者制度導入による公共スポーツ施設のサービスに関する研究
- アメリカンフットボールによる頸椎湾曲形態の短期的変化に関する研究 後

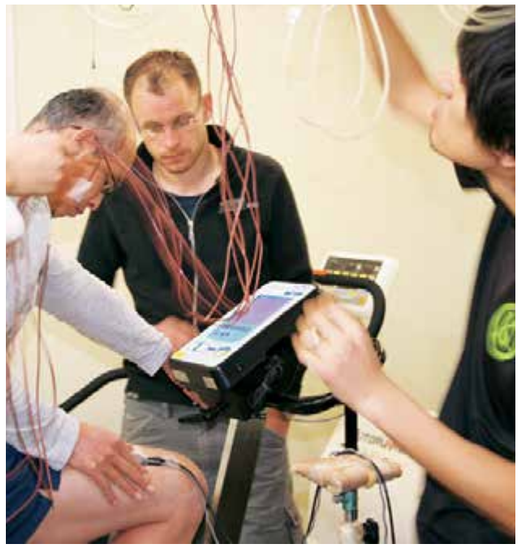
行動発達に関する研究分野

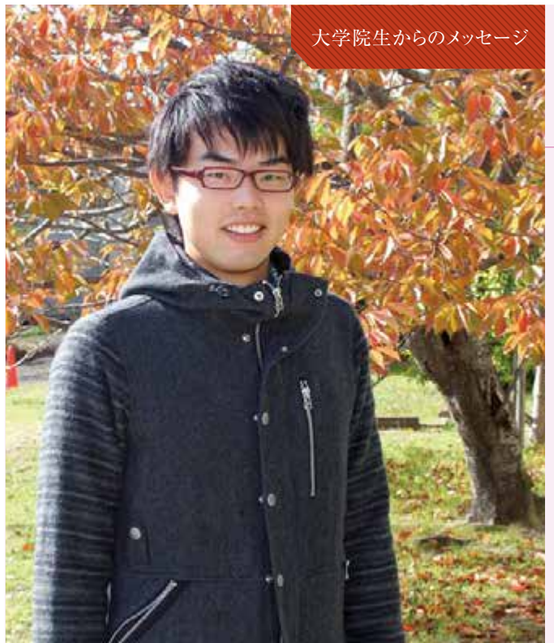
行動の発達・適応を多角的に究明する分析力と問題解決能力を磨く

主な授業科目

後 後期課程開講科目

- □エイジング特論 I
- □スポーツジェロントロジー特論 I
- □身体機能加齢特論 I
- □身体機能調節特論 I
- □行動適応特論 I
- □エイジング特論 II 後
- □スポーツジェロントロジー特論 II 後
- □身体機能加齢特論 II 後
- □身体機能調節特論 II 後





大学院生からのメッセージ

広い視野で「ヒト」を見る

国宗 翔 さん（前期課程2年生）

今日，世界中で高齢化が進行しており，「高齢者の転倒」が注目されています。私は理学療法士として医療現場で働いていますが，高齢者の活動や周囲の環境は多様化してきていることに加え，転倒する要因は様々であり，一つの側面からでは実態を十分に理解できません。このため転倒への対策や予防を目的とした研究は，自身の専門分野だけでなく広い視野を持つことが必要だと考えています。本研究科では，多様な研究が行われており，異なった視点を持つ人と意見交換をする機会が多く，今までの価値観が覆るような発見をすることもあります。私自身は障害物跨ぎ歩行における高齢者の特性を研究していますが，あらゆる観点の考え方に触れることができ，非常に充実した大学院生活を送っています。また，様々な領域に興味を持てることも本研究科の魅力の一つであり，研究を発展させてくれることはもちろんですが，人間として成長させてくれる環境であるとも思います。

スタッフと研究分野・研究テーマ

後 前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

岡田 修一 教授 後

加齢の身体運動科学

転倒予防のストラテジーと「七転び八起き」の大切さを学ぶ

超高齢社会にある我が国において，高齢者の健康に関わる大きな問題として，加齢に伴う転倒の増加があげられます。私の研究室では，身体運動科学的手法を用いて，転倒予防を視野に入れた高齢者の生活・運動機能の解析とその能力向上に関する研究，ならびにそれらの知見をもとにした介入研究を行っています。

片桐 恵子 准教授 後

社会老年学，社会心理学

豊かな高齢社会の実現を高齢者自身と社会の視点から考える

世界一の長寿国となった日本においても，高齢者が幸せに生きる社会の実現にはさまざまな課題があります。そのような社会的な課題や，高齢者自身の抱える問題について，質問紙やインタビュー調査という量的手法と質的手法を組み合わせたミックスメソッドという手法を用いて，広く深く探究することを目指しています。

近藤 徳彦 教授 後

応用生理学，運動生理学，環境生理学

統合的に調節されている汗の仕組みを知ることで人の行動を理解する

人は運動や環境変化に対してからだの様々な生理学的機構を統合することで適応しています。運動，年齢，性差，日内変動，運動トレーニング，人種差などを対象に，この統合的な仕組みを研究しています。また，その一つである人の汗の不思議を探ることで，人の行動の探求も行っています。

長ヶ原 誠 教授 後

スポーツプロモーション，健康行動科学，ジェロントロジー

生活と社会の活性化を目指したスポーツ・健康増進活動の支援方法を探求

成人・中高齢者を対象とした健康増進やスポーツプロモーションの理論・実証的研究と共に，これらのイベント開発，啓発キャンペーン事業，組織開発・運営，等のプロジェクト事業を通じたアクションリサーチを行い，個々の生活と社会のアクティベーション（活性化）の可能性と支援方法を探求しています。

増本 康平 准教授 後

高齢者心理学，実験心理学，認知心理学

超高齢化社会のさまざまな問題を心理学的側面から科学的に捉える

現在，加齢が人に及ぼす影響やそのメカニズムに対する関心が，医療・福祉・介護に限らず，さまざまな分野で高まっています。私の研究室では，豊かな高齢社会を実現するための環境・技術の構築を目指し，加齢による認知機能・行動要因の変化について実験心理学的手法を用いた研究を実施しています。

主な学位論文テーマ

博 は博士学位論文

- 空巣高齢者のサクセスフル・エイジング
- 運動トレーニングの違いがヒトの熱放散反応に及ぼす影響
- 成人・中高齢者の主観年齢に影響を及ぼす要因の分析
  ―体力年齢とスポーツ活動の関連性に着目して―
- 四川大地震極重被災地什邡市紅白鎮地域の
  高齢者の生活回復過程に関する研究 ―震災3年後調査に基づいて―
- 人工膝関節置換術施行患者における転倒リスクの経時的・多角的検討
- 二重課題を伴った高齢者の動的立位姿勢調整能 博

表現創造に関する研究分野

芸術と生活と人生を新たな視点で統合することを目指します

主な授業科目

後 後期課程開講科目

- □現代彫刻特論
- □声楽表現特論
- □器楽表現特論 I
- □現代絵画特論 I
- □音楽創造特論
- □音楽創造研究特論 I
- □音楽療法持論 I
- □舞踊表現特論 I
- □立体造形演習 II 後
- □声楽表現演習 後
- □器楽表現持論 II 後
- □現代絵画持論 II 後
- □音楽創造研究持論 II 後
- □音楽療法持論 II 後

大学院生からのメッセージ

自由な環境で，好きなことを思いっきりたのしむ!

井上 いぶき さん（前期課程2年生）

私は本研究科で，ピアノ演奏における楽器と奏者の相互コミュニケーションについて研究を進めています。これまで演奏の楽しさにのめり込んで来ましたが，その中でピアノ1台1台が持つ個性に驚いた経験をきっかけに，発達科学部で日本のピアノ製作の歴史と実情についても研究し，卒業論文にまとめました。そして，“ピアノという楽器の魅力”について更に探求しようと，大学院に進学しました。

私の場合，この研究を進めることは，ピアノを演奏することと密接な関係にあります。楽器のことをより深く理解し，楽器と奏者との関係について考察することは，自身の演奏を今までとは違った方向から見つめ直すことにも繋がるからです。このように理論と実践を両輪とした研究ができるのは，学際的で自由度の高い研究環境ならではのことと感じています。

みなさんも是非こちらに進学し，自身の専門分野を複眼的に捉えることの可能性を，存分に生かして下さい。

スタッフと研究分野・研究テーマ

後 前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

岡崎 香奈 准教授 後

音楽療法，即興演奏

人間は音・音楽を通して何を表現するのか
－音楽療法における即興の役割を探る

医療，福祉，教育現場における音楽の臨床的活用について研究しています。これまで認知症，失語症，障害児・者，不登校児等の治療に携わってきました。現在は，障害や疾病の有無に関わらず「表現者としての人間」が音楽を即興する行為と，そのプロセスで生起する要素を検証しています。

岸本 吉弘 准教授 後

絵画表現

直観と継承。絵画自身の自律性，
重要性を現代社会に問える制作と研究

主に近代以降の絵画表現を造形的な視点より分析し，それらを継承する形で現代美術や場合によっては現代社会をも俯瞰するものの，残念ながらそうした文脈下には「真のクリエイティヴィティ」は存在しない。それらに対称化される「自己≒日本≒人間」という存在を（理屈ではなく）見詰めています。

佐々木 倫子 教授 後

声楽

身体が楽器である歌。身体を通して感じ
そして考えたことを研究テーマにしてみませんか。

歌曲における朗唱法に関する研究。歌曲演奏において「語ること」と「うたうこと」の差異を心理的側面，技術的側面などから明確にしつつ，その表現法を研究し，コンサート活動という実践に繋げています。演奏はロシア・ドイツ・日本の歌曲が中心ですが，とくにロシア歌曲は私のライフワークです。

関 典子 講師

舞踊学，コンテンポラリーダンスの創作と研究

身体・空間・時間を媒体に，瞬間の共有を
目指すコンテンポラリーダンスの世界。

有限の身体や動きという儚いものを媒体とする芸術，舞踊。その「瞬間性・現在性」にこだわり，表現・研究活動をフィードバックしながら探究しています。近年，指導学生がArtistic Movement in Toyama松本千代栄賞（最高賞）等を受賞。身体のもつ力を信じる同志として，舞踊や身体表現の魅力を探究し続けます。

塚脇 淳教授 後

美術，彫刻

More is Bore! 過剰であることはたやすい。そして退屈だ!
今私は敢えて主張する。Less is More! と。

私たちは西洋から何を学び何を受け入れ何を自分たちのものとしてきたのか，20世紀美術を代表する作家や表現を様々な角度から考察・検証し，「彫刻」を思考しています。近年はロシアとの芸術交流に力を入れています。それはロシアが構成主義を生んだ国であり，私の作る彫刻にはその構成主義の精神が脈々として存在すると感じるからです。

田村 文生 准教授 後

作曲，編曲，西洋芸術音楽を中心とした作品研究

文化的パースペクティヴとスペクトラムの
中にある「音」を，書く，聴く，読む

「音」という概念には，素材，空間，技術，美意識など，様々な要素との接点が認められます。それらとの距離を測りつつ作品の創造に取り組むと同時に，「作品」として提示された価値の読み方・語り方について，個々の作品，諸芸術の動向・理論の中に手掛かりを求めつつ，探索しています。

坂東 肇 教授 後

器楽（ピアノ，室内楽）

魅力ある演奏の秘密，自由自在の境地と
自他一如の世界を求めて。

演奏は生命の響きそのものであり，人間のすべてを映し出すものです。誰の演奏にも，その人生が如実に反映されています。歴史的な名演奏家の演奏が，どのように確立され円熟してゆくのかといった研究を通して，人間の個性や人格の発達と，その演奏との相関について探究しています。

主な学位論文テーマ

後 は博士学位論文

- パウル・クレーのポリフォニー絵画における「造形思考」
- 図形楽譜を使用した子どもとの創造的音楽活動 ―音楽療法の視点を通して―
- 即興演奏の習得に関する研究
- 音楽療法における母子理論を再考する ―ケアの議論を手がかりに―
- 歌唱伴奏のピアニズム ～合唱におけるピアノ伴奏の検証を通して～
- ゲルハルト・リヒターにおける
  アブストラクト・ペインティングの変容に関する考察
- 音楽療法におけるソングライティング
  ―その情動のヴィークルとしての性格をめぐって― 後

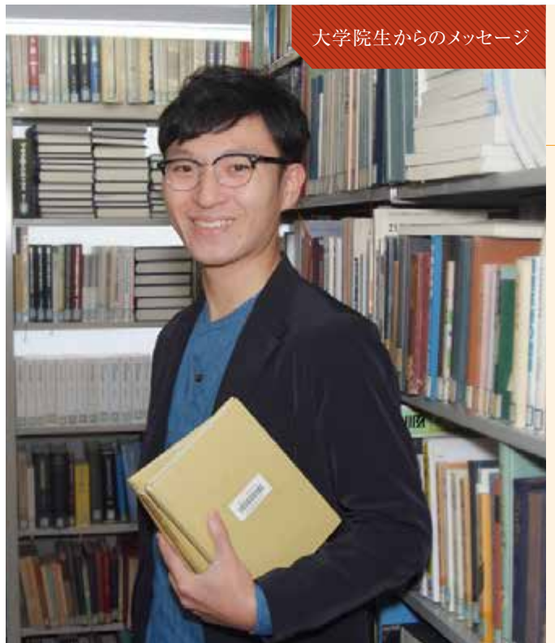
表現文化に関する研究分野

文化としての表現を，多面的に深く追究する

主な授業科目

後 後期課程開講科目

- □図形科学特論 I
- □建築文化史特論 I
- □メディア情報社会特論 I
- □ファッション文化特論
- □音楽民族学特論
- □音楽文化史特論 I
- □視覚情報表現心理学持論 I
- □図形科学特論 II 後
- □建築文化史特論 II 後
- □メディア情報社会特論 II 後
- □ファッション文化持論 II 後
- □音楽民族学持論 II 後
- □音楽文化史持論 II 後



大学院生からのメッセージ

テーマと向き合い，研究の醍醐味を知る

若山 満大 さん（前期課程2年生）

日本写真史を研究領域にしており，特に大正時代の〈芸術写真〉という潮流について研究しています。大正時代は，およそ誰もが写真を趣味として楽しめるようになった最初の時代でした。アマチュア写真家の裾野が広がる中で，一部の人々から〈写真はただモノを綺麗に写すことに終始せず，自己を表現した芸術であるべきだ〉という考え方が提唱されました。これが〈芸術写真〉という考え方です。大正時代はこの〈芸術写真〉の全盛期であり，芸術としての写真のあり方が模索され，優れた作品が数多く発表されました。私の関心は，〈芸術写真〉をめぐる諸相に出来る限り丹念に光を当てて行くことにあります。史料は未だ散在しており，未知の事柄が多い題材であるからこそ，やりがいも感じ，また知的好奇心をそそられます。未言及の史料を自分の足で探し，人を訪ね，未だ語られぬ物語を紡いでいくことこそ歴史研究の醍醐味であると感じ，日々研究に取り組んでいます。

スタッフと研究分野・研究テーマ

後 前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

梅宮 弘光 教授 後

近代建築史・都市史

建築や都市を舞台に展開する
人と世界の相互関係に時代の特質を探る

人間と世界の相互関係を表現や象徴を切り口に探求することを，表現文化研究と捉えています。なかでも建築や都市といった空間的拡がりをもった世界を対象に，近代という時代の特質を探ろうとしてきました。具体的には，日本の建築におけるモダニズム思想の生成と変容，戦後神戸の都市環境形成史などです。

大田 美佐子 准教授 後

音楽史，音楽美学

音楽はどこにあるのか?うつろいゆく音楽のメッセージを歴史の多層性のなかに読み取る。

近現代を中心に，音楽作品やその受容に表象された時代精神を読み解く作業をしています。様々な芸術領域と交流をもつ音楽作品のなかで，個人あるいは集団として，「伝統」がどのように受容，展開され，現代の作品や文化にどのようなインパクトを与えているのかを，歴史研究と音楽批評の両面から考察しています。

小髙 直樹 教授 後

感性科学，図形科学

あいまいで多義的な感性の世界に切り込む
—感性情報処理科学の挑戦

感性科学の分野においては，芸術などの創造的表現におけるあいまいで多義的な感性情報を工学的に取り扱うことができる方法を構築すること，また図形科学の分野においては，平行軸測図法と透視図法を，一つの演繹体系のもとに統一的に扱うことのできる理論を構築することを目指しています。

谷 正人 准教授 後

民族音楽学・異文化理解教育

イラン音楽の「即興」概念の解明，および音楽教授法とそれを支える価値観の変遷の研究

イラン音楽を題材に，「即興」「伝統」「オリジナリティ」などの諸概念を研究しています。最近はイラン国外に亡命した音楽家達も対象に，イラン音楽の教授法の変遷 やヴァリエーションを，近代教育の知識観・教育観といわゆる徒弟制のそれとのダイナミクスとして比較する研究をしています。

田畑 暁生 准教授 後

社会情報学，映像論

多種多様なメディアのあふれる現代の
現代の情報社会について考え，行動する。

現代の情報社会に関する理論的・実践的な諸問題を研究対象に対し，社会学および学際的な手法でアプローチしています。より具体的に言うと，情報社会論および監視社会論の思想的系譜や，映画やテレビでの映像作品の内容分析，各地で行われている地域情報化政策の効果や影響などを扱っています 。

野中 哲士 准教授 後

認知科学，生態心理学

環境とふるまいの出会いに生まれる
ダイナミックな秩序を見つめる

「表現」は環境との接点に生じるダイナミックな活動です。「環境との出会い」をキーワードに，胎内から出て地上環境と出会う乳児の発達，環境との関係を新たに築くリハビリ，職人のわざや芸術家の試みなど，豊かな環境と柔らかなふるまいの出会いに起こる出来事の凄みに触れてみたいと思っています。

平芳 裕子 准教授 後

ファッション文化論，表象文化論

服は語られることでファッションとなる。
そしてそれはいかに語られてきたか。

ファッションという領域横断的な対象に対して，現代への批評的まなざしと歴史的プロセスの解明との両輪でアプローチします。特に近現代の雑誌メディアにおける身体イメージと言説の分析を通じて，文化的枠組としてのファッションの成立過程やファッションシステムの構造と機能について研究しています。

主な学位論文テーマ

後 は博士学位論文

- 神戸市の戦災復興過程における都市環境の変容に関する研究
- バリ島の民族芸能「ジェゴグ」に関する研究
- 音楽と視覚芸術の交感 ーエリック・サティとダダイスムー
- 中国の画報『良友』（1926-1945年）のタバコと化粧品の広告に見られる女たち
- 日本のオーケストラにおける価値の戦略的再創造
  ～日米芸術環境比較とオーケストラのマーケティングに関して～
- ボールルームダンスの魅力に関する研究
  ー踊り手の属性との関連を軸にしてー 後

人間環境学専攻

人間発達を支える新たな環境の創造と持続を目指して

専攻の理念

人間の発達を促し，支え，助けるために，どのような環境を，どのように構築し，維持すればよいのか。人間環境学専攻は，この問題の解明に向けた教育と研究に取り組んでいます。博士前期課程が目的とするのは，豊富な専門知識とそれを応用する能力，そして実践行動力を有し，人間環境のいっそうの改善のために活躍できる多様な人材の育成です。博士後期課程は，人間環境に関する高度な専門学識と創造的な研究能力を備える自立した研究者，または研究能力に加えて実践的な教育開発能力をもつ大学教員などの養成を目的としています。

専攻長からのメッセージ

専攻長　平山 洋介 教授

人間環境学専攻は，人間の発達を促し，支え，助けるために，どのような環境を，どのように形成し，維持すればよいのか，という問いを立て，その解明に取り組んでいます。この課題に立ち向かうには，多様な分野からのアプローチが必要です。このため，本専攻では，人間環境としての自然を対象とし，その成り立ちを解明しようとする「自然環境論」，数理科学を基礎にして情報環境を研究対象とする「数理情報環境論」，日常生活の状況から環境のあり方を追求する「生活環境論」，社会環境に関する諸矛盾の克服を目指す「社会環境論」という四つの履修コース（前期課程）・教育研究分野（後期課程）を設けています。これに加え，後期課程には，環境先端科学講座があります。前期課程では，専門的な知識に加え，実践的な行動力をもち，政府，自治体，民間企業，NPOなどの多様な領域で活躍できる人材を養成し，後期課程では，高度な専門学識と創造性を備える研究者，大学教員などを養成します。

コースと教育研究分野

自然科学の広い視野を備えて環境の本質をとらえ，課題解決に挑む

自然環境論 コース
（教育研究分野：自然環境論） ▶P 94

情報環境に本気で取り組む人のための，数理に根ざした高度の専門性

数理情報環境論 コース
（教育研究分野：数理情報環境論） ▶P 96

生活環境の課題を発見し，分析し，解決する能力を持つ人材を養う

生活環境論 コース
（教育研究分野：生活環境論） ▶P 98

人間の発達と社会の発展を総合的に捉える新たな学問を創る

社会環境論 コース
（教育研究分野：社会環境論） ▶P100

環境科学の先端を拓く研究機関との連携による教育・研究

環境先端科学（連携）講座 ▶P102

主な進路

2012年度
- アサヒホールディングス
- アクセンチュア
- アシックス
- 石原薬品
- 栗田工業
- 日本工営
- 富士通
- 三菱電機インフォメーションシステムズ
- MonotaRo
- 岡村製作所
- サラヤ
- 生活品質科学研究所
- 日本アイ・ビー・エム
- 日本郵便
- 読売テレビ放送
- NTTコミュニケーションズ
- イオンリテール
- まちづくり研究所
- 三井倉庫
- 静岡県職員
- 福井県職員
- 大阪府教員（高校）
- 大阪府教員（中学）
- 兵庫県教員（中学）
- 兵庫県教員（高校）
- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科（1名）
- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究生

2013年度
- いすゞ自動車
- 英進館
- エド・インター
- エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ
- エン・ジャパン
- サイバーエージェント
- サンエー技研
- 水登社
- 清教学園教員
- 大和ハウス工業
- テレビ大阪
- 日清食品ホールディングス
- 日本アイ・ビー・エム システムズ・エンジニアリング
- 日本ビジネスデータープロセシングセンター
- 日本電気
- 日立住友重機械建機クレーン
- 箕面自由学園教員
- 大阪府教員（高校）
- 兵庫県教員（高校）
- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科（2名）
- 神戸大学大学院システム情報学研究科

主な取得可能な資格免許

- 中学校教諭専修免許状（理科，数学，家庭，社会）
- 高等学校教諭専修免許状（理科，数学，家庭，公民）

自然環境論 コース
（後期課程：自然環境論教育研究分野）

Course Keyword【コースキーワード】

□物質系　□自然環境の多角的理解
□生命系　□異分野との相互刺激
□高い専門性と総合力　□地球表層から宇宙まで

自然科学の広い視野を備えて 環境の本質をとらえ，課題解決に挑む

20世紀の科学は専門化，細分化を推進することによって精緻を極め，大きな発展を遂げてきました。しかしその結果として現代社会が直面したのは，気候変動，生物多様性保全，資源・エネルギー問題など，環境問題を始めとして私たちの生存に関わる複合的な科学的諸課題でした。こうした複雑な課題の解決に取り組み，持続可能な社会の構築へと向かうために，今や旧来の学問の諸分野・領域を超えた総合的な知の在り方や，異なる背景や専門性を持つ人々の連携をコーディネートできるような能力・人材が切実に必要となっています。

このような背景を踏まえて，博士課程前期課程の自然環境論コースおよび後期課程の自然環境論分野では，自然環境の成り立ちや，環境と人間の相互作用に関する基礎的研究を行う能力を有し，自然科学的立場から人間環境の具体的諸課題の解決を目指す人材を養成します。そのために，自然環境に関わる物質系，生命系，地球表層から宇宙にいたるまでの幅広く，基礎的な理解を深めるとともに，環境汚染，生物多様性を含む自然環境保全などの人間生活と密接に関係する環境問題に関して深く考究します。カリキュラムには，専門諸領域の多彩な授業科目に加えて，環境科学の大学院レベルの幅広い基礎力を修得する環境基礎物質科学，環境基礎生命科学等の科目群，先端的トピックスを取り上げる自然環境先端科学の科目群の他，サイエンスコミュニケーション演習，インターンシップなどの特徴ある科目が用意されています。これらを基盤として，特別研究や論文作成を通じて研究能力を養います。多様な領域の教員や大学院生の仲間との対話と相互作用の中で，高い専門性と総合力を培い，自然環境の諸課題に挑む意欲ある皆さんを歓迎します。

大学院生からのメッセージ

有機化学+遺伝子工学+未知への好奇心 =社会で活躍する物質

原 直己 さん（前期課程2年生）

近年の研究によりDNAは遺伝情報を担うだけでなく，触媒能をはじめとした様々な機能を持つことが分かりました。そこで私たちの研究室ではその機能性をより向上させるために，DNAに化学修飾を行った物質の設計と合成を行っています。

その一例として私たちはインフルエンザウイルスの感染を阻害する化合物を作っています。現在抗インフルエンザ薬として使用されているタミフルは，耐性を持つウイルスの出現により，薬が効かなくなる等の問題が生じています。しかし私たちが合成した化合物は，ウイルスがどのように変異しても効果を示すと見込まれています。さらにこれ以外のウイルスや病原菌に関しても，同様の方法で応用可能であると考えています。

人間環境を脅かすウイルスなどをターゲットにし，有機化学と遺伝子工学を組み合わせた研究はこの研究科ならではのテーマだと思います。いつか社会で活躍出来る物質が出来上がる日を目指して，研究に励んでいます。

スタッフと研究分野・研究テーマ

後 前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

青木 茂樹 教授後
素粒子・宇宙線物理学
ニュートリノ振動実験や宇宙ガンマ線の観測などの研究をしています。

蘆田 弘樹 准教授後
光合成酵素・代謝制御学
植物や藻類の光合成機能の解明と，その環境問題解決へ応用，特に，光合成炭素固定酵素RuBisCOに注目し，この酵素について触媒・機能発現機構，構造活性相関，分子進化など様々な角度から研究を行っています。

伊藤 真之 教授後
宇宙物理学，科学教育
人工衛星等によって得られるデータを用いた宇宙の観測的研究や地域社会における市民科学活動支援システムの構築に関する研究をしています。

丑丸 敦史 教授後
植物生態学
送粉者による花形質の進化の解明を目指し，及び送粉ネットワーク構造や水田生態系における希少種（半自然草地の草本，カエル類）の分布特性の解析も行っています。

榎本 平 教授後
分子生物学
高増殖性・高重油生産性を有する重油生産藻類Botryococcusbrauniiの開発に関する研究や遺伝子クローニング技術の開発を行っています。

江原 靖人 准教授後
生物有機化学
遺伝子を構成している核酸塩基を改変した人工核酸を合成し，試験管内高速進化法と組み合わせることにより，がん細胞，ウイルスを標的にした新しい核酸医薬を創製しています。

蛯名 邦禎 教授後
環境物理学，理論生命科学
地球システムと生命システムの時間発展ダイナミクスのモデル化と，それに基づく地球環境理解に取り組んでいます。

大串 健一 准教授後
地球環境
地球環境変動のメカニズム解明に向けた古環境研究を行っています。

齊藤 惠逸 教授後
分析化学
化学発光・蛍光を利用した物質の分析法，有機試薬を用いたイオン選択性電極の開発，ストレスマーカー測定法の開発に取り組んでいます。

佐藤 春実 准教授後
高分子化学・環境調和型高分子学
環境にやさしい生分解性高分子の構造と物性について，主に振動分光法とｘ線回折法を用いて研究を行っています。

高見 泰興 准教授後
進化生態学
生物多様性と進化に関わる性淘汰と種分化のメカニズムについて，野外調査，行動実験，形態解析，DNA解析などを組み合わせて研究しています。

寺門 靖高 教授後
環境地球化学
河川水，生物が作る鉱物，地殻を構成する岩石・鉱物などの様々な地球表層物質についての元素濃度や同位体組成を用いた地球環境の地球化学的研究を行っています。

中川 和道 教授後
放射光物性物理学，環境物理学
大気環境科学（太陽を光源とした温暖化ガスの検出など）やシンクロトロン放射を用いた生体分子の分光研究（アミノ酸やDNA分子など）について研究しています。

源 利文 特命助教
水域生態学・環境生理学
主に河川や湖沼を対象として，広い意味での生態学・環境生理学に取り組んでいます。環境DNAなど，新しい技術の開発も行っています。

主な授業科目

後 後期課程開講科目

□環境植生学特論 I
□植物多様性特論 I
□高次生命機能特論 I
□環境創成科学特論 I
□環境地球化学特論 I
□環境地質学特論 I
□宇宙環境物理学特論 I
□粒子物理学特論 I
□紫外線・放射線作用特論 I
□自然階層構造特論
□分析化学特論 I
□環境有機化学特論 I
□超分子化学特論
□環境植生学特論 II 後
□植物多様性特論 II 後
□環境地球化学特論 II 後
□環境地質学特論 II 後
□水環境科学特論 後
□環境有機化学特論 II 後
□環境遺伝子工学特論 後
□分析化学特論 II 後
□高次生命機能特論 II 後
□生体超分子化学特論 後
□環境創成科学特論 II 後
□理論環境物理学特論 後
□紫外線・放射線作用特論 II 後
□粒子物理学特論 II 後
□宇宙環境物理学特論 II 後

主な学位論文テーマ

後 は博士学位論文

- チョウセンカマキリにおける性的共食いを伴う配偶行動の進化生物学的研究
- 採草地における管理の放棄・変化に伴う植物多様性の減少メカニズム：植生高の変化による開花の制限
- 糖鎖認識能を有するフェニルボロン酸修飾dUTPの合成
- 蛍光性ジメチルフェナントロリン誘導体Cu(I/II)錯体を利用した分析法の開発
- 小型キャピラリー電気泳動システムを利用した無機陰イオン迅速分析法の開発
- 武庫川下流における重希土類元素濃縮の成因
- アミノ酸と軟X線・真空紫外線の相互作用の研究における定量性の向上とその応用
- 環境問題と関係する確率的状態遷移現象のコアモデル－人間的問題としての状態の安定性，変化の急激性，歴史の不可逆性－後
- ガンマ線天体精密観測用エマルション望遠鏡の開発と気球実験GRAINEへの実用化後

研究最前線　高見 泰興 准教授（進化生態学）

多様な生物はどのように生まれ，生き延び，そして絶えるのか

私たちは数百万種もの生物と共に地球上で暮らしています。生物は私たちにとって日々利用する資源であり，酸素を供給し気候変動を緩衝する環境であり，進化的起源を共有する血縁です。生物は長い時間をかけて地球上のあらゆる環境に適応してきました。その生き様を知ることは，私たちが今まさに迎えつつある自然環境の大変動に順応し，生き延びるための手がかりを得ることにつながるかもしれません。このような問題意識を持ち，生物多様性の起源，維持，絶滅の進化的メカニズムについて研究しています。

繁殖は，いかに多く遺伝子を次世代に伝えるかをめぐる争いの場です。雄間の競争や雌雄間の相互作用により，動物の繁殖行動はさまざまに進化します。これまでオサムシという昆虫を材料に，交尾行動や交尾器形態の多様性と，多様性をもたらした自然淘汰のかたちを明らかにしようと研究を進めてきました。交尾行動の解析と，系統樹を使った進化解析により，日本固有のオオオサムシ類の多様な交尾器は，雄間競争における攻めと守りのバランスがさまざまに変化することで生み出されたことを明らかにしました。

繁殖行動が多様化すると，互いに交配できなくなり，種が分化します。種分化は生物多様性を生み出す根源的なプロセスです。これまで，種間交配実験を通じて，オオオサムシ類の多様な交尾器が，種分化を引き起こす鍵であることを明らかにしてきました。現在は，交尾器の種間差をもたらすゲノム領域の探索と，そこにはたらく自然淘汰の解析を進めています。

現代は，恐竜が滅びた白亜紀末に匹敵する大量絶滅の時代であり，その原因は人間による環境改変です。これまで都市に生息するチョウやアリを材料に，人間活動の影響が生物集団の存続や絶滅にどのように影響しているのかを，集団遺伝学の観点から研究してきました。今後は，都市化，繁殖行動，絶滅の三者の関係について，より発展的な研究を進めていきます。

数理情報環境論 コース
（後期課程：数理情報環境論教育研究分野）

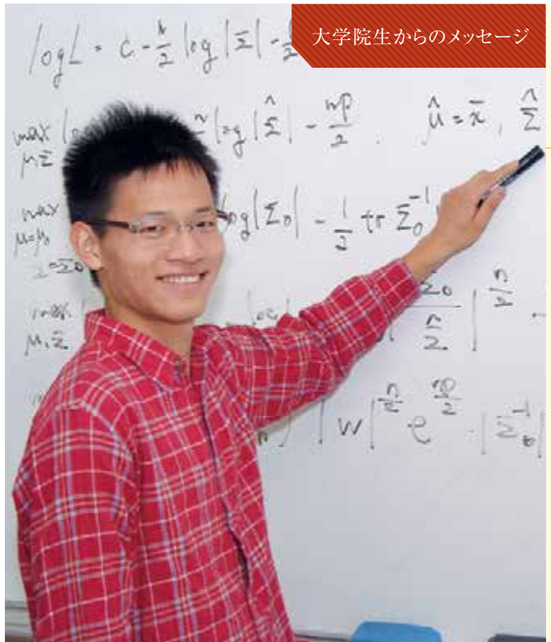
Course Keyword【コースキーワード】

- □高度化する情報環境
- □知的環境の数理的分析
- □数理科学の高い専門性
- □精度の高い問題定式化
- □創造的な情報処理
- □信頼性の高い問題解決法

情報環境に本気で取り組む人のための，数理に根ざした高度の専門性

いまや私たちの生活はデジタル情報なしには何も動かないと言っていいでしょう（あなたが見ているこのパンフレットも，印刷の直前までデジタル情報だったはずです）。多様化・高度化する情報環境への対応は，現代社会のあらゆる分野で必要性を増しています。そして情報化を推進する中で遭遇する問題に対処できる人材が必要とされています。しかしながら，情報環境のような知的環境では，場当たり的な対処はむしろ問題をこじらせることになってしまいます。さまざまなソフトウェアやIT機器を効果的に利用しながら，対象を適切に定式化して問題の解明にあたることが問題の解決に向けての重要な柱であり，さらに数理的手法の利用により，問題の定式化の精度及び解決策の信頼性を高めることが求められます。

本コースでは，このような視点に基づき，数理科学に対する高い専門性を身に付け，情報環境の多様化・高度化に対応して情報環境における諸問題に有効な解決策を提供することのできる人材を養成します。上記の目的を意識して，伝統的な数学に根ざしてはいるが，特に情報環境に関わる諸側面の解明に有効と思われる数理科学の諸分野を重視した授業科目が設定されています。学生は，これらの授業科目の履修を通して，複雑に入り組んだ情報環境に対処するための高度な数理的理論と手法を身につけます。授業科目の履修と同時に，指導教員との綿密な連携の下で具体的な研究プロジェクトを企画・実施することが要求されます。このプロジェクトを遂行する中で，理論を実際の問題の解決のために活用することを体験し，理論に関する知識を生きた素養へと発展させます。日々進化する情報環境に本気で取り組もうという学生を待っています。



大学院生からのメッセージ

情報化社会で戦う武器を仲間と共に身に付ける!

東 達也 さん（前期課程2年生）

情報化社会と呼ばれる昨今の社会情勢を鑑みて，身の回りに溢れる膨大なデータから必要な情報を集約し，適切な判断を行えるようになりたいと考え，数理統計学をより深く学び研究するために進学を決めました。現在取り組んでいる内容は多変量解析です。複数のパラメータを持つデータを統計的に解析し，推定や検定を行っていくための数理的な理論について学んでいます。研究を進めていく途中で難解な問題にぶつかることも多々ありますが，数理統計の理論を学ぶことを通じて，今まで学んできたもののどのように利用していくのか見当もつかなかった抽象的な数学が有機的につながっていく様子を実感できることがモチベーションのひとつになっています。

コースには学年や専門に関係なく，机を並べて切磋琢磨し合い，ときには雑談など楽しい時間を共に過ごすことができる仲間が多くいます。そのような環境でより充実した研究を進めていきたいと考えています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

後 前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

稲葉 太一 准教授
数理統計学，応用統計学，データ解析
統計手法は，その適用分野によって異なる側面があります。例えば医学統計の分野では，多重比較法という手法があり，その適用範囲を広げる事を研究しています。

桑村 雅隆 教授 後
応用解析学
物理学，化学，生物学などに現れる非線形微分方程式を分岐理論や力学系理論とコンピュータシミュレーションを利用して調べています。

阪本 雄二 准教授 後
数理統計学
ポアソン過程や拡散過程などの確率過程に関して，その漸近分布論と統計的漸近理論，およびその数理ファイナンス・保険数理への応用の研究を行っています。

高橋 譲嗣 教授 後
数理論理学
数理的方法全般の数理論理学的手法を用いた理論的考察，及び論証による証明を効率よく理解し，且つ正しく書くために有効な実践的知恵の体系化に取り組んでいます。

髙橋 真 教授 後
情報論理学
無限プール代数のゲーム論的性質およびモデル検査ツールを用いたシステムの信頼性検証について研究をしています。

長坂 耕作 准教授 後
計算機代数
数式処理の理論研究（主に数値・数式融合計算）とその効率的な実装方法や情報システム（主に数式処理システム）を活用した他分野への展開について研究しています。

宮田 任寿 教授 後
幾何学的トポロジー
Shape理論（局所的に複雑な図形や空間への幾何学的なアプローチの方法）とそのフラクタル幾何学への応用，様々な次元について研究しています。

主な授業科目

後 後期課程開講科目

- □統計解析特論
- □統計推測特論
- □情報数理方法特論 I
- □情報論理学特論 I
- □非線形数理特論 I
- □数式処理特論 I
- □応用幾何学特論 I
- □応用統計解析特論 後
- □非線形数理特論 II 後
- □情報論理学特論 II 後
- □情報数理方法特論 II 後
- □応用幾何学特論 II 後
- □数式処理特論 II 後

主な学位論文テーマ

後 は博士学位論文

- 捕食者の休眠を伴うratio-dependentな被食者－捕食者系について
- 多重比較におけるホルム法およびペリの方法に関する考察
- フラクタルと位相次元について
- 状態空間モデルに対するフィルタリングとその応用
- Radon-Nikodymの定理について
- 共分散構造分析における推定問題とその応用
- 定常時系列に関する逐次的アルゴリズム
- 時相論理モデル検査と状態遷移表モデル検査ツールの実装について

研究最前線　稲葉 太一 准教授（数理統計学，応用統計学，データ解析）

さあ今こそ統計解析を用いて，問題解決の専門家を目指そう!

昨今の高度情報化社会では，どうしても問題が複雑化します。そこで必要なのは問題解決の方法論と共に，情報をまとめる力です。統計解析は，情報を数値化して分析する効率的な方法論を提供してくれます。もちろん統計解析の手法を取らずに膨大なデータを逐一調べることも重要でしょう。しかし統計解析では，検出力という考え方で，いかに少ないデータ数でより多くの結論を合理的に導くかを考えて行きます。

私の最近の興味は，医学統計の分野でよく用いられる「多重比較法」にあります。多重比較法とは，臨床試験の用量設定の段階で必然的に用いられる手法であり，これが無くてはこの世に「新薬」が産まれないというほど重要な役割を果たしています。ここで検出力が高いとは，より少ないデータ数で他の手法と同じ意義のある結論を導くことを意味します。つまり臨床試験に関わる人数が最小で済むのです。臨床試験は我々が「新薬」を得るためには避けられない道ですが，このリスクに関わる人を最小限に留めることが，研究の目的となります。

このように大変意義深い「多重比較法」において，通常の検定で行われる「第1種の誤り」の確率に似た，「Type I FWE」という考え方があります。一般的に，多重比較法として認知されるためには，このType I FWEがコントロールされていることが必要です。この「正しい仮説のうちで，1つ以上を棄却する確率」を抑えるためには，閉検定手順という方法が提案されています。しかし，検定される対象が複雑に絡んでいるという背景があり，現実に提案されている手法は，必ずしも検出力を最大にするように設計されてはいません。

現在，多群の比較では決定版と言われている「ペリの方法」を研究しています。統計解析は純粋に理論的な研究ですが，改良版が実現すると，リスクが少ない「新薬開発」が可能となり，社会の効率化に貢献することができます。皆さん，一緒に研究しませんか?

生活環境論 コース
（後期課程：生活環境論教育研究分野）

Course Keyword【コースキーワード】

□生活の質（QOL）　□安全・安心
□持続可能　□生活空間
□生活技術　□生活資源

生活環境の課題を発見し，分析し，解決する能力を持つ人材を養う

現代は「流動化」の時代などと呼ばれます。いいかえれば現代とは加速度的に変化し続ける時代でもあります。そこでは日常の生活さえ刻々と姿を変えており，日々新たな課題が生じています。そこで生活環境論コースでは，私たちの生活環境を形成する生活空間・生活技術・生活資源の3領域について，今日的な課題を取り上げ，分析し，問題解決を図ろうとしています。「生活空間」領域では，住居，福祉施設，緑地，都市などの空間の実態を調べ，人間の発達や環境問題の観点から，望ましい生活空間をどのように創造すべきかを追求します。「生活技術」領域では，ハイテク繊維などの機能性製品，生体特性を計測する機器，新しいセンシング技術などが人々の発達をどのように支え，暮らしの環境にどのような変化をもたらしたのか，その実態を把握し，技術利用の方向性を考えます。「生活資源領域」では，持続可能な社会の構築に向けて，植物・食・エネルギー等の生活環境を支える資源の持続的な利用を追求するため，バイオテクノロジー，経済システム，環境・エネルギー，ライフスタイル，安全・安心の視点から分析，評価します。かくも多面的・総合的な私たちの生活環境を探求するため，本コースでは社会科学，人文科学，自然科学と，文系・理系の両方にわたる研究手法を駆使して問題を分析します。ここで学ぶことにより，皆さんは生活環境の形成に関する課題を発見，分析し，解決する能力を持つこととなります。研究者はもちろん，暮らしに関する政策の立案・運営を担う中央ならびに地方行政セクターのスタッフとして，また生活創造活動につなげる企画・実践力を備える企業活動セクターのキーパーソン，そして地域の生活と環境の課題に取り組むNPO・NGOの担い手などとして，様々な分野での活躍を目指す人々をお待ちしています。

大学院生からのメッセージ

専門性を磨くと同時に，幅広い分野も柔軟に学びます。

李　夢舒 さん（前期課程2年生）

私は日常生活における人間活動の心理面に関して興味を持っており，大学院に進学しました。現在，私はボランティア活動を通し，満足度と自己成長に関する研究に従事しております。また，ボランティア学習・教育がいかに影響を及ぼすのかという視点から，日本社会において，ボランティア活動の意識とあり方を研究しております。その中で，自分の専攻領域への理解を深めると共に，色々な人々と出会い，充実した研究生活を送っております。

大学院における研究は，学部時代と異なり，専攻領域における膨大な先行研究の上に，新たなオリジナリティーを説得的に構築することが重要です。それはもちろん容易なものではありませんが，わずかでも新しい知見に出会うのは何よりの喜びです。

本研究科は生活環境について，専門的授業だけでなく，問題解決の能力を高める実践的授業も用意されています。その学びと経験が就職や今後の研究に大きく生きてくるはずです。

スタッフと研究分野・研究テーマ

(rp) 2015年3月31日をもって退職の予定
後 前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

市橋 秀樹 教授 後 (rp)	井上 真理 教授 後	近江戸 伸子 教授 後	佐藤 真行 准教授 後	城 仁士 教授 後
植物環境学	衣環境学，感性工学	環境バイオテクノロジー	ライフスタイル論，環境経済学	生活環境心理学
植物が生活環境において果たしている多様な働きの定量的評価と，それに基づく植物を利用した快適な生活環境作りについて研究してします。	布の風合い（触感）・衣服圧・衣服内気候を，材料特性から実験的，理論的に解析し，着心地の良さをもたらす製品を設計，提案する研究を行っています。	イネ科，マメ科，アブラナ科植物，バイオエネルギー植物を対象にした植物環境学ならびに植物の新機能の開発，器官分化についての細胞・ゲノム・染色体・遺伝子の研究を行っています。	環境・資源制約のもとでの経済システムと，そのときの人々のライフスタイルの分析を中心に，生活の質と社会・環境・経済の持続的発展について研究しています。	身近な生活環境での人間活動の心理学的解明を行っています。研究者と研究対象者の協同的実践で新たな人間科学的意味の再発見に努めています。
白杉 直子 教授 後	**田畑 智博 准教授 後**	**平山 洋介 教授 後**	**福田 博也 准教授 後**	**矢野 澄雄 教授 後**
食環境学	環境システム工学	生活空間計画	生体電子計測，ヒューマンエレクトロニクス	振動工学，バイオメカニクス
茶園をフィールドとした農地の多施肥による地下水の窒素汚染低減化，および有機酸の塩味増強・抑制効果（ハエ味細胞を用いた電気生理学実験による評価）の研究を行っています。	地域，個人等，様々なレベルにおける社会・経済活動とそれが及ぼす環境影響を体系的に解析し，持続可能な社会を構築するための手法論を開発するとともに，実学への展開方法を提案する研究を行っています。	住居からコミュニティ，都市にいたる生活空間をどのように構想すればよいのか，という問題を理論と実証の双方から考えています。	温度・湿度・光強度といった環境要因をコントロールした生活空間において，いろいろな環境刺激に対する人や植物の生体電位応答について研究しています。	日常生活動作の力学的な分析や身体機能・特性の計測を行い，福祉・介護や健康科学関連の機器・用具の開発および経験やノウハウを形にする研究を行っています。

主な授業科目

後 後期課程開講科目

□生活空間計画特論 I
□機械機能応用特論 I
□生活環境心理特論 I
□植物環境学特論 I
□食環境学特論 I
□衣環境特論 I
□環境バイオテクノロジー特論 I
□電子応用機能特論 I
□生活環境共生特論 I
□ライフスタイル持論 I
□生活環境デザイン特論 I
□生活空間計画特論 II 後
□機械機能応用特論 II 後
□生活環境心理特論 II 後
□植物環境学特論 II 後
□食環境学特論 II 後
□衣環境特論 II 後
□環境バイオテクノロジー特論 II 後
□電子応用機能特論 II 後
□生活環境共生特論 II 後
□ライフスタイル持論 II 後

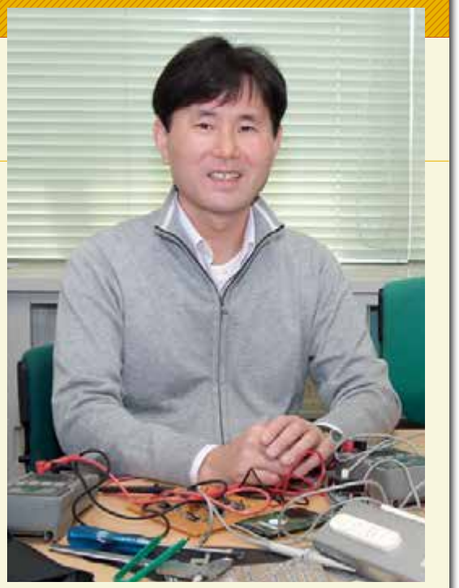
主な学位論文テーマ

後 は博士学位論文

- 住居材料の触覚・視覚評価
- 世界遺産と地域空間計画
- 生活環境におけるエコロジカルマインド評価尺度の開発とその評価
- バイオ燃料植物ジャトロファの早期開花遺伝子組換え創出に関する研究
- 犬の都市空間 －ペット飼育をめぐる分離と共存－
- 公営住宅ストック削減計画の研究
- 歩行分析のための鉛直床反力と3軸加速度の無線計測システムの構築
- 下肢筋における等尺性筋収縮時の筋出力変動が立位姿勢の安定性に及ぼす影響 後

研究最前線　福田 博也 准教授（生体電子計測，ヒューマンエレクトロニクス）

研究スタンスを柔軟にシフトさせ，ニーズを的確に捉える



工学系の研究者はややもすると，最先端の技術を持つことを誇ったり，特定の技術に没頭するあまり，その技術の使われ方や人間社会とそれを取り巻く環境に及ぼす影響については無関心になりがちです。機器開発は成功したものの，実用には供されないという残念な結果を招くこともあります。特に，日々の健康や福祉を支援する機器の研究開発では，工学系と医療・福祉系の研究者とでニーズの捉え方が違うために，開発した機器に対する評価は異なることがあります。

そのような中，私は現在，歩行リハビリテーションにおける下肢機能の評価や，術前・術後の歩行の比較分析を行うために，工学系から医療・福祉系へと研究スタンスをシフトさせ，足底が床面を押す力（足底荷重）の反作用である「床反力」を物理的または心理的制約が少ない状況で，簡単にモニタリングできるセンシングシステムの研究開発に取り組んでいます。通常，床反力の測定には，フォースプレートと呼ばれる装置が用いられるのですが，測定範囲が装置上に限定されてしまうため，移動を伴うスポーツや自由歩行の分析に利用するには限界があります。

また，フォースプレートは高価なため，歩行リハビリテーションの現場において日常的かつ手軽に使用するには，コスト面で不利です。そこで，汎用の小型フォースセンサを利用したウェアラブルな足底荷重計測用インソールを提案し，センサ出力に特別な数学的処理を施すことにより床反力を推定・導出することで性能劣化を防ぐ手法を考えました。最先端の装置やセンサ技術でなくとも，センサの利用法と装置の構造面，さらに，データ処理上の創意工夫によって，歩行リハビリテーションの現場で要求される性能を十分に引き出すことができました。現在は，ワイヤレスデータ通信も取り入れながら，装置の実用化に向けて動いています。

社会環境論 コース
（後期課程：社会環境論教育研究分野）

Course Keyword【コースキーワード】

- □グローバル化
- □地域社会
- □文化変容
- □新自由主義
- □第三世界
- □公共性

人間の発達と社会の発展を総合的に捉える新たな学問を創る

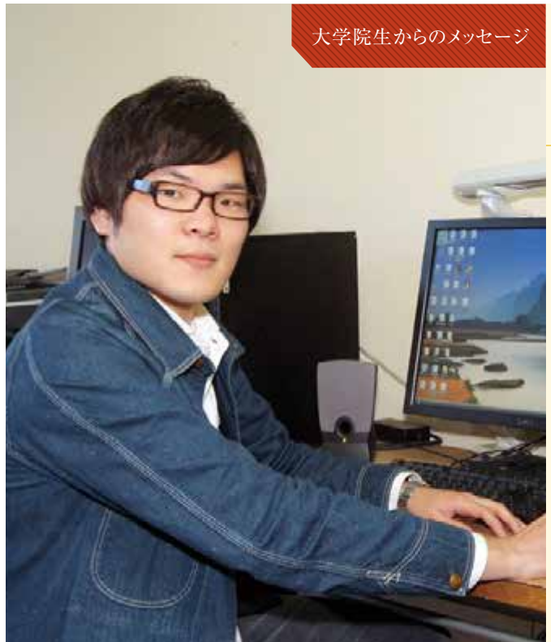
私たちの社会は多くの矛盾や問題を抱えたまま，ついにここまで来てしまった――いま，私たちは多くの場面でそう痛感してはいないでしょうか。例えば，福島第一原発事故は，電力多消費型の産業構造や都市生活の脆さと，原発さえ「誘致」せざるを得ない地域社会の苦境とをあらわにしました。世界的な経済危機はグローバル資本主義の矛盾を，政治の混迷は現代社会における公正と連帯の空洞化を露呈させています。真っ当に働いて暮らすという希望さえ叶い難く，第三世界の最も貧しい人々が先進諸国の利害に振り回される。まるで私たち人間は自らの社会を制御できないまま，破局へと突き進んでいるかのようです。

しかしその一方で，矛盾に満ちたこの社会を創りかえ，真に「発展develop」させるのも，究極的には一人一人の人間の「発達development」と社会的協働，そしてそれに基づく「類」的発展に他なりません。だとすれば，人類がその生存をかけて，危機に至った自らを問い直し，自己変革=社会変革を進めることこそ，いま最も切迫した課題ではないでしょうか。しかもそのためには，既存の学問領域（政治学，経済学，法学，歴史学，地理学，社会学…）の成果を吸収しつつその殻を破り，人間と社会を統合的に把握しなければなりません。このように，人間発達と社会発展の相互連関を解明すべく総合的な社会把握を追求する新しい学問，それが【社会環境論】です。

もちろん新しい学問の創造というチャレンジは容易ではありません。【社会環境論】はまだ羽ばたこうとする途上にあります。そしてこの新しい学問が大きく羽ばたけるかどうかは，真剣に学ぶ熱意を持った皆さんの参加と協働にかかっているのです。

ぜひこのチャレンジに参加して下さい。私たちスタッフは皆さんとの協働を願ってやみません。

大学院生からのメッセージ



学問の垣根を越えた新しい知の獲得に向けて

上田 隆太郎 さん（前期課程2年生）

私は昨年，高知大学から本研究科に進学してきました。高知大学在学中は中国残留邦人問題を社会に伝えるための活動をしていました。活動を進めていく中で，中国残留邦人問題をより専門的に研究したいという思いが芽生え，本研究科への進学を決意しました。現在は本研究科で中国残留邦人問題を研究されている先生の下，日々研究を進めています。

私の研究の目的は，残留邦人の抱える問題の本質を解明し，今後の支援策のあり方について考察することです。そのため高知県の中国残留邦人を対象に，生活史・生活過程・社会関係・社会意識に関する詳細な聞き取り調査を行い，彼・彼女達の抱える問題の本質を分析しています。

本研究科の特徴は，普段から学問の垣根を越えて様々な問題に関心を持つ院生と交流できる点です。このような環境こそ全く新しい知を発見する場になりえます。私も様々な学問から刺激を受けながら，新しい知の獲得に向けて日々研究に励んでいます。

スタッフと研究分野・研究テーマ

後 前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

浅野 慎一 教授 後	井口 克郎 講師	岩佐 卓也 准教授 後	太田 和宏 准教授 後	岡田 章宏 教授 後
社会文化環境論，社会学	経済学、社会保障	社会政策	途上国政治経済	社会規範論，イギリス統治構造論
国境を越えて移動する人々を主な対象として，歴史に翻弄されながらも，自ら主体的に新たな歴史を創り出す諸個人の生活や行為について研究しています。	人間の生活と発達を支える雇用・労働や医療・福祉制度のあり 方を研究しています。特に災害被災者の生活保障に取り組んでいます。	新自由主義的な制度改革と社会編成が進行するなかで，雇用のルールはどのように変容してきているのか，賃金問題などを焦点に研究しています。	グローバル社会の抱える諸問題を発展途上国に焦点を当てて研究しています。特に開発政策と政治構造のあり方についてを検討しています。	近現代におけるイギリス地方自治の形成と展開を検証しながら，この国の特質である住民自治をとおして公共性の内実と実現形態を検討しています。

澤 宗則 教授 後	橋本 直人 准教授	山崎 健 教授 後
人文地理学，地域社会論	社会思想，社会学史	都市地理学
グローバル化にともなう地域社会の変容，特に開発途上国インドの農村の変化，先進国の移民社会の形成について，人文地理学の視点から理論的かつ実証的に研究を行います。	近代の内在的批判を主題として，M.ウェーバーの社会理論の形成過程，またフランクフルト学派とポスト・コロニアル思想との連関を研究しています。	日本および中国の大都市・大都市圏の地域空間構造の形成と変容について，地理学的手法を用い，理論的・実証的両側面から考察研究を行っています。

主な授業科目

後 後期課程開講科目

- □都市地域構造特論 I
- □農村地域構造特論 I
- □国際社会構造特論 I
- □社会変動特論 I
- □労働社会史特論 I
- □比較社会規範特論 I
- □社会環境思想史特論
- □産業社会構造持論 I
- □都市地域構造特論 II 後
- □農村地域構造特論 II 後
- □国際社会構造特論 II 後
- □社会変動特論 II 後
- □労働社会史特論 II 後
- □比較社会規範特論 II 後

主な学位論文テーマ

後 は博士学位論文

- 長谷部恭男「穏和な平和主義」の批判的検討
- 都市圏多核化による都市内部構造の変化 ―兵庫県西宮市の事例を中心に
- ハンナ・アレント『人間の条件』再考
- 異文化間介護にみる人間発達 ―在日韓国・朝鮮人の高齢者介護を事例に―
- 現代日本における外国人の子どもの教育を受ける機会の保障に関する研究
- 中国高齢者の生活と福祉に関する研究 ―西安市での調査を事例に―
- 中国二元社会における農村社会保障 ―農村養老保険制度
- 中国における都市社会空間構造の変容 ―単位空間を中心に― 後

研究最前線　澤 宗則 教授（人文地理学，地域社会論）

ローカルな現象からグローバル化の本質を捉え直す

現在の社会は，グローバル化の視点を抜きにして語ることはもはや不可能となっています。国境を越える流動性をますます高めたヒト・モノ・資本・情報は，従来は地域に根ざしていた社会関係や時間と空間のあり方さえも急速に変えてきました。その結果，私たちの日々の生活の基盤である地域は，グローバル化した経済の急激な動きに絶えず翻弄されつつあるといえるでしょう。しかしながら，グローバル化を大きなシステムとして「一方向的」に考えたのでは，地域の差異化やここで生じる問題は決して理解することが出来ないはずです。ローカルな現象を対象にそこに働くグローバルな力を検討し，さらにローカル側からそれにどのように対抗しようとしているのかを，「双方的」に検討することがきわめて重要となってくるのです。この観点から，私は人文地理学と社会学を横断した手法を用いながら，理論的にかつ実証的に検討しています。具体的には，ローカルな存在として，先進国や開発途上国の都市や農村の地域社会，さらに国境を越境した移民たちのネットワークの形成や変化を対象に，グローバル化の本質や矛盾を論じています。グローバル化の本質や，経済格差・地域格差や貧困といったグローバル化の矛盾は，多国籍企業のグローバルな展開や活動を考察・分析するだけでなく，グローバル化した経済の末端である，先進国や開発途上国の都市や農村，さらに越境する移民労働者たちの生き様をつぶさにみて，初めて理解できるからです。これらの作業を通じて，人々が地域に根ざしながら主体的に自分たちの場所や地域を作り上げていく過程を考察しています。また，空間スケール（グローバル・ナショナル・リージョナル・ローカルの各スケール）の関係性が，グローバル化の進展とともに，どのように変化してきたのかを，開発途上国のインドや先進国のインド系移民を具体的なフィールドに設定しながら考察しています。

環境先端科学（連携）講座
（後期課程のみ）

Course Keyword【コースキーワード】

□大気環境科学　□オゾン・エアロゾル
□健康工学　□バイオセンサ
□温室効果ガス　□生体ストレス

環境科学の先端を拓く研究機関との連携による教育・研究

人間環境学専攻には，博士課程後期課程の連携講座として「環境先端科学講座」が設置されています。この講座は，体系的教育を行う大学院と環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関の連携を通じて，次代の環境科学を担う人材を養成することを目的とします。現在，大気環境科学，健康工学の2分野について，国立環境研究所，産業技術総合研究所との連携のもとで環境科学の基礎から実践にわたる教育と研究を行っています。具体的研究テーマとしては，大気中のオゾンおよびエアロゾルの生成・消滅に係わる化学過程の研究，温室効果ガス濃度の増加とその変動要因の解明，生体および環境分析への応用につながるマイクロ分析システムの研究開発，ナノバイオテクノロジーを利用したバイオセンサやマイクロ流体デバイスの研究開発と環境汚染や生体ストレス応答モニタリングの実証研究に関する研究などがあります。

大学院生からのメッセージ

“幅広い視野”と“高い専門性”を持った研究者を目指して

内田 里沙 さん（後期課程3年）

本専攻の最大の魅力は，様々な専門家が集結していることです。このことは，幅広い知識を必要とする「環境学」を学ぶ上で，大変恵まれていると言えます。しかも，決して“広く浅く”ではなく，研究者として軸となる高い専門性も身につけることができます。また，本講座では，外部機関との連携を通じて，最前線の研究に携わることができるのも魅力の一つです。

私の研究分野は，「大気化学」といって地球の大気環境を理解する上で重要な学問です。現在は，国立環境研究所（茨城県つくば市）に常駐しながら，植物から放出される有機化合物の対流圏オゾンとの反応メカニズムの解明に取り組んでいます。実験・解析・考察の繰り返しですが，これらの地道な積み重ねが地球規模の大気環境問題の解決に役立つと信じて，毎日楽しく研究しています。このように外部機関で研究するということは，貴重な経験となるので，関心がある人は是非チャレンジしてみて下さい。

スタッフと研究分野・研究テーマ

後 後期課程のみ担当

今村 隆史 教授 後	永井 秀典 准教授 後	向井 人史 教授 後	脇田 慎一 教授 後
大気化学，化学反応論，光化学	マイクロ流体工学	環境化学	環境分析化学，ナノバイオ計測工学
大気中でのオゾンや微小粒子の生成・消滅反応，オゾン層破壊機構，および大気中での化学物質分布やその変化と気候変動の関係について研究しています。	単一細胞から遺伝子を高速に増幅する技術や，イムノアッセイ及び電気泳動等の分析技術をオンチップ化したマイクロ分析システムに関する研究を行っています。	温室効果ガス濃度の増加とその変動要因の解明，人間活動による環境中の汚染物質等の物質循環や濃度変化の検出，越境大気汚染に関する科学的知見の集積に関する研究を行っています。	ナノバイオテクノロジーを利用したバイオセンサやマイクロ流体デバイスの研究開発と環境汚染や生体ストレス応答モニタリングの実証研究に関する研究を行っています。

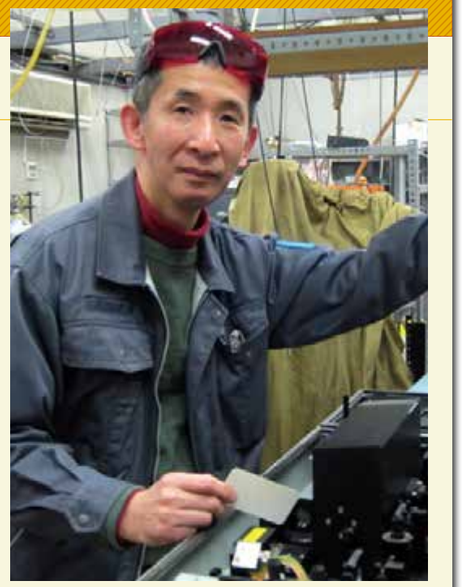
主な授業科目

後 後期課程開講科目

□大気環境科学特論 後
□大気化学特論 後
□環境ストレス科学特論 後
□生体環境先端計測特論 後

研究最前線　今村 隆史 教授（大気化学、化学反応論）

大気中で進行する化学変化を追跡する



人間や動植物の活動や地球自身の活動（例えば火山活動）によって様々な化学物質が地球大気に放出されています。放出された化学物質の多くは大気中で様々な化学反応を経験し，他の物質（二次生成物）へと変換されます。大気反応によって生成される二次生成物には，昨今話題になっているPM2.5（2.5μm以下のサイズの大気微粒子の総称）や光化学スモッグで問題となるオゾンなどが含まれ，大気の質（Air Quality）に影響を及ぼします。また，大気中の化学物質の生成や消滅は放射や大気の運動とも相互に影響を及ぼしあっています。例えば，オゾン層の存在やオゾン破壊の顕著な例である南極オゾンホールの出現も，化学変化−放射−大気の運動の相互作用が密接に関わっています。

私達は大気中で繰り広げられる化学変化と，それが大気環境に及ぼす影響を化学反応の視点から研究を進めています。その際，私達は，大気中で進行する様々な化学変化を，一括りの反応系として追跡し，そのマクロな特性をモデル化するアプローチと，反応系を構成する個々の反応（素反応）に着目して素反応に関わる固有の物理・化学量を決定し，大気中での化学変化におけるその役割を定量的に評価するアプローチを利用しています。

具体的には，人工太陽光源や様々な分析機器を併設した国内最大の光化学反応チャンバー（内容積6m^{3}の円筒状の反応容器）を利用した大気モデル実験を通して，オゾンやエアロゾルの生成効率，エアロゾルの組成や物理化学特性について調べています。一方，素反応研究では，レーザー分光法や質量分析法を利用して反応の進行を仲介する活性物質を検出し，その反応の速度や分岐に関係するパラメータを決定しています。また実験で得られた情報をもとに化学反応モデルを利用して，着目する化学反応がどんな大気条件に対して影響を受けるのか，化学物質の分布にどんな影響を及ぼすのかを評価しています。

附属組織と附属施設

ヒューマン・コミュニティ創成研究センター

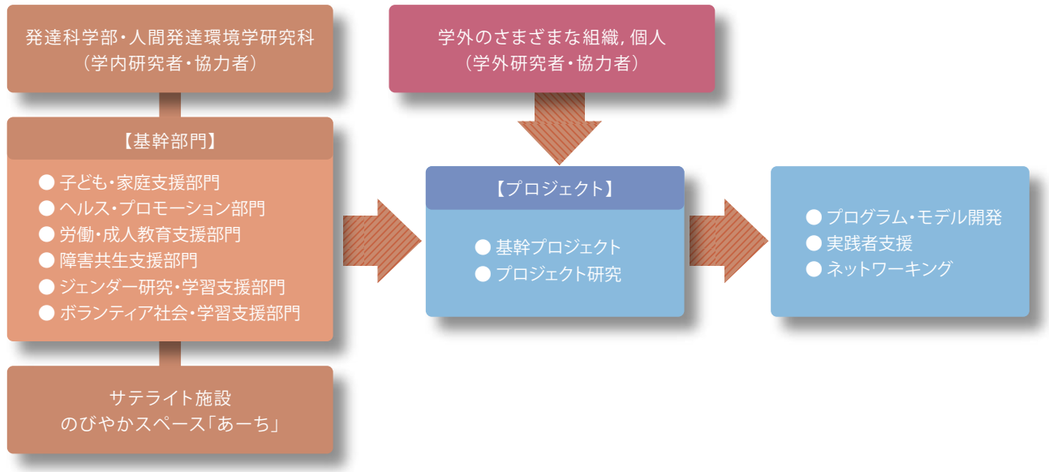
大学と地域社会の架け橋となり，人間の発達を支援するコミュニティ創りを目指します

ヒューマン・コミュニティ創成研究センター（以下，HCセンター）とは，人間発達環境学研究科内の発達支援インスティテュートに所属する機関で，実践的な研究を推進するためのセンターです。人間発達環境学研究科・発達科学部で蓄積されてきた研究成果と，地域社会の実践活動とを融合させながら，現場に即した実践的研究活動を行っています。人間の発達とそれを支える活動を行っている地域組織，NPO，NGO，企業，行政，学校等の人々と連携しながら，研究・実践を深め，人間らしさにあふれたコミュニティの創成を目指しています。HCセンターには6つの研究部門があり，6名の専任教員を中心に運営しています。6つの部門ではさまざまなプロジェクト研究が展開されています。各プロジェクトは，リーダーである専任教員と学内研究員および学外の研究員・協力員が担っています。

アクション・リサーチ　～地域や社会への参画を通して研究する

HCセンターの英語名は，「Action Research Center for Human and Community Development」です。アクション・リサーチとは，地域や社会の実践への参画を通じての研究=「行動を通しての研究」と言える手法です。HCセンターは，このアクション・リサーチの手法により，研究者と実践者のネットワークづくりも進めています。

ヒューマン・コミュニティ創成研究センターの組織と役割



基幹部門

子ども・家庭支援部門

「子育てコミュニティ」の形成を目指します

家庭および家族的機能を有する諸施設の養育活動を支援することを通して，周産期から青年までの子どもとその家族・養育者の発達を促進するための実践的研究を行います。また，「子育てコミュニティ」の形成を目指します。

●地域リソースとの連携
子育て支援をきっかけにした共生のまちづくりを目指すのびやかスペース「あーち」は学外にあるサテライト施設で，大学と地域を結ぶ架け橋の意味から「あーち」と名付けられました。ここでは地域の様々な組織・機関等と連携して，地域住民に対する多様なレベルの子育て支援サービスを提供しています。

●地域の人材育成について
小・中・高校生を対象として「赤ちゃんふれあい体験学習」を実施し，次世代を担う子どもたちに「命の尊厳や発達の素晴らしさを実感し，親になることを考える」機会を提供しています。また，各地域で子育て支援にボランティアとしてかかわりたいと希望するシニア世代を対象とした講座，保育士を対象とした講座，専門職やNPOなどの支援者を対象とした講座を開催しています。

ヘルス・プロモーション部門

健康で有意義な人生を送るために必要なライフスキルの育成を目指します

「環境づくり」と「健康教育」について研究を行っています。特に，青少年期に焦点を当てて，喫煙，飲酒，薬物乱用をはじめとする健康を損なう恐れの高い行動（危険行動）を避け，積極的に健康を増進する主体的行動を支援する健康教育プログラムの開発を，教師などの実践者と連携しながら進めています。

●ライフスキル教育プログラムの開発
喫煙，飲酒，薬物乱用，早期の性行動，不必要で危険なダイエットなどの危険行動を防止するために，ライフスキルやメディアリテラシーなどの心理社会的能力の形成を主な内容とするプログラムを開発しています。また，ライフスキル教育を，いじめ防止や非行防止などの問題にも適用する試みにも着手しています。

●ライフスキル教育の普及
開発したプログラムを普及するために教育研究会を組織・運営し，ネットワークを構築するとともに，ライフスキル教育及び健康教育の実践者を対象としたワークショップを，各種団体などと協働して，毎年全国各地で開催しています。

労働・成人教育支援部門

人は一生涯学び続ける。成人のための「学びの場」構築を目指します

人は成人になっても成人なりの仕方で成長，発達を続けることが分かってきており，それに対応した学びの場づくりが論議されています。そのような新しい社会の要請に応えて，その必要についての原理を探求しながら現場で求められる成人が学ぶ方法について，実践的な研究をしています。

●ライフストーリーの成人教育への応用
学校型の教育モデルの問題を克服するため，自分の経験を基に自分で気づいたり意味を発見，再構築したりすることを学びとする，新しい考えが生まれています。この概念「ライフストーリー」に基づいた，実践を通した開発に取り組んでいます。

● 国際的なつながりの中で
近年，世界中で成人教育という未知の領域へのチャレンジが始まっています。ライフストーリーを成人教育に応用する試みとして，先進的な取り組みをしているフランス語圏での活動と連動して，共同の研究会を開催するなどの活動を行っています。

障害共生支援部門

社会的排除のない共生社会を目指すプログラムを開発します

社会的排除のない共生社会とはどのようなものなのか，また，そのような共生社会に少しでも近づくためにはどのような実践が必要なのか，という課題に取り組んでいます。

●のびやかスペース「あーち」
さまざまな人たちの個々の日常的な課題を相互に支えあうインフォーマルな関係の形成過程に着目した研究をしています。

●「みのり」プロジェクト
障害のある人たちと学生が相互に学びあう実習機会を学内に設け，その参加者の変容過程に着目した研究をしています。

●「つむぎ」プロジェクト
障害のない子どもたちと障害のある子どもたちが学童保育で共に育つことで形成される共生関係の研究をしています。

●世界的動向との呼応
障害を社会的排除の問題として捉えようとする世界的動向と呼応して，韓国ナザレ大学と連携しつつ，障害の問題に取り組む新しい実践的研究の分野や方法を模索しています。

ジェンダー研究・学習支援部門

地域，市民社会と連携してジェンダー問題に取り組みます

市民社会の形成のための支援を行うことが大学の重要な役割の一つであると考えて，ジェンダー問題について，NPO や企業，個人と共同して学習プログラムを開発し，啓蒙活動に取り組んでいます。これを達成するため，地域で活躍・活動している学外の方に部門研究員として多数参加して頂いています。

●セクシュアル・ハラスメント防止のための教師用研修プログラム
「自分のこと」として考えるためのワークショップ型プログラムを開発し，ブックレットを刊行するなど，啓蒙活動に取り組んでいます。

●市民と行政のパートナーシップの検証
「男女共同参画施策」に関わった市民の活動を，当事者と協働しつつ，行政とともに市民が行う協働とは何かを検証しています。

●子育て中のお母さんのためのリフレッシュ講座
市民によって行われているワークショップに光を当て，その「市民力」を広げ育てるための取り組みを積極的に支援しています。

ボランティア社会・学習支援部門

人間が主体的に社会にかかわるボランティア社会の創造を目指します

社会参加・参画のひとつの方法としてのボランティア活動を，人間形成・コミュニティ形成および学習の場として考え，そのあり方や支援方法などについて，学外団体と連携しながら実践・検証します。

●ESDボランティアプログラムの開発
ESD（Education for Sustainable Development）プログラム・モデル開発として，「ESDボランティア塾ぼらばん」事業を実施しています。高校生・大学生が主役の事業です。

●福祉教育実践研究隊の組織化
京都府社会福祉協議会との協働で，「福祉教育実践研究隊」の組織化を行っています。福祉教育の実践現場を訪問し，当事者性を高める実践方法について協議しています。

●ESD推進拠点の創造
国連大学から認証されている「RCE兵庫-神戸」（Regional Centres of Expertise：ESD地域推進拠点）のマネジメントを行っており，ESDの実質化を目的に，セミナーやシンポジウムを企画運営しています。

サテライト施設 のびやかスペース「あーち」

「あーち」は，「子育て支援を契機にした共生のまちづくり」を目的にした施設です。

「あーち」は，子育て支援をきっかけにした共生のまちづくりを目指す施設です。この施設の目的は，地域と大学の連携によって，地域の数あるニーズに自発的に対応することができる地域の活力を向上させていくことです。住民の間に子育て支援を契機としたネットワークの形成を促進し，そのネットワークが相互支援関係を形成するよう働きかけます。この施設は，ヒューマン・コミュニティ創成研究センターの「子ども・家庭支援部門」及び「障害共生部門」が中心になって運営しています。

「あーち」では，遊び，アート，音楽などを通して，子どもを中心にさまざまな人たちが集うプログラムが数多く実施されています。それらのプログラムは，地域の人たちが自発的につくりあげていくものもあれば，学生たちが知恵と力を寄せ集めて実施しているものもあります。日常的な実践を通して，人と人とを結びつけ，新しい価値を創造し，ひとりひとりが人間としての輝きを取り戻すためのコミュニティづくりを目指しているのです。

「あーち」は，人々が相互に関わりあう活動の拠点であり，また学生の教育，実践モデルづくり，実践的研究の現場でもあります。その成果を評価され，1997年「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」，2009年に「神戸市市民福祉賞」，2010年に「神戸大学学長表彰」をそれぞれ受賞しました。

大学院 人間発達環境学研究科　発達支援インスティテュート

心理教育相談室

現代のようにストレスの多い時代では，何も悩まずに生きていくのは難しいものです。心理教育相談室では，さまざまな悩みを持っている方に，臨床心理学の専門の立場から相談に応じています。子どもの言葉や発達が遅れている，落ち着きがない，友達と遊べない，学校へ行きたがらない，子どもが障害を持っているなど，子どもに関する悩みや，対人関係がうまくいかない，なにもやる気が起こらない，食事がうまくとれない，自分に自信がない，家族や夫婦のことで悩んでいる，自分についてもっと知りたいなどの悩みに対する相談を受けるとともに，カウンセリング，プレイセラピー（遊戯療法），心理テストなどを通して，援助を行っています。現在，阪神間において，心理相談外来の重要な一拠点として乳幼児から高齢者まで，幅広い層の方々に利用されています。必要に応じて医療機関との連携や他機関への紹介も行っています。

また，この相談室は大学院・臨床心理学コースの臨床心理士養成の実習機関を兼ねています。心の問題が多様化している近年，相談機関や専門家のさらなる質の向上が求められていますが，専門家養成には日々の相談活動の積み重ねが不可欠です。今後も地域社会の人々に気軽に安心して利用していただける相談室であるよう，臨床心理士の資格をもつ教員と，教員の指導のもと臨床心理学を専攻する大学院生が実践・研究両面にわたり研鑽を重ねています。

サイエンスショップ

「サイエンスショップ」とは，市民社会の科学技術に関わる課題について，大学やNPOなど専門的知識をもつ機関が，市民の相談を受けて必要な情報を提供したり，調査・研究の実施または支援をしたりする組織のことで，1970年代にオランダで誕生しました。

現代社会は高度科学技術社会あるいは知識基盤社会などとよばれ，環境，医療，安全などの課題を解決しようとするとき，科学技術等に関わるさまざまな知識が必要となります。しかしその一方で，科学技術の高度化・専門化が進み，理解が難しくなり，疎遠なものと感じる人も多いことでしょう。神戸大学のサイエンスショップは，こうした背景をふまえて2007年に創設されました。

神戸は大都市であるとともに，六甲山・大阪湾など自然環境にも恵まれています。また，阪神淡路大震災を契機として多様な市民活動が芽生え成長してきた地域でもあります。このような神戸の特徴を活かして，ヨーロッパに生まれ育ったサイエンスショップを参考にしつつも，地域社会や日本の文化的風土に融和した独自のあり方，“神戸型サイエンスショップ”を創造することを目指しています。地域社会における広い意味の科学教育や，文化としての科学を地域に根づかせ，「持続可能な社会づくり」を目指して，コミュニティを豊かにしていくような科学のあり方を探ってゆきます。

主な取り組みとして，以下のような活動を進めています。

●サイエンスカフェの開催と支援

サイエンスカフェは，科学者などの専門家と一般の市民が飲み物を片手に気軽に科学などの話題について自由に語り合うコミュニケーションの場です。神戸地域でのサイエンスカフェの開催の他，西宮，姫路，伊丹，淡路，三田，豊岡，篠山，明石などさまざまな地域で，市民グループなどのサイエンスカフェの企画・運営などを支援しています。

●市民のさまざまな科学活動の支援

小・中学生から成人まで，余暇を使って科学の研究や学びを楽しみたいという人々の活動を支援するとともに，活動紹介や交流の場を提供します。

●高等学校等と連携した科学教育の普及・活性化支援

学校での課題研究を含む教育プログラムへの支援などを行っています。

●神戸大学学生の科学に関わる諸活動の支援

上記のさまざまな取組みへの参加や，主体的研究活動などを含めて，学生が企画・実施する諸活動を支援し，そのための環境を提供しています。これらを通じて，学生のみなさんの課題を発見・解決する能力，コミュニケーション能力，プロジェクトを企画・運営・実施する能力などを高めることも目指します。

キャリア形成支援

未来への一歩を発達科学部から

発達科学部では「発達（development）」「異なるものの包容」「持続可能」という言葉をよく考えますが，単に問題を解決し発展を遂げることを目標にするのではなく，課題や問題を解決することで持続的な環境を目指すことが，「ハッタツ的」考えです。

発達科学部のキャリア支援は，就職活動支援ではありません。就職活動をして，どこかの企業や組織から内定や合格を得ることをゴールにしても，未来への一歩を踏み出すことにはなりません。ゴールの先を考えることがなければ，自分の未来を切り開くことはできないからです。私たちは，一人ひとりの生き方，生きる方向性を考え，行動することをキャリア形成と捉えています。何が起きるか分からない，また何が起きてもおかしくない現代の社会では，生涯において確実で安心できる道を見つけることが難しくなっています。これからの社会で生きていくためには，自分がどう生きたいかについて立ち止まって考えることが重要です。そして，色々な体験を自分自身の経験として意味付け，目の前に広がる未来へのアプローチを考えること，考え抜いた一歩を踏み出す勇気，それらが自分自身のキャリアを形成していくことになります。

発達科学部では，今の自分と未来との間に発達科学部での経験を位置付け，さまざまな体験が可能です。未来の自分に向かうため，積極的に「ハッタツ体験」をしてみましょう。

OB・OGセミナー「ビール会社で働く」（2012年2月開催）

キャリア作成スケジュール

	目標	アドバイス
1年生	自己探索	新しい環境に早く慣れて，興味のあることにどんどんチャレンジしてみましょう。自分の未来への可能性を広げておく時期です。勉強・部活動・ボランティア活動・アルバイトなどバランスを取りながら大学生活を楽しみ，充実感を得ておきましょう。1年生後期のコース選択，2，3年生からのゼミ（研究室）選択は，進路選択の一つと考えて，自分の適性・興味・関心をふまえて決定しましょう。また将来に向けてインターンシップやキャリアセミナーなどに参加し，社会で働くイメージを身近にしておくことも大切です。
2年生	挑戦と達成	
3年生	進路の模索と選択	就職活動の準備から本番へ向かう時期です。今までの自分を振り返り，興味・関心・能力・価値観などを明確にしておく必要があります。全学部向け，文系・理系向け，発達科学部独自のものなど就職活動をサポートするためのガイダンスやセミナーが多く実施されます。情報収集が大切なポイントですから，自分が得られる支援・サポートを把握し，活用していきましょう。
4年生	進路決定	次第に進路が決定しますが，決定の時期は個人差があります。焦らず取り組む力が必要です。就職活動のゴールは，内定ではありません。自分自身が社会の中で活躍出来ることです。どうすれば自分を社会で活かすことが出来るかを考え，社会と自分をつなぐ重要な時期です。
博士課程前期1年生	研究スタイルの構築	博士課程前期の学生にとって，この時期の就職活動は，修士論文作成のための研究との両立が大変です。しっかりスケジュールを把握し，計画的に進めましょう。
博士課程前期2年生	研究を踏まえた進路選択	進路が決定すると，残りの大学生活を研究に集中できます。学生生活の集大成として研究に取り組むことになるでしょう。また博士課程後期への進路を選択する学生は，後期課程修了後の自分の進路について考えておく必要があります。
博士課程後期1年生	研究スタイルの確立	大学院の博士課程後期は，将来像を明確にした上で，選択する道です。研究者，教育者など自分の研究スタイルや具体的な活動を模索しながら研究を進めることになります。社会からは，学部卒業生，修士修了生以上に実践力を求められることになります。社会人としての基本的能力（社会人基礎力）やビジネスマナーなどをしっかり身につけておきましょう。また，自分の進路については，より積極的な行動が必要です。自分の目指す方向に関係する活動には自ら関わっていきましょう。
博士課程後期2年生	研究を活かした進路選択	
博士課程後期3年生	進路決定	

個々の個性に対応した相談

個別相談

模擬面接
エントリーシート添削

インターンシップ

キャリアサポートセンター

学生の個性に対応したキャリア形成をサポート

発達科学部キャリアサポートセンターは，A棟1階D-Roomの西側にあり，そこでキャリア形成支援を行っています。「自分の人生をどう生きるか」を考えるプロセス，そのものをキャリア形成と捉え，新入生から大学院生にいたるすべての学生を対象として，就職活動の支援だけではなく，現在から将来へ，学生自らが勇気を持って一歩を踏み出すサポートを行っています。

キャリアサポートセンターでは，キャリア形成や就職に関する各種資料を閲覧できます。資料は，キャリアに関する書籍，教員採用試験に関する過去問題や資料，求人票，公務員試験に関する資料，就職活動に関する書籍などを揃えています。また，キャリアに関するセミナー，ガイダンスでは，企業説明会や就職活動トレーニングなど就職活動に役立つ内容だけではなく，キャリアセミナーやOB・OGセミナーなど長く将来にわたって有益な内容のものを検討し実施しています。キャリア形成に関する個人的な悩みや疑問，就職活動におけるエントリーシート添削・模擬面接には，専任のキャリアデベロップメントアドバイザー（CDA）が親身に対応しています。ここでは，学生が自分自身について深く考える時間が持てます。

一人ひとりの進路・職業選択に関連したきめ細かい支援を提供し，発達科学部の学生の個性に対応したキャリア形成を強力にサポートしています。

啐啄（そったく）の機を迎えるために

田中 美惠 キャリアディベロップメントアドバイザー

啐啄（そったく）の機とは，雛がかえろうとするとき，雛が内からつつくのを「啐（そつ）」，母鳥が外からつつくのを「啄（たく）」といい，禅においては，師家と修行者との呼吸がぴったり合うこと。機が熟して弟子が悟りを開こうとしているときをさし，得難いよい時機という意味です。

大学生活は，人生の中では社会に出て行く一歩手前に位置付けられます。大学または大学院を卒業すると多くの人が社会人としてスタートすることになります。社会からの呼び掛けに応えるわけです。皆さんが，社会人になろうと必死になる，社会も皆さんを受け入れるために準備を進める，就職活動は，そのような見方をすると「啐啄の機」という言葉がぴったりです。また就職活動に限らず大学生活では，今までの自分の殻を破ることが必要でもあり，自分の中でも湧きおこってくる欲求でもあると思います。ゼミで部活でアルバイトで，今の自分に満足せず新しい世界に進みたいと思った時，その場面，場面が「啐啄（そったく）の機」になり得ます。

キャリアサポートセンターでは，今の自分の殻を破りたい，と思っている皆さんのことを準備を整えて待っています。

教員採用試験対策セミナー・ガイダンス

主に教員を目指す学生を対象に「論作文」「教育時事」「面接試験」などの対策セミナーをシリーズで開催するほか，教員採用試験合格者有志による座談会のサポートも行っています。また教員ＯＢセミナーとして「教員免許と大学院そして教師としての生活」を開催しました。

OB・OGセミナー

本学部・研究科の卒業生・修了生に、ご自身の学生生活や進路決定から卒業後の様子まで体験を踏まえたお話をうかがいます。2013年度は「企業で働くこと」「就職活動を乗り越えて僕が伝えたいこと」などを開催しました。

キャリアセミナー・ガイダンス

皆さんの学生生活も含めこれからを考えるキャリアガイダンスを初年次から行っています。「進路選択オリエンテーション」「女性の働き方講座」「先輩から次世代を担う若者へのメッセージ」など多彩に開催しています。

企業説明会

特に現在人事として活躍しておられるOB・OGの方からの企業説明会の開催に力を入れています。人事担当の方に直接質問できる機会です。2013年度は関西の様々な企業を集めた「神大学内業界研究セミナーin発達」も開催しています。

就職活動支援セミナー

就職活動を直前に控える学生に対して、専門家を招き、就職活動に必要な知識やノウハウなどに関するセミナーを開催します。様々な「就職活動支援セミナー」や他大学とコラボレーションした「合同グループディスカッション講座」も開催しています。

インターンシップ

インターンシップは企業や官公庁で就業体験できる制度です。1年生から参加できるこの制度をより活用出来るようにビジネスコミュニケーション・マナー研修などを開催しています。

発達キャンパス

01 A棟・E棟

人間発達環境学研究科・発達科学部の正門に入って正面に見えるのがA棟です。1階にはD-Room,HCセンター,キャリア・サポートセンターが,2階には図書館と事務室があります。事務の中でも教務学生係は,授業科目の履修,試験,成績,進級,卒業などに関する事項や教育実習,教員免許・各種免許に関する事項,さらに学生生活に関することを取り扱っています。また,授業料免除や奨学金,各種証明書の発行,施設の利用案内や留学に関することなども取り扱っていますので,足を運ぶことが多い場所です。3階から7階までは教室や実験室,研究室になっており,ゼミ配属が行われる3年生以上になると利用することが多くなるでしょう。

6階にあるカフェ「アゴラ」は憩いの場です。その眺望は必見。

E棟はA棟の西側と通路で結ばれている建物で研究室のほかサイエンスショップの部屋があります。

02 B棟

正門から入って西側のタイルモザイクが壁に施されている棟がB棟です。この壁画は人間表現学科の岸本吉弘先生の創作によるもので ROBIN(FOR DOR)と名付けられています。「ロビンとはヨーロッパコマドリのことで, この鳥には古くから献身的利他的な伝承が数多くある。腹部あたりの鮮やかな赤色はその恩恵により生じたもので, 自らを最高に美しく彩る。ロビンの如き若き実践者にこの作品を贈りたい。茶は大地, 青は天空を表し, 重層的な構図は知の蓄積を示唆する。此処で生まれ出る叡智が実践として無限にまた永遠に拡がらんことを切に願う。」との銘が刻まれています。

1階にはテラスのようにテーブルとイスが置いてあり, 授業の合間に友

達と雑談を楽しんだり, ミーティングをしている学生がたくさんいます。その奥には中庭があり, 季節に応じて草木や花の香りを楽しむことができます。大教室から演習室までさまざまな教室のあるB棟は教室棟とも呼ばれています。

03 C棟

主に人間表現学科の学生と音楽関連のクラブをしている人が利用します。音楽棟でもあるC棟には研究室やピアノのある個室などがあります。

04 D棟

人間行動学科の学生・教員が主として利用しており, 人間の行動をいろんな手法で分析する実験室や研究室があります。

05 F棟

F棟には, 大小の教室, 研究室, 演習室の他, 1階には鏡張りの身体表現スタジオや情報教育設備室(RIE), 4階には絵画室があります。

1階と2階をつなぐ吹き抜け空間も心地よく, 研究・勉学・創造の活力に満ちた環境です。

06 G棟

理系の先生方の研究室と実験室が並ぶG棟は南側にビオトープ, 棟の入口には動物の剥製などが置いてあります。

07 体育館, プール

体育館, プールともに2010年に改装されて, 明るくきれいになりました。体育館にはトレーニング室, シャワー室が整備され, 使用することができます。更衣室もきれいになって, クラブ活動で頻繁に使う学生たちの評判も上々です。無線LANも整備されていますので, 研究する上でも便利になりました。

阪急神戸線「六甲」駅,JR神戸線「六甲道」駅,阪神本線「御影」駅のいずれかより,神戸市バス36系統「鶴甲団地」行き(「鶴甲2丁目止」行きでも可)に乗車し,「神大発達科学部前」バス停で下車してください。
発達科学部・人間発達環境学研究科は,バス停より徒歩すぐにあります。

施設紹介

08 食堂・売店

各種定食や麺類・どんぶり・カレーなどだけでなくバイキングの昼食があるのが特色となっています。自分でほしいおかずをお皿にのせてレジに持っていくと重さによって値段が決まるのですが，日によってたとえば333gとか222gなどの3ケタの数字が同じになると無料という企画が人気です。何も考えないで好きなものをお皿にのせて持っていったら333gで無料になったという経験者もいて，学生にとってはちょっとしたお楽しみになっています。外にテラス席もあり，団らんの場所となっています。このキャンパスにある大学生協の売店と食堂の特色は，とにかく働いている方々が優しいこと。学生の憩いの場です。

09 図書館（人間科学図書館）

人間発達環境学研究科・発達科学部には神戸大学附属図書館のひとつ，人間科学図書館があります。館内の開架閲覧室には，教員による推薦図書や教科書，辞書・辞典や地図などの参考図書が並び，新着図書や雑誌のコーナーがあります。研究内容に対応した幅広い分野の図書，雑誌，AV資料などを所蔵し，学術的に貴重な図書や分野ごとの図書は三層の書庫に配架するなど，勉強・研究を行う上で使用しやすい配置になっています。閲覧室には個人用のデスクやグループで利用できる学習室が用意され，また情報検索コーナーのPCからは図書館のWebサイトを使って，情報を検索したり，Webページを閲覧したり，電子使用することができるようになっています。無線LANも利用でき，視聴覚資料のDVDなどもAVブースで視聴できます。レポート作成や論文作成の強い味方です。

図書館では専門ごとに文献検索ガイダンスを開催するなど，学部生・大学院生の学習・研究を強力にサポートしてくれています。

10 情報教育設備室（RIE: Room for Information Education）

RIE（リエ）と呼ばれるこの施設は，自由にPC（iMac）を利用できる教室です。この教室で授業も行われますが，レポート作成や印刷にも使用できます。PCに詳しいスタッフが待機していますので，もしトラブルが発生しても安心です。PCやネットワークに関すること，神戸大学キャンパスの各所で使える「全学用無線LANサービス」の接続方法など，何でも気軽に相談することができます。

11 D-Room（発達ホール）

A棟正面玄関横に，D-Roomという愛称で呼ばれる，学生や一般の方向けに開放されているスペースがあります。本学部・研究科の行事予定やお知らせが流れているスクリーンもあり，友達とおしゃべりをしたり，昼休みにお弁当を広げて食事をしたり，グループでミーティングをしたり，ノートパソコンを持ち込んでレポートを書いたり，いろいろなことに利用できるフリースペースとなっています。

12 カフェ「アゴラ」

“アゴラ”とは政治や哲学について自由に議論する市民生活の中心の場を示す古代アテネの言葉です。A棟の6階に位置し，大阪湾と神戸の街並みを一望することができます。お昼前から夕方にかけて開店し，学生たちや先生方の交流スペースとして活用されています。このカフェは一般の方も自由に出入りできますので，大学と社会の架け橋ともいえる場になっています。

ここでは，障がいのある人たちがスタッフや実習生として働いており，実習生にとっては職業訓練の場，対人支援に関心をもつ学生にとっては支援実践の場にもなっています。

マスターの淹れるコーヒーは絶品。抜群の眺望を楽しみながらゆったりとした時間を過ごすことができます。

13 実習観察園

本学部の南西にあるバス通りに面したところに実習観察園があります。植物栽培に関する教育・研究を行う施設です。授業では，教室での座学だけでなく，この実習観察園において作物，野菜，花卉，果樹の栽培と管理に関する実習を受けることができます。また，本学部・研究科の建物周辺の環境を整備するために，玄関やアプローチの花壇の維持管理も担っています。温暖化防止策としてその有効性が注目されている屋上緑化や壁面緑化に関する研究，さらに，野菜栽培を通じて障がい者が社会とかかわることを目的とする「みのりのプロジェクト」などの地域連携活動もなされています。